

348
103

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18
60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

始



34.6 25

21

岡山
田野
綠好
風恭
共編



東京炭界一百人

東京帝國新報社發行

大正
2. 11. 27
丙交

例言

一、或人、本書發行の豫告を見て編者に告げて曰く、「京濱の炭界に於て一百の人士を物色し記録せんとするは餘りに無謀なり、通觀するに此地方の炭界にて稍々粒立ちし人士幾千ありや、影法師にても加ふれば或は百人に達せんか」と、洵とに其人の言の如く若し京濱の炭界より所謂名士若くは成功者を選抜せば、其數半百にだも及ばざる可し、然れども、茲に『炭界一百人』と題したるは炭界の名士成功者一百人を網羅せりと云ふに非ず、單に京濱の石炭業者中より主なる人々を集めて、帝國新報二百號紀念の微意を布くと謂ふに外ならざる也

一、總ての事業は、有名者と無名者との結合協力に依りて營まる、他の言葉を藉りて云へば勢力と努力、資本と勞働との調和に依ざれば成果を贏ち得ざるなり、一將功成萬骨枯、若し近眼皮相なる歴史家の如く、凱旋將軍の赫々たる武功にのみ筆を走らして、萬卒の慘憺たる苦心を閑却せば、有名者無名者を合せ傳へんとする『炭界一百人』は或は無用の閑文字ならむ、而も、顯晦二方面に於る當事者結合協力の状態が、實際の事業を織成せる経緯たる以上は、其二方面の人士を合せたる本書の發行は、決して徒爾に非ざる可し

一、帝國新報社の本意は、必らずしも本書に依りて炭界の名士成功者を傳へんとするに非ず、又必らずしも無名士の爲に氣を吐かんとするに非ず、要は、有名と無名と即ち地位經歷の如何を問はず、現在の京濱兩地に於て實際の石炭事業に當り、専ら炭界に馳驅して輸贏を争ひつゝある、當面の活動家を網羅し、以て取引關係ある地方同業者の參考に供し、一は後世の人士に大正劈頭の京濱炭界の中堅を傳へんとするにあるのみ

一、以上の趣意に基きたるが故に本書は主として京濱兩地の同業組合を中心とし、其の輪廓に隨つて取材の範圍を定めたり、之を他方面より見て妥當を缺き、若くは記述に漏たる人ある時は、第二版以下に於て補遺訂正を加ふるに吝ならざる可し

一、記載諸氏の排列は、當初イロハ順に依る筈なりしも、訪問の前後及び印刷の都合にて、豫期を果す能はず、止むなく次第不同と

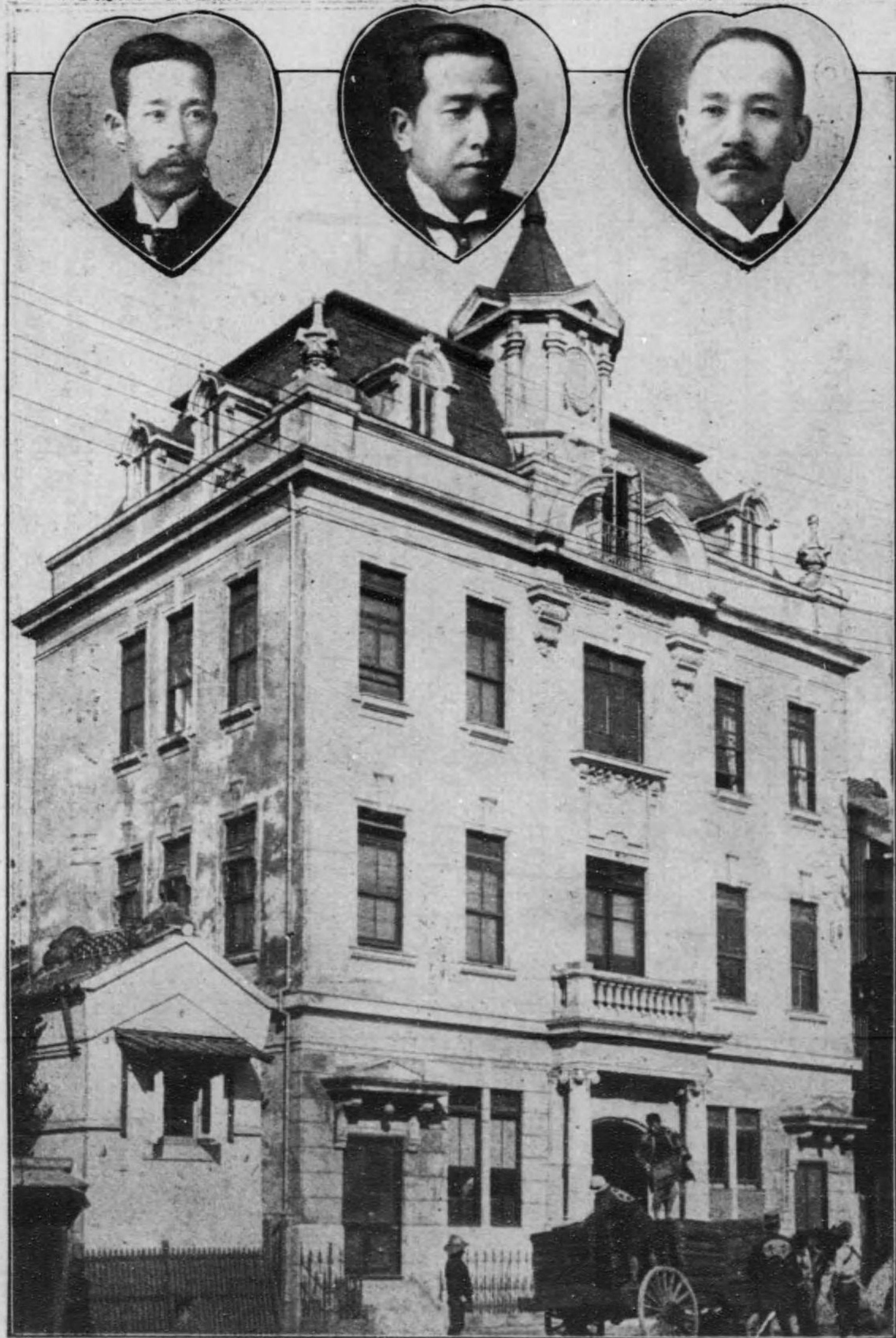
長組副
君樹正部岡
所賣販同共炭煙無城茨



長組
君市吾部阿



長組副
君郎二爲藤加
部炭石藤加社會資合



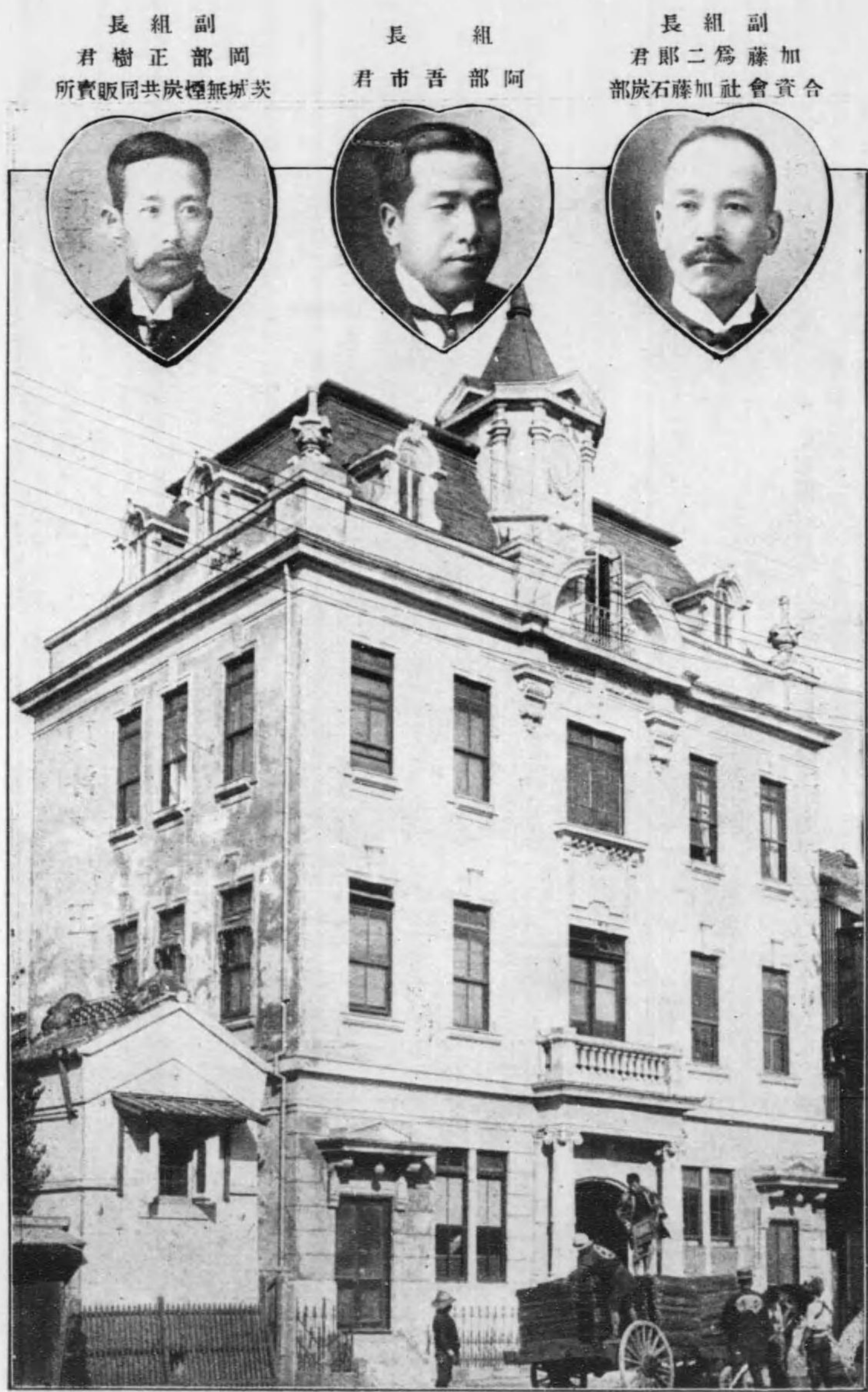
所務事合組業同炭石京東

し、原稿執筆を終る毎に製版所に廻す事としたり、其の前後には素より軽重高下の意味あるに非ず、此點は特に諸君の諒を乞ふものなり
一、本書の編纂に當り、多數の先輩社友各位より有益なる注意及助勢を與へられ、且つ社友吉岡香山君を勞したる事影からず、茲に記して深謝の意を表す

大正二年十一月

東京 帝國新報社に於て

編者誌



長 組 副
君 樹 正 部 岡
所 賣 販 同 共 炭 煙 無 城 茨

長 組
君 市 吾 部 阿

長 組 副
君 郎 二 爲 藤 加
部 炭 石 藤 加 社 會 資 合

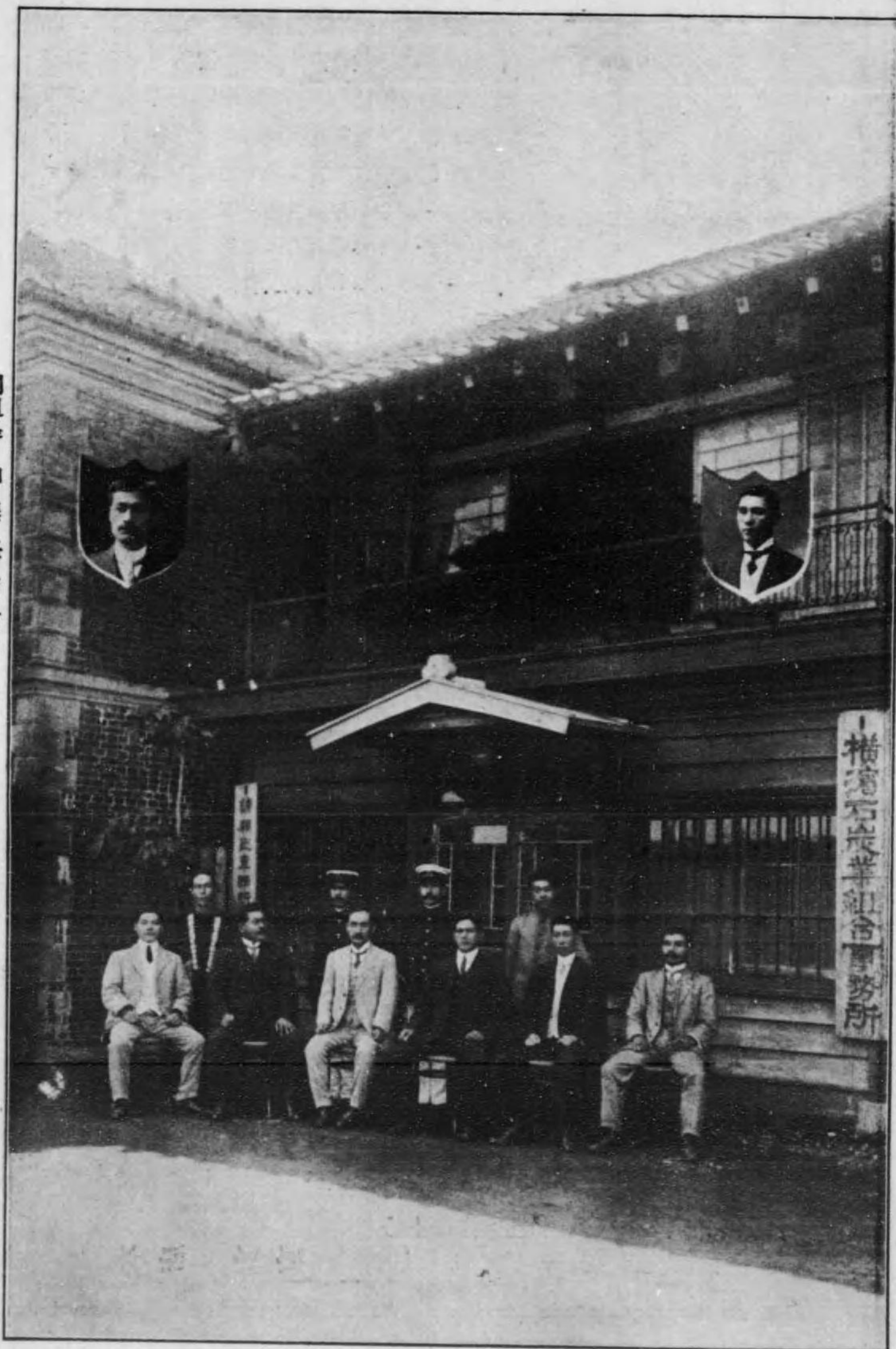
所 務 事 合 組 業 同 炭 石 京 東

し、原稿執筆を終る毎に製版所に廻す事としたり、其の前後には素より輕重高下の意味あるに非ず、此點は特に諸君の諒を乞ふものなり
一、本書の編纂に當り、多數の先輩社友各位より有益なる注意及助勢を與へられ、且つ社友吉岡香山君を勞したる事影からず、茲に記して深謝の意を表す

大正二年十一月

東京 帝國新報社に於て

編 者 誌



副組長 加藤甚吉君

組長 中垣 保君

横濱石炭業組合事務所

◎星印スコップ、シヨベルハ價格低廉ニシテ堅牢ナリ



スコップ
シヨベル
土工具類

製造販賣

◎星印スコップ、シヨベルハ東洋ノ霸王ナリ

東京本所區向島之中郷町

合資社會吾妻鐵工所

電話本所二〇〇三番

振替口座東京一八二九四番

本店 東京市京橋區三十間堀二丁目

(電話新番八四二八四三、一三七番)

大坂支店 大坂西區立賣堀北地六丁目

(電話番二六二番)

九州支店 福岡縣鞍手郡直方町

(電話二二二番)

磐城陸北
出張所
所張出
所張出
所張出

福島縣石川郡
津金町
下松原二丁目

福島縣
津金町
下松原二丁目

福島縣
津金町
下松原二丁目

福島縣
津金町
下松原二丁目

福島縣
津金町
下松原二丁目

福島縣
津金町
下松原二丁目

福島縣
津金町
下松原二丁目

福島縣
津金町
下松原二丁目

營業概目

●クイナローフ、

マニラローフ(東

京製鋼株式會社代

理店) ●捲揚機械

及唧筒、捲炭機旋

風機及鑛山機械壹

式(幸袋工作所代

理店) ●捲揚機械及

唧筒 伊勢鐵工所

代理店) ●炭車客貨電車、カストムナ

ル車輪(崎造船所代理店) ●チルF車

輪及鑛山機械(大塚工場代理店) ●モ

トル及電氣機械(明電會總代理店) ●耐

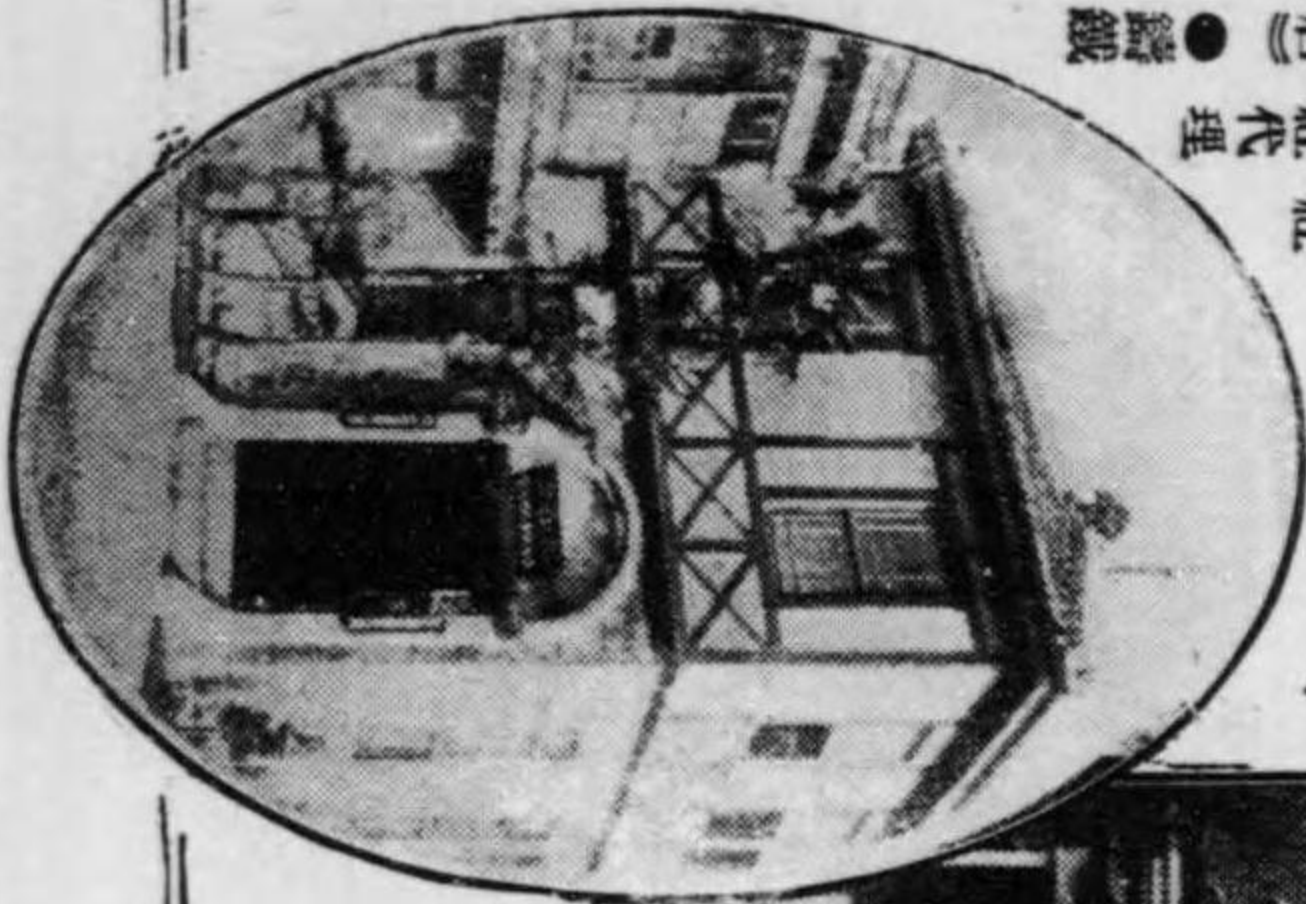
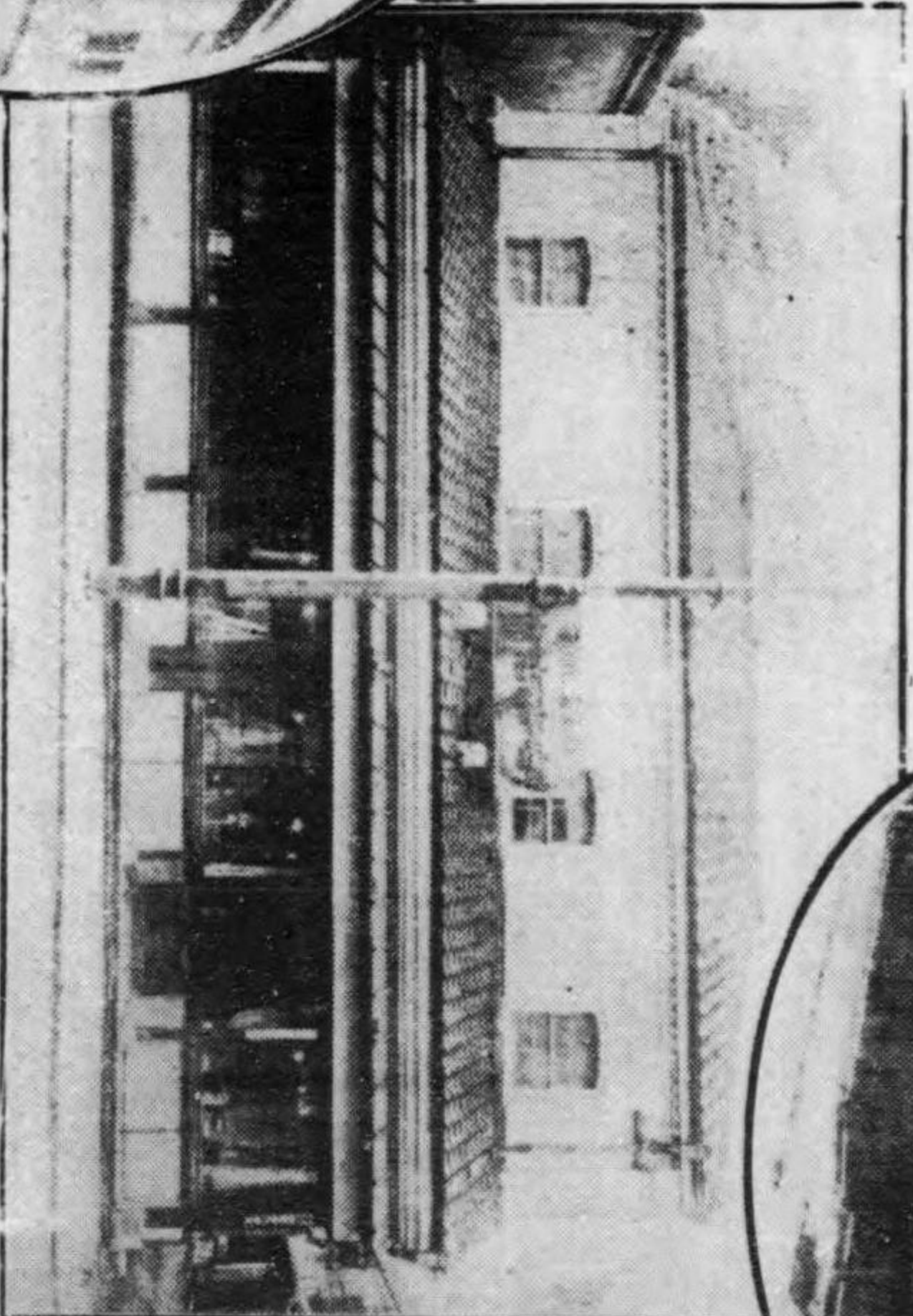
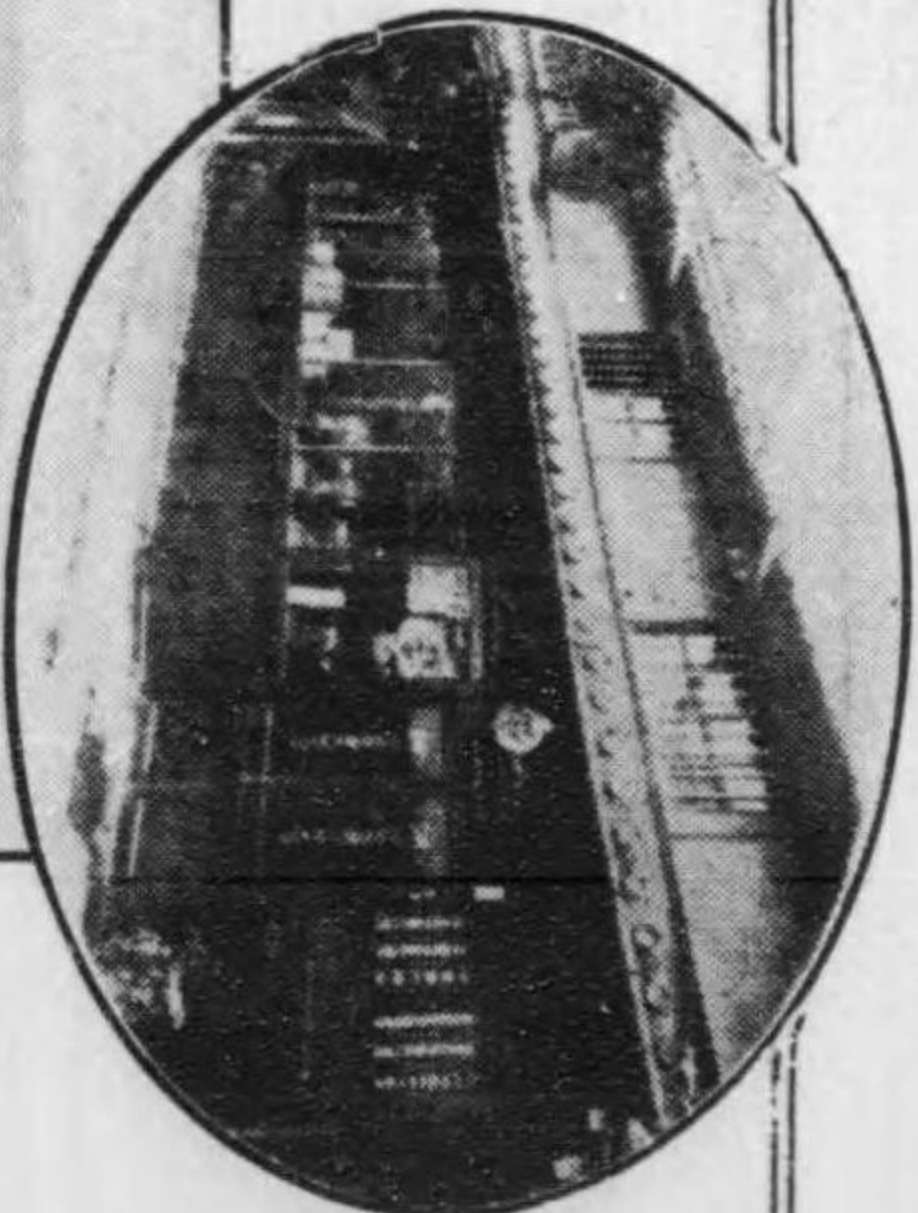
火機瓦及裝飾煉瓦(日本窯業株式會社代

理店) ●護謨製品壹式 東洋護謨株式會社

總代理店) ●金網壹式(大阪金網合名會社代

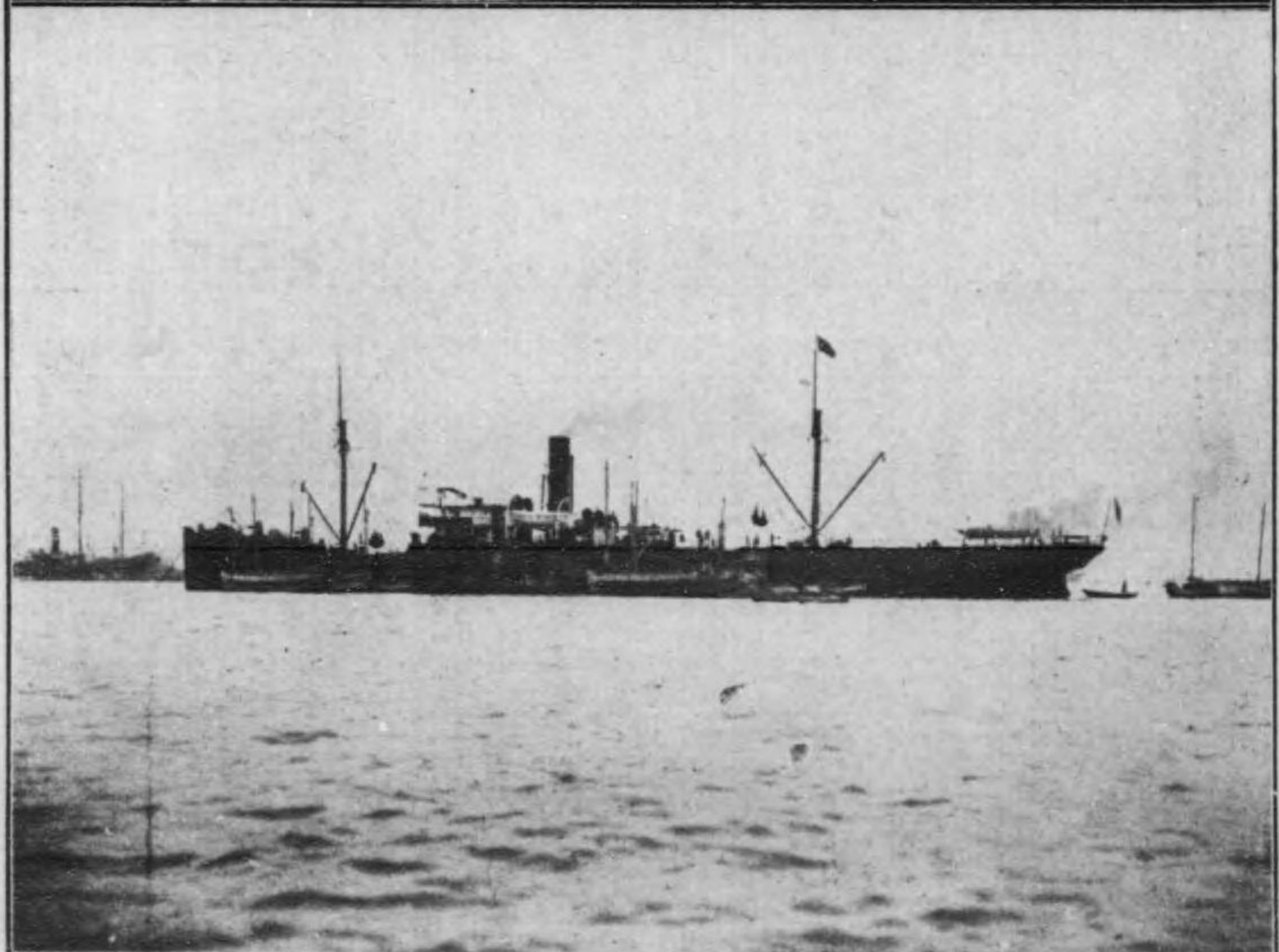
店) ●皮革調帶(日本皮革株式會社代理店) ●鋼鐵

パイプ(永瀬鐵工所代理店 其他各種工業用品



東京市京橋區三十間堀二丁目

横濱港内石炭本船積卸の景



東京市三田區三田港の積卸の景

防 水 靴 用 ク リ ム
ヘ ラ リ ヤ

登 録 商 標



付 込 プラ

案 新 用 實

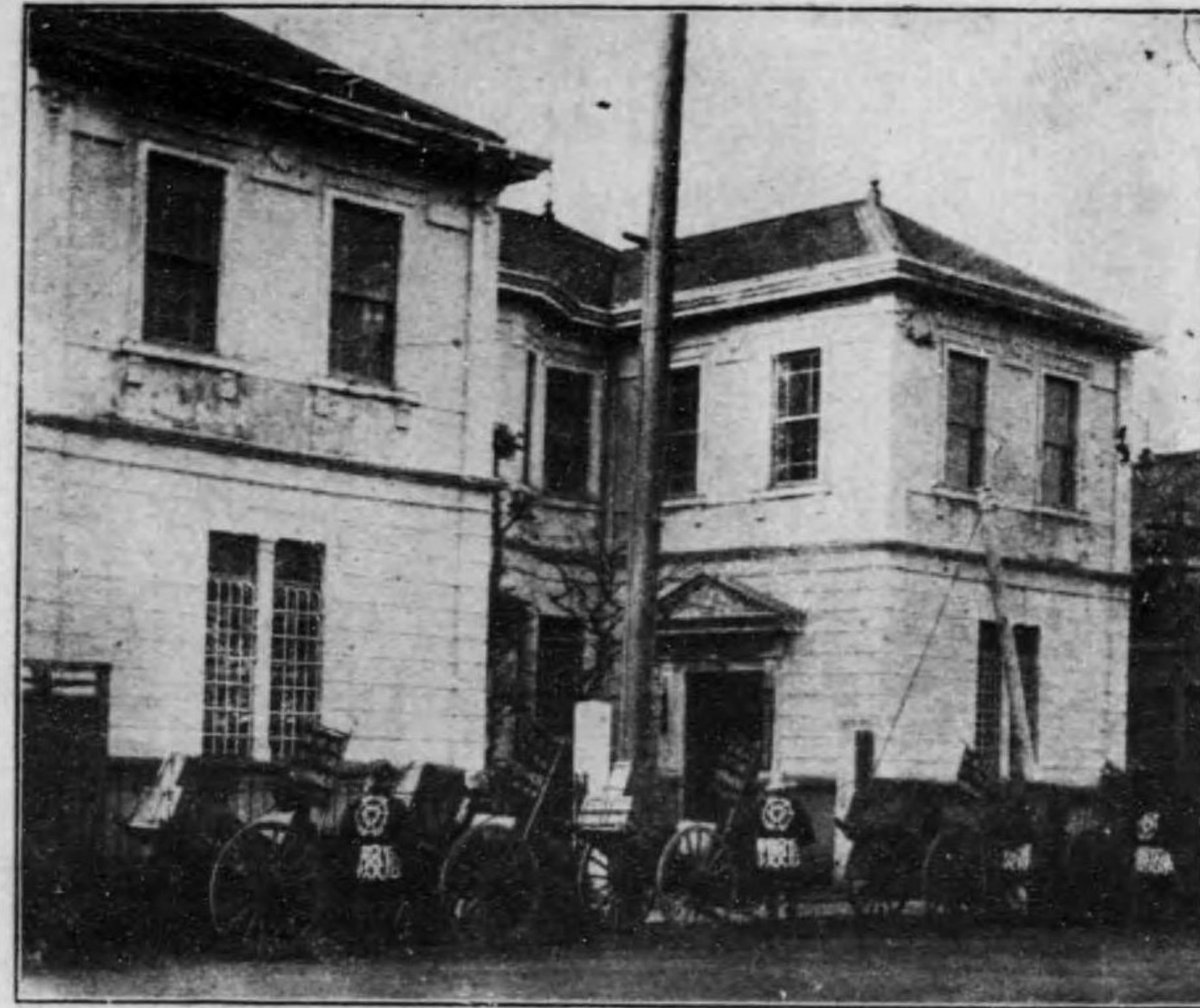
新 荷 着

全 國 到 處 革 靴 店 洋 物 雜 貨 店 均 有 代 理

東 京 市 日 本 橋 區 一 丁 目 七 番 地

小 澤 商 店

長 電 話 本 局 一 三 八 一 番



▼工場炊事場風呂竈用として無煙無臭の經濟的燃料!!!

▼危險なる亞硫酸瓦斯の發生絶無なる唯一の都市燃料!!!

上 無煙 茨

茨 城 無 煙 炭

出 炭 全 部 一 手 販 賣

東 京 市 日 本 橋 區 明 石 町 一 十 番 地

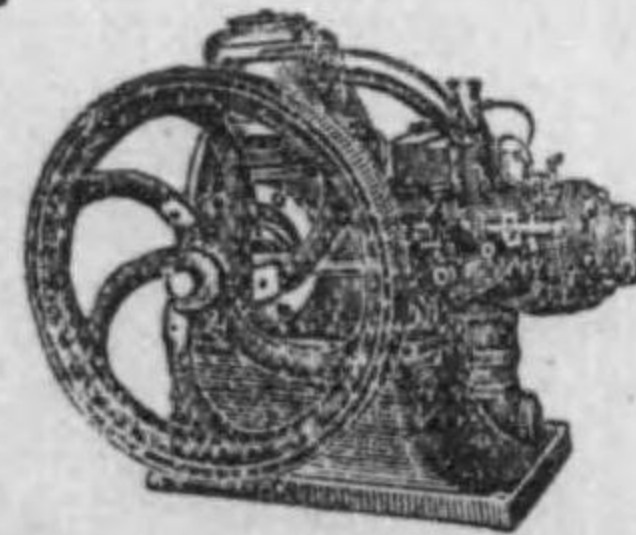
茨 城 無 煙 炭 共 同 販 賣 所

電 話 京 橋 一 七 七 四 六 九 三 四 番 番

機動發るな秀優

●株式会社池田工務所製 **高壓式スタンダード石油發動機** (説明書送呈)

一馬力一時間に付僅かに一合五勺乃至二合の軽油を以て運轉することを得べし
 發動機的主要部たる「シリンダー」には多年研究に成る密質鑄鐵を用ゆる
 が故に容易に磨滅する事なし隨て永久の使用に耐ゆ
 各要部への給油は專賣特許自動給油装置に依るを以て油の不足より機械
 に損傷を生ぜしむる虞毫もなし
 以上の三大特點は獨り本機の占有する長所にして斷じて他の機做し能は
 ざるところなり
 精米、精麥は勿論製糖、製材、織物、鑛山其他あらゆる事業に使用せら
 れて好評を博す



ぶんぼるな便輕

●レコード輕便揚水唧筒

(説明書は申込次第送呈)

勞力少くして揚水量多く御婦人方お子供衆にもらくに使用する
 事を得るが本唧筒の特色にして少し位手荒き取扱にも充分
 耐え得らるゝ様堅牢に製作せらる



普通家庭用としては勿論噴水力量大なるが故に消防用として
 も亦最も輕便に使用せらる殊に他唧筒の如く皮ゴム等は絶對
 に使用せざるが故に飲料水に用ひられ衛生に適す
 一般家庭用、排水灌漑用、土木工事用、鑛山用、船舶用、湯
 屋用、消防用等に供せられて好評噴々たり



電氣機械及諸機

合資會社池田

二葉

東京東區橋本二丁目二十番地

純良なるなメタル

●ニッケル、バビット (御申込次第見本送呈)

最も精良なる原料を使用して新らたなる配合により製出せられたる逸品にして單
 に價格の低廉にのみ重きを置き品質を省みざるが如きものとは全く其の選を異に
 す
 此ニッケル、バビットは斯くの如く品質を本位とし出來得る限り價格を低廉なら
 しめたるものにして最も其の配合に注意し一定の方法に依るが故に常に效力偉大
 なり
 ニッケル、バビットは其用途に依り特殊の配合を施すが故に普通の機械には勿論
 他品の耐え得ざる高速度、高壓力のものに使用して特に其の實力の偉大なるを示
 す



工器具輸入並製造販賣

鐵工所特約店

商店

堅牢なる安全燈

●安全燈

(ボンネット。アンボンネット式。クラニ
 一、ミニユーズラー。マルソット。デビー型)

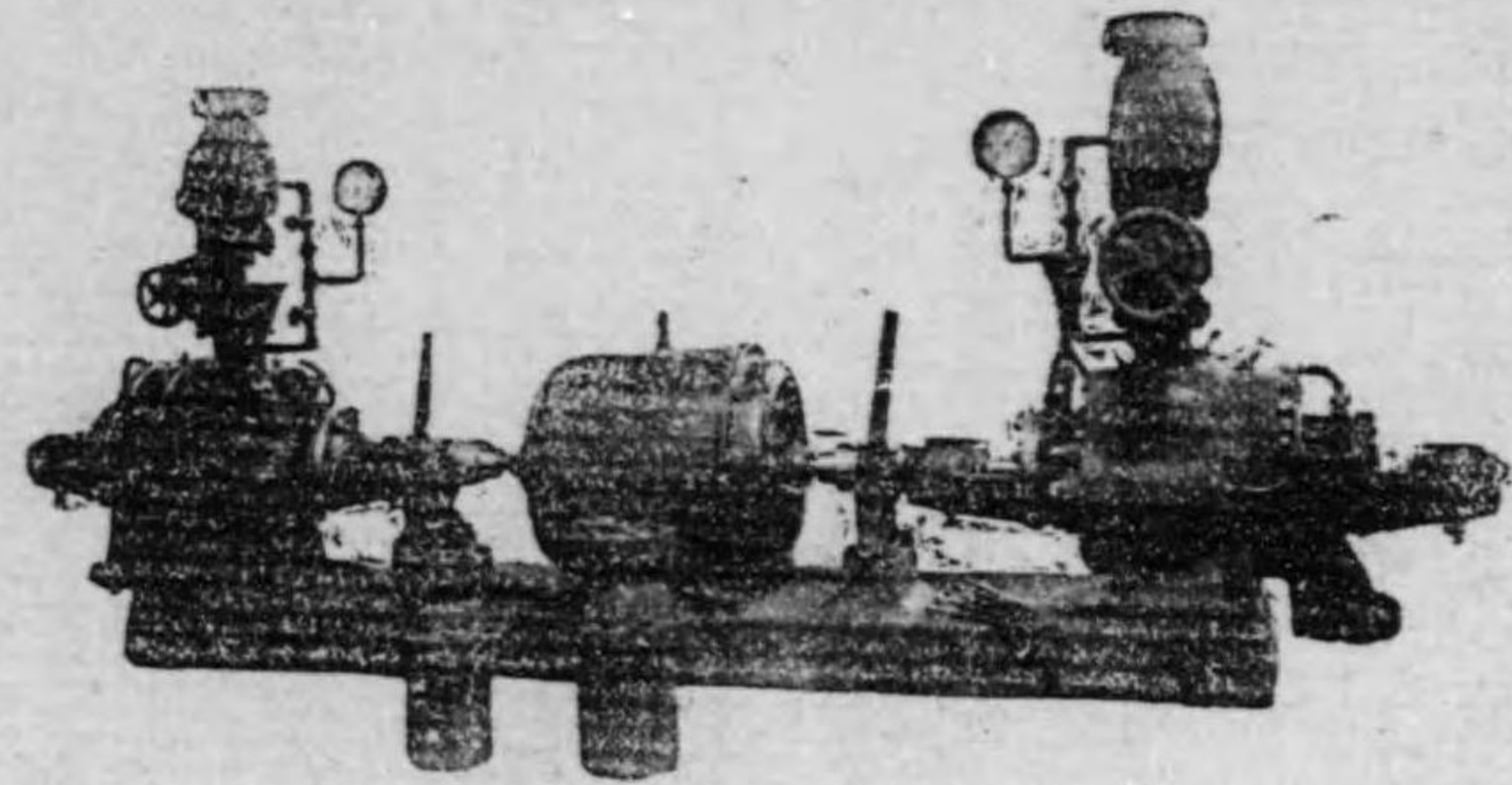
體裁よりも實質に重きを置き且其量目に注意し精選せる特殊の材料を以て製作せられたるもの
 して堅牢此上なく少々手荒き取扱に逢ふも破損する様事なし殊に各部の螺絲は多大の注意を拂
 ひて精密に切削するか故に捻合最も正確なり隨て密閉頗る完全にして永久の使用に耐え決して狂
 ひを生ぜず



殊に捻合錠は弊店が苦心發明に係る專賣特許電氣密
 閉裝置を用ゆるが故に監督者の外容易に分解する事能
 はず隨て往々大事を惹起する原因となるべき間違を充
 分に防ぎ得べし

電話新橋一五九二
 振替口座三二七五

鑛山機械



九州炭礦汽船株式會社
電動機直詰「ンピー」筒

製品概目

- 一、鑿岩機
- 一、各種碎礦機
- 一、ウイルフレー式撰礦盤
- 一、各種架空鐵索並索道
- 一、各種運搬車類
- 一、電氣捲揚機類
- 一、各種轉筒類
- 一、生吹熔鑛爐類
- 一、精銅コンバーター
- 一、羅斯チングボット
- 一、原動用サクシヨン瓦斯機關
- 一、原動用各種水車

其他鑛山機械一式

東京市芝區新堀五丁目八番
電話 東京市芝區新堀五丁目八番
芝區新堀五丁目八番
芝區新堀五丁目八番
芝區新堀五丁目八番

瓦斯コークスノ特長ハ

- 無煙無臭
- 火力強烈
- 費用ハ薪炭ノ三分ノ一



東京瓦斯株式會社
製産瓦斯コークス
一手販賣

瓦斯コークスノ用途ハ

- サクシヨン瓦斯發生用
- 家庭用(風呂、七輪、其他)
- 鍛冶屋、洗濯屋、蕎麥屋、豆腐屋、飯屋等

○瓦斯コークスノ御用ハ本社

東京市京橋區南新堀
二丁目五番地
電話新橋二九六〇番

本社

社長 阿部 吾市

東京瓦斯コークス株式會社

支配人 鈴木 太郎

廣告部

東京市麴町區飯田町
二丁目二十番地
電話番町二一四八番
○瓦斯コークス用器具并ニ竈
改新築ノ御用ハ廣告部へ

鴻^{ホン}基^ゲ無煙中塊炭

吸入瓦斯^{サクシヨン}瓦^ス機關絕好焚料炭

東京市京橋區銀座四ノ六



秋葉商店石炭部

電話京橋 二二三八、二二九番
二七三〇、二三一三番

三池石炭
各種石炭 販賣

東京市京橋區銀座四ノ六



秋葉商店石炭部

電話京橋 二二二八、二二二九番
二七三〇、二三一三番

橫濱市不老町二ノ一七八



秋葉商店出張所

電話 一六八一番

歐米瓦斯ストーブ

本年度輸入品新着仕候御嗜好の品澤山本社陳列所又は各營業所に陳列致し毎日午前八時より午後五時迄高覽に供し候間御好みの品が賣切れぬ間に御觀覽の上御買上相願申候

追て當分の間日曜日にも陳列場開店仕候

カタログ御申越次第直に進呈可仕候

東京市神田區錦町三ノ廿三

東京瓦斯株式會社

特許第二四六四九號

大塚式鑛山用アセチリン燈

鑛山坑内用燈火としてアセチリン燈の光力強大にして且經濟上、衛生上最も有利なるは既に各位の周知せらるゝ處なれば茲に贅言せず唯二三の特色を擧げば

一、本アセチリン燈は常に粗略に取扱はれ易き鑛山坑内用燈火として極めて實用に達する如く堅牢と構造の簡易を主とし上部下部に於て岩石の厚き眞鍮板より鑛目なく打出しあるを以て坑内に於て打付け又は誤り取落せし場合に多少の凹を生ずることあるも瓦斯の漏洩する虞なく永く使用に堪ゆ

一、瓦斯發生室に入れ得る便利あり從てカーバイドの消費量を節約し得

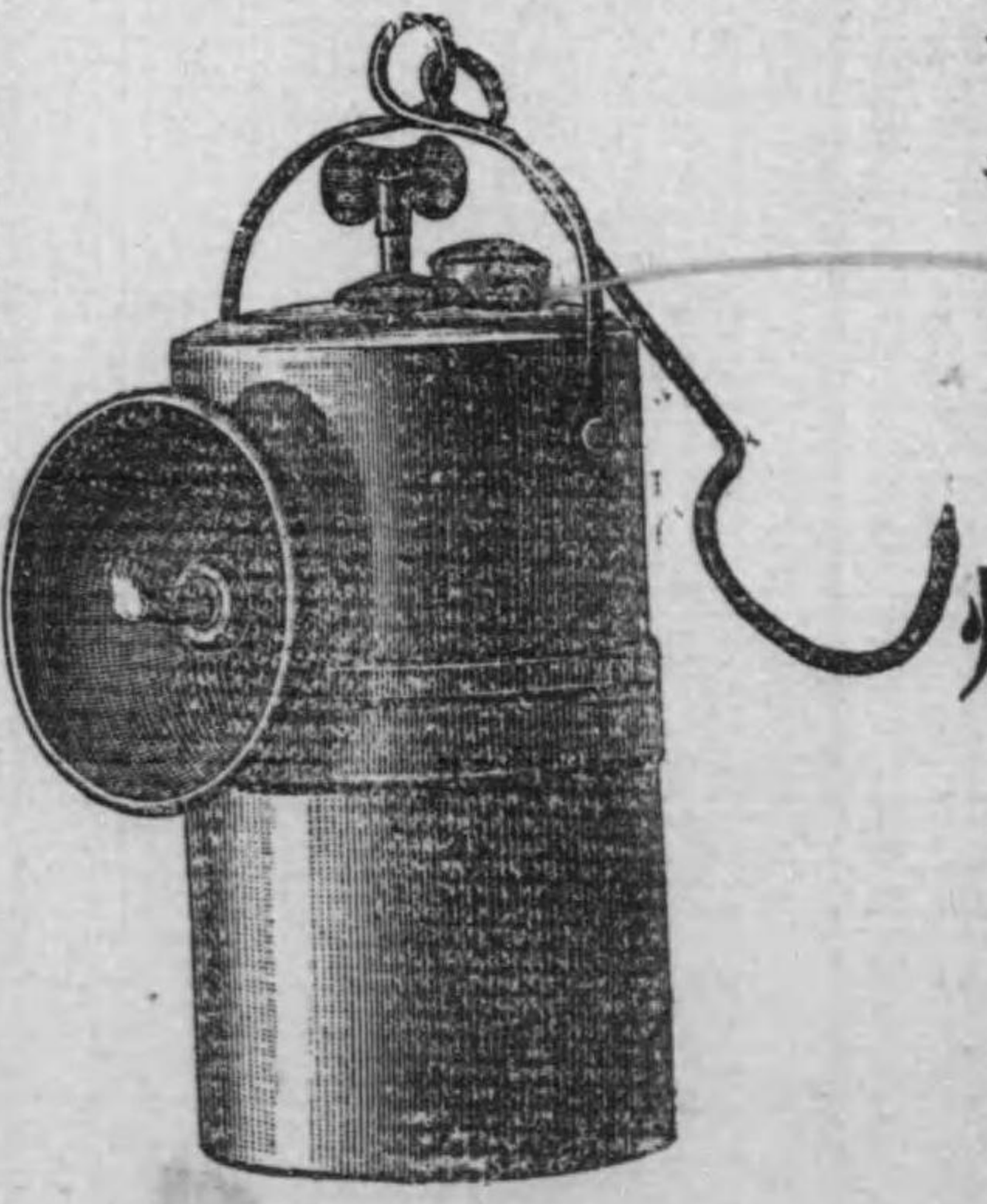
一、カーバイド廿々を以て十二時間の使用に堪ゆ

以上要するに從來の坑内用アセチリン瓦斯燈の缺點に對し使用者各位の要求に適應すべく理想的に改良したる最新式のものに有之且今回特種の製造用機械を設備したるを以て多大の製造力を有し從して生産費を減じ左記の如き廉價を以て各位に提供

定價一個 金九拾五錢 拾個以上一個に付 金九拾錢(郵送料一個金八錢)

尚多數の御注文には特に割引可仕候

御試驗用罐入カーバイド一罐 金拾錢(郵送料金八錢)
東京市芝區三田豐岡町六十六番地



大塚工場
工場主 大塚 榮吉
電話 芝三六八一、九八二
振替口座東京三二七四二番

歐米瓦斯ストーブ

本年度輸入品新着仕候御嗜好の品澤山本社陳列所又は各營業所に陳列致し毎日午前八時より午後五時迄高覽に供し候間御好みの品が賣切れぬ間に御觀覽の上御買上相願申候

追て當分の間日曜日にも陳列場開店仕候

カタログ御申越次第直に進呈可仕候

東京市神田區錦町三ノ廿三

東京瓦斯株式會社

特許第二四六四九號

大塚式鑛山用アセチリン燈

鑛山坑内用燈火としてアセチリン燈の光力強大にして且經濟上、衛生上最も有利なるは既に各位の周知せらるゝ處なれば茲に贅言せず唯二三の特色を擧げば

一、本アセチリン燈は常に取扱はれ易き鑛山坑内用燈火として極めて實用に適する如く堅牢と構造の簡易を主として下部に於て岩石に打付け又は誤りなく取出しあるを以て上部に於て岩石の厚き真鍮板より攪拌せし場合に多少凹凸を生ずることあるも瓦斯の漏洩する虞なく永く使用に堪ゆ

一、瓦斯發生室には一物の障りとなるべきものなきを以てカーバイドの大塊を入れ得る便利あり從てカーバイドの消費量を節約し得

一、カーバイド廿多を以てよく十二時間の使用に堪ゆ

一、以上要するに從來の坑内用アセチリン瓦斯燈の缺點に對し使用者各位の要求に適應すべく理想的に改良したる最新式のものに有之且今回特種の製造用機械を設備したるを以て多大の製造力を有し從して製産費を減じ左記の如き廉價を以て各位に提供し得るに至れり

定價一個 金九拾五錢 拾個以上一個に付 金九拾錢(郵送料一個金八錢)

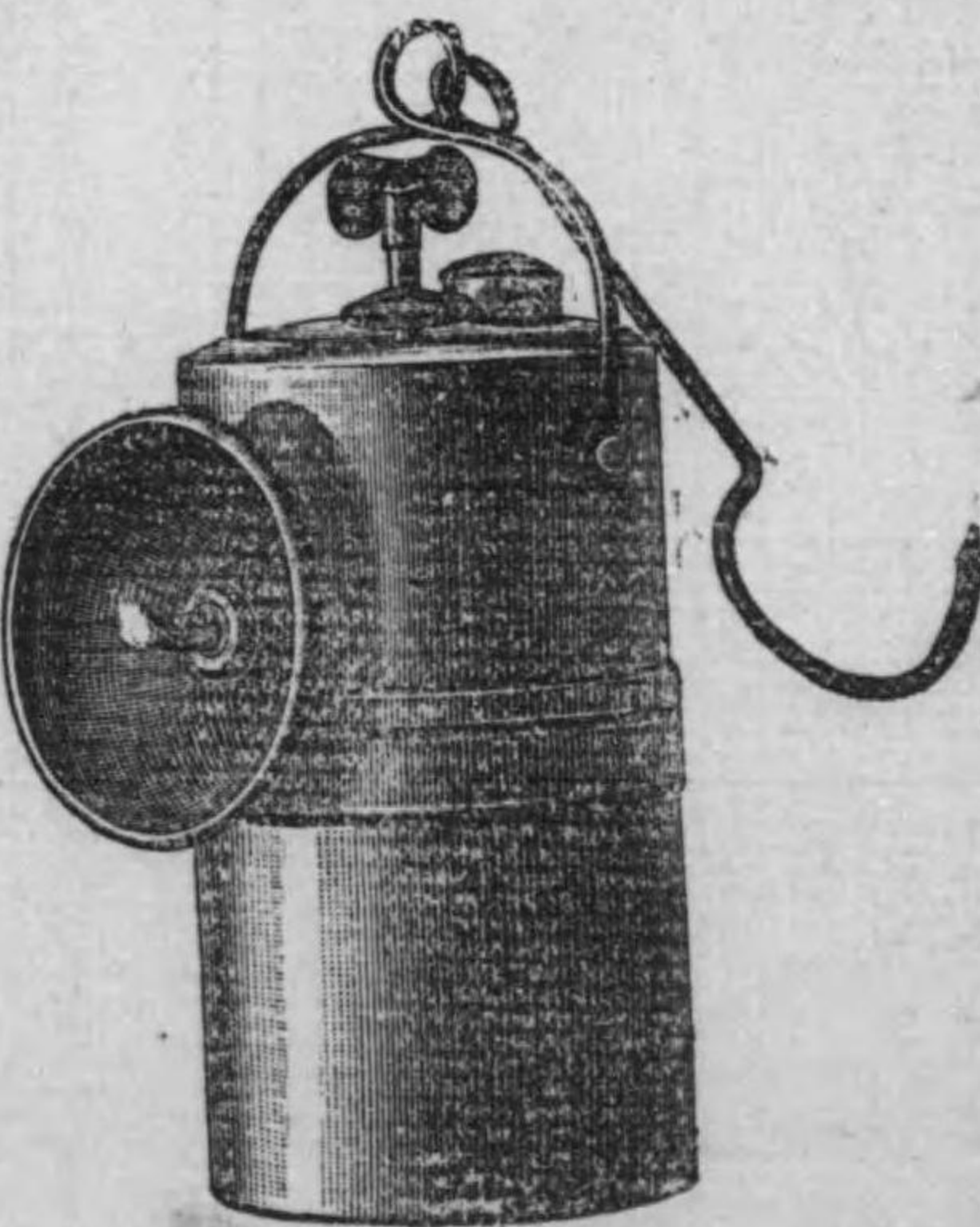
尙多數の御注文には特に割引可仕候 御試驗用罐入りカーバイド一罐 金拾錢(郵送料金八錢)

東京市芝區三田豐岡町六十六番地

特許チルド車輪鑛山機械専門

工場主 大塚 榮吉

電話 芝三六八一、九八二
振替口座東京三二七四一番



◀ 張 擴 新 刷 ▶

拜啓 各位益々御隆昌之段奉恭賀候陳者弊店儀創業以來茲に三百三十有餘年間一般需用家諸賢の御愛顧御引立に依り累歳旺盛の途に進み爾來斯業界に於て偉大の歴史を有せる老舗として望外の名聲を博し即ち稱といへば守隨かと呼唱せらるゝの地位を隆め候は畢竟各位が淺からぬ御同情の賜と謹で鳴謝罷在候

就ては爾後竿頭尙一步を進めて規模を擴大し設備を刷新し誠實と勤勉とを主旨として専心器物の改良製作に従事し以て愛顧諸君の御厚情に酬ひ出來得る限りの御便宜を圖り可申は勿論に有之候故何卒倍奮の御高需を被仰付候様伏て奉懇願候 敬具



商標
度衡器
製作販賣

守 隨 商 店

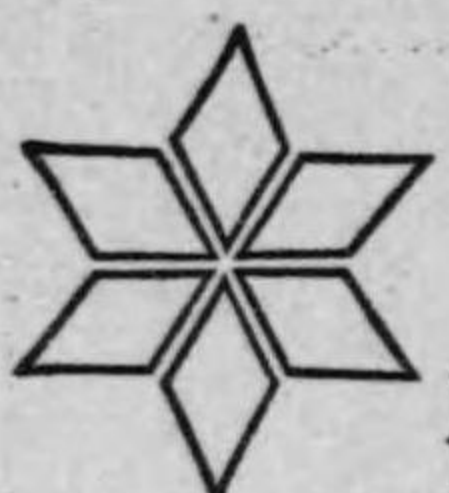
東京市京橋區南傳馬町二丁目

持電京橋一五一〇番
振替口座東京五二五三番

水道瓦斯鑛山用郵便電話地下線用

鑄鐵管井 附屬品一式

貯藏品有之至急御入用の場合は何時たり共供給可仕候



株式會社 東京堅鐵製作所

東京市深川區西町三十四番地

電話本所一六〇九番

東京府南葛飾郡大島村
龜戸乙一 一 二八番

東京硫酸株式會社

電話本所八七〇番

東京王子

硫酸

關東硫酸株式會社

三越呉服店

東京駿河町 振替貯金口座東京〇〇番

地方御注文内書は御一報次第進呈

福寿草	すみれ	ダリヤ	ヒナ菊
梅	牡丹	白百合	紅葉
クローバー	菖蒲	エノ菊	水仙

十八金製指輪十二種
一個六圓御注文の際指の大きさを御示あれ

御婦人用 東コート
紳士用 二重マント
學生用 絨製マント

右何れも流行の柄合、澤山新着、價は低廉、御一報次第、地質見本見積表進呈仕候。

三越特製 深編上靴
▲ピツ子ス形 甲、五圓五十錢
▲學生靴(頑丈一方) 三圓

此他紳士用キツド製(六圓以上)種々取揃へ申候。
御注文の際には(一)足袋の文敷(二)甲高(三)甲座(四)甲低(五)を御示し被下度候。



御注文の際には何種かによる旨を御書添へ

帝國新報

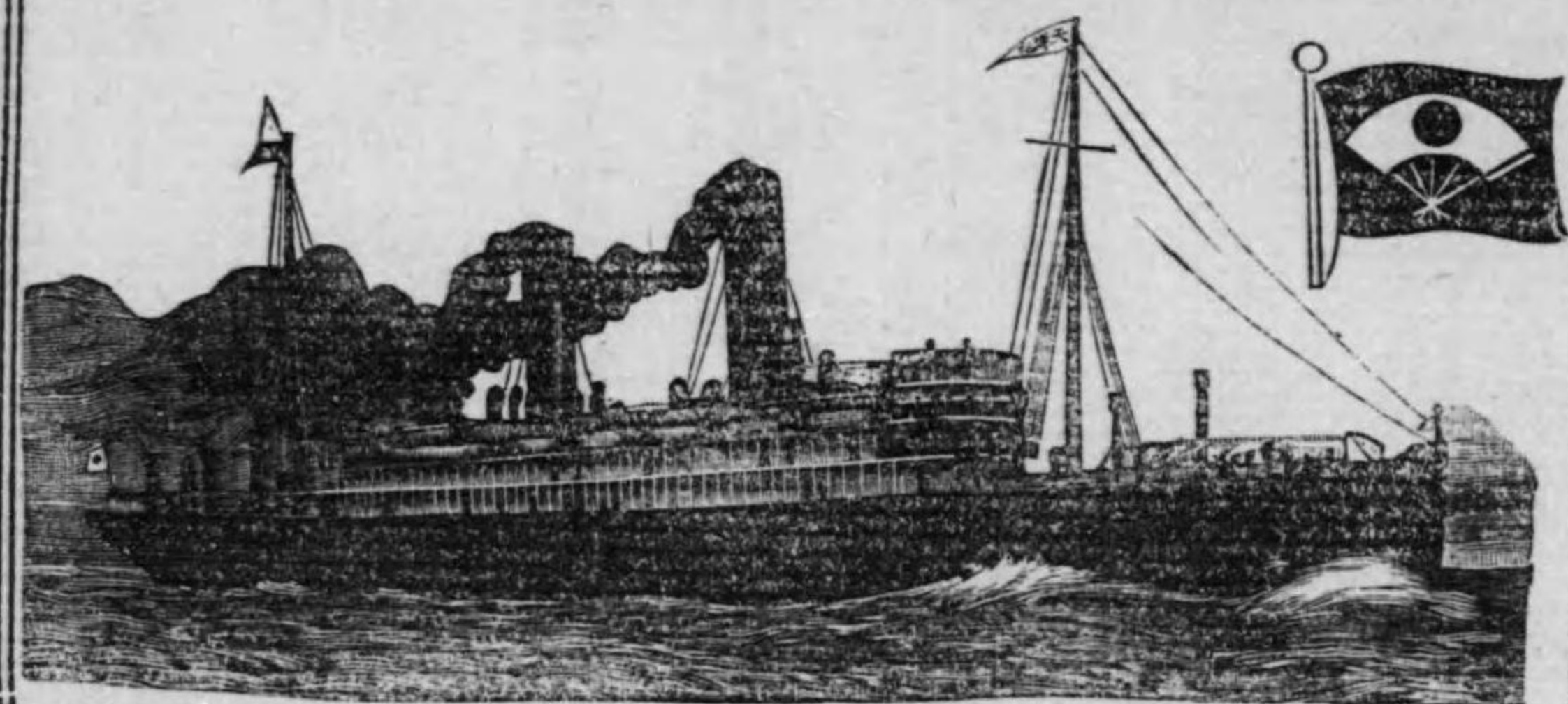
△△△△
苟も文明を解せんとする者は我が帝國新報を讀め
苟も石炭の價値を知るものは我が帝國新報を讀め
苟も炭業に關係あるものは必ず我が帝國新報を讀め
帝國新報は實に卿等の爲に最も忠實なる伴侶たり

△△△△
帝國新報は日本鑛業界の明星石炭界唯一の指針也
創業以來七週年健全確實に發達せるは世の認る所
議論穩健報道正確日本炭業界の事情は一目瞭然焉
文明の母石炭界第一の羅針盤は唯帝國新報在のみ

東京神田岩井河岸十四號地 發行所 帝國新報社
電話東京二二六六番 振替東京五二〇〇番
東京日本橋區濱町二の十七 事務所 帝國新報社
電話浪花二〇四三番 門司長崎室蘭横
支局 濱、神戸、大阪、京都、岡山、名古屋、千住
本紙(稅稅共)一年七十二錢
廣告料(普通一行十六字計 三十五錢)

東洋汽船株式會社

東京市麹町區有樂町壹丁目壹番地



安洋丸 神戶發 三月十六日 (香港行)		紀洋丸 橫濱發 三月十六日 (香港行)		南米航路 神戶發 三月廿五日 (南米行)		取扱所 長崎市大浦町 三井物産會社門司支店		貨客 神戶發 三月廿七日 (桑港行)		北米航路 神戶發 三月廿八日 (桑港行)		天洋丸 橫濱發 三月廿九日 (桑港行)		地洋丸 神戶發 三月三十日 (桑港行)		春洋丸 橫濱發 三月三十一日 (桑港行)		日洋丸 神戶發 四月一日 (桑港行)		香港丸 神戶發 四月二日 (桑港行)	
-------------------------------------	--	-------------------------------------	--	--------------------------------------	--	------------------------------------	--	------------------------------------	--	--------------------------------------	--	-------------------------------------	--	-------------------------------------	--	--------------------------------------	--	------------------------------------	--	------------------------------------	--

呈料へ御送錢券は 呈贈無方の封參

南米航渡案内

發行社



日本橋

東京

白木屋吳服店



薪炭 代用

無

煙

炭

茨城無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷五六五番) 茨城無煙炭礦株式會社

茨城無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷五六五番) 茨城無煙炭共同販賣所

山口無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷五六五番) 山口無煙炭礦合資會社

高萩無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場 高萩無煙炭共同販賣所

三星無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷二四八五、八九七) 三星炭礦株式會社

大正無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷二四八五、八九七) 磐城探炭株式會社

宇佐美無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷五六五番) 宇佐美炭礦株式會社

中野無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷二四八五、八九七) 中野炭礦株式會社

秋山無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷二四八五、八九七) 秋山炭礦株式會社

清田無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷二四八五、八九七) 清田炭礦株式會社

三澤無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷二四八五、八九七) 三澤無煙炭礦株式會社

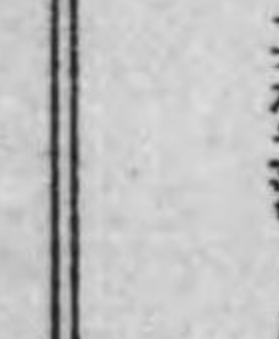
車置無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷二四八五、八九七) 車置炭礦株式會社

常磐無煙炭



探掘元 發賣元

東京府下南千住地方橋場(電話下谷二四八五、八九七) 常磐無煙炭礦株式會社

無煙炭は無煙無臭にして薪炭又は瓦斯に比し費用半額以下に過ぎずストーブ、風呂、湯沸、炊事等に使用し最も徳用にして其焚落しは亦火鉢七輪に移し木炭代用として妙なり

常磐無煙炭礦株式會社

重要法令寶典無比特價提供

博文館編輯局編纂

送料

●全三冊：小包料内地十六錢、滿鮮四十五錢、
 樽臺卅五錢 ●上中二冊：内地小包料十二錢、
 滿鮮四十錢、樽臺卅錢 ●下卷一冊：郵稅六錢

袖珍 日本法令提要

菊半裁判
 洋裝特製
 金文字入
 紙函入
 製本堅牢

上、中卷 重要法規
 全三冊 (五、三〇〇)

定價 全部三冊二付 金五圓貳拾錢
 上、中卷(分冊賣) 一冊 金四圓八拾錢
 下卷(分冊賣) 一冊 金四圓八拾錢

特價 全部三冊二付 金四圓貳拾錢
 上、中卷(分冊賣) 一冊 金參圓九拾錢
 下卷(分冊賣) 一冊 金五圓九拾錢

外に送料實費

立憲治下の國民は法令を以て行為の準則と爲す、之に違ふ者は榮え違ふ者は亡ぶ今夫れ現行の法規は無慮數萬に及ぶと雖も、官衙公署は暫く措き、法人其他一般人士にして日常必須のもののみを擇取するときは其數約壹千に上るべきか、我が博文館編輯局此種必須の法規を輯めて茲にこの「法令提要」を作れり、剪裁宜しきを得て、分類正しく序次整ひ、校正精確にして製本堅牢なり、之れを座右に備ふれば常に法學者を待せしむるにひとしく法律顧問の必要なく相談役設置の必要なし、即ち此等に關する費用を省くを得て、而して權利の伸張に遺漏なかるべきなり、競ひ進んで購求の榮を賜らんことを望む。

追白 憲法、法例、裁判所構成法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法の八大法律は之れを重要法規の中より分類して別冊となすを便利とせらるゝ方多かるべく愚料したるを以て、施行條規の如く密接離すべからざる附屬法規と共に別之に之れを一冊と爲したるを以て之れのみを要せらるゝ方には分賣すべし

特價期限 大正二年十二月十日

博文館

東京 炭界一百人目次

- 一、炭界沿革一斑 一頁
- 一、石炭産出額、同京濱輸入額 八頁
- 一、炭界一百人

竹内綱	九頁	淺野總一郎	一〇頁	高田慎藏	一一頁
田健治郎	一二頁	田中榮八郎	一三頁	郷誠之助	一四頁
小野金六	一六頁	磯村豐太郎	一七頁	佐久間精一	一八頁
白井達平	二〇頁	伊藤幹一	二二頁	淡中孝八郎	二二頁
山下龜三郎	二三頁	川合芳次郎	二五頁	内田直三	二六頁
志田勝民	二八頁	山本久顯	二九頁	佐々木慎思郎	三〇頁
福井菊三郎	三一頁	江口定條	三三頁	松本孫右衛門	三四頁
赤羽克巳	三五頁	大石廣吉	三六頁	潮田方藏	三八頁
二宮景輔	三九頁	阿部吾市	四〇頁	加藤爲二郎	四二頁
岡部正樹	四三頁	山口嘉三	四五頁	淺野泰治郎	四七頁
林武平	四八頁	坂市太郎	五〇頁	桑田知明	五一頁
中野喜三郎	五二頁	的場覺藏	五四頁	山本唯三郎	五五頁
秋葉大助	五七頁	菅禮之助	五八頁	廣瀬春吉	五九頁
山崎勝太郎	六〇頁	生駒東一	六二頁	小山清太郎	六三頁
飯原佐次郎	六四頁	清田房次郎	六五頁	谷田文夫	六六頁
豐島徳太郎	六七頁	市川純一	六八頁	稻岡世民	六九頁

佐久間庸一	七〇頁	越賀幸次郎	七一頁	鈴木太郎	七二頁
千澤平三郎	七三頁	菅波角之助	七四頁	藤本邦宗	七五頁
井戸川義忠	七六頁	北村久義	七八頁	中須養三	七九頁
谷井光之助	八〇頁	伊藤好太郎	八一頁	尾川友輔	八二頁
廣瀬定次郎	八三頁	坂田厚民	八四頁	岡上麟藏	八五頁
丸山兼三郎	八七頁	中村千代松	八八頁	渡邊旗郎	八八頁
小島順之助	八九頁	赤津安藏	九〇頁	田口虎次	九二頁
渡邊忠治	九三頁	村上音松	九四頁	石井留藏	九五頁
神田兼太郎	九五頁	渡邊三彦	九六頁	松本三郎	九七頁
杉浦重吉	九八頁	西主	九九頁	加納惠太郎	一〇一頁
中島庄次郎	一〇二頁	内田 允	一〇三頁	福田伊重郎	一〇四頁
大澤朝吉	一〇五頁	杉村正道	一〇六頁	鳥居半次郎	一〇七頁
岩村基太郎	一〇八頁	吉田常三郎	一〇九頁	矢崎万次郎	一一〇頁
中垣保	一一一頁	加藤甚吉	一一二頁	馬場寅吉	一一三頁
大島現三	一一四頁	奥村三樹之助	一一五頁	江原卓爾	一一七頁
野中熊彦	一一八頁	中村兼藏	一一九頁	樋口利八	一二〇頁
山口藤三郎	一二二頁	寺井榮次郎	一二二頁	野々山賢富	一二三頁
奥山新吉	一二三頁	齋藤松司	一二四頁	杉山 晨	一二五頁
遠藤悦藏	一二六頁	柳 啓三郎	一二七頁	織戸瀧之丞	一二八頁
村山捨吉	一三〇頁	折田新五郎	一三一頁	石川新次郎	一三二頁
飯岡啓藏	一三三頁	伊藤勇一	一三四頁		

一 京濱組合役員 事務員、組合員一覽

目次終

京濱炭界一百人

炭界沿革一斑

山野好恭 岡田緑風 共編

吾人は茲に、東京及横濱の石炭界に於る働役者一百餘人の小傳を編むの機會を得たるを喜ぶ。諸氏は何れも炭界各方面の中堅として殆んど代表的使命を帯び、其活動運籌の如何は時として斯業の大勢を動かす事あり。之を各個人として見る時は、既に名を成し勲を作せる人と、或は成功を未來に期待する人と、地位經歷各々一ならずと雖も、汎く炭界の活機を捉え、彼此長短相補ふて、縦横檜舞臺に馳驅するの状は、洵とに一場の異觀なりと云ふを妨げず。而して是等アクトルの傳記を蒐め、炭界の舞臺如實を讀者の前に髣髴せしめんとするには、同時に其背景たる炭界の事情一斑を記述するの必要あり。先づ此舞臺面を暗んじて俳優の上場を見るに及び、觀客の印象は愈よ明瞭深刻となる可きなり。

東京に於て、石炭商同業組合の設立認可を見たるは、本稿を草する僅かに數ヶ月前なりき。東京には由來三井、三菱、炭礦汽船、石狩等の如き東洋有數の大會社あり。又其同業者の數大小合せて二百の餘に出で、一ケ年約百八十萬噸の石炭の需要あるに拘らず、從來一の組合すら設けられざりしは、局

外者の悉く不審とせし處なり。而も實際の事情より云へば、東京の炭界は多年混戦、亂闘の巷にて各種利害の衝突、感情の悖離等、融和統一の防げとなる可き理由擧て數ふ可らず。殊に九州、北海、常磐の三大産炭地より移入する石炭の競争と、多數仲買人等の亂賣亂戦とは、愈よ東京炭界の空気を攪亂して戰國時代群雄割據の状態を呈し、互ひに協力一致して同業者の共通利益を増進し得ざりしは、勿論、往々にして同業相食み、同志共仆れに陥る如き慘狀を呈したり。彼の茨城無煙炭を採掘販賣せる三炭礦會社が、競争の結果數期間に互りて缺損に缺損を重ね、到底其弊に堪えざるに至りて妥協を遂げ、四十三年十一月販賣シンダートを結ぶに及んで、始めて復活回春の曙光を認めたる如きは競争の禍害の最も顯著なりし一例なり。

日露戦後より此茨城無煙炭共同販賣の開始せらるゝ以前は、東京に於る競争亂賣の弊其極に達し居りしため、炭界の識者間には何等かの方法を以て、各方面の意志を疏通し、氣運一轉の必要を認むる者を生じ、明治四十三年九月三井、三菱、北海、石狩、淺野、阿部、竹内(鑛業會社)、山下(汽船會社)加藤、清田、豊島、其他數氏發起の下に第一土曜會なるもの組織せられたり。其會表面の理由は毎月第一土曜日を以て同業有志相會し、一夕の懇談を催ふすと云ふに過ぎりし。是れ總て同業組合の基礎を爲したるに徴せば、其目的の那邊に在りしや推して知る可し。爾來同會は連綿として繼續發展し來り、次第に常磐各炭礦をも加へて、遂に東京の有力なる炭業者を網羅し、巨然たる一勢力を形成して、炭界統一の機運、換言すれば組合創立の準備全く成るに至れり。

先是、東京市内に於て茨城無煙炭及瓦斯コークスの仲買小賣等を爲せる販賣業者の間に東京無煙石炭

商同業組合と稱する一個の申合組合あり。百有餘名の組合員を有したるも、單に申合團體たるに止まるを以て定款の勵行意の如くならず。即ち進んで其筋の認可を得んとの運動を起せるに當り、一面に於ては第一土曜會を中心とする東京石炭同業組合組織の計畫あり。恰かも其時を同ふしたるを以て兩者合同して組合設立を促進する事となり、大正元年八月左記十氏を發起人として東京石炭同業組合發起申請書を東京府へ提出したり。

男爵郷誠之助(入山探炭株式會社代表) 津田弘視(三井物産株式會社代表) 朝田又七(三菱合資會社賣炭代理店朝田石炭部代表) 窪田四郎(北海道炭礦汽船株式會社代表) 淺野總一郎(石狩石炭株式會社代表) 竹内綱(竹内鑛業株式會社代表) 二宮景輔(茨城無煙炭礦株式會社代表) 岡部正樹(合資會社茨城無煙炭共同販賣所代表) 加藤爲二郎 阿部吾市

右の中阿部吾市氏發起人總代として内外斡旋の衝に當り、専ら奔走盡力したる結果同年十二月下旬府知事の認可を得、超て大正二年四月十五日東京商業會議所に於て組合創立總會を開きて定款及豫算の議定、役員の選舉を行ふに至れり。當時組合の創立に同意せる同業者の數二百八名にして、當選せる役員の名は左の如し。

組 長(名) 阿部吾市

副組長(名) 合資會社加藤石炭部、茨城無煙炭共同販賣所

評議員(名) 三井物産株式會社、三菱合資會社東京支店(記者註、三菱の賣炭組織變更の爲、従来の朝田石炭部に代れるもの)、北海道炭礦汽船株式會社、石狩石炭株式會社、磐城炭礦株式會社、古河合名會社、入山探炭株式會社、茨城無煙炭

礦株式會社、竹内礦業株式會社、奔別炭礦株式會社、淺野石炭部、山下汽船合名會社、杉浦重吉、松本三郎、西主一、加納惠太郎、山野好恭

▲附記 山野好恭は一身上の都合にて就任辭退の爲め内田允氏補缺當選

於是乎直ちに組合設置認可申請書を農商務大臣に提出し、從來日本橋區濱町二ノ十七に設けたる假事務所を撤して、京橋區五郎兵衛町に移し八月十五日附愈よ認可を受け茲に重要物産組合法に依る東京石炭同業組合は完全に成立を告げたり

思ふに、日露戰役の前後加藤阿部氏等に依り發起せられしも遂に成立を見るに至らざりし組合が這次發起後一年にして無事成立するに至りし事、一は社會進運の然らしむる處なる可しと雖も、我が炭界の先達が、相提携して大勢を馴致し機運を促進したるの功勞は之を没す可らず。而して、此組合の成立によりて東京の炭界には明確なる一線を劃せりと云ふ可く、其成立前を假に混沌の時代とすれば、將來は正に光明發展の時代と稱せざる可らず。否、此機關の運用宜敷を得て少なくとも變遷たる曙光を發す可きは、吾人の飽迄も確信せんとする處なり。若夫れ、炭界將來の曙光をして愈よ光彩陸離たらしむるか、將た徒らに薄暗たらしむるかは、一に懸つて炭界の中心たる組合幹部諸君の双肩に在りと謂ふ可し、本編を著はすに至つて吾人の諸氏に對する期待一段の重きを加ふる所以なり。

横濱も亦東京と同じく久しく混沌たる炭界の暗黒時代を送りたり。而も、其狀態東京とは大に趣を異にし、關東の門戸、帝都の玄關口たる横濱港の位置必然の結果として、炭界の惡弊は海陸二方面に於て行はれたり。即ち陸に於ては無謀の亂賣競争、或は會社出張員の不正等殆んど言語に絶し、海に於ては之に加ふるに冲人足、船頭等の惡事公行あり。然ひに之を抑止せんとすれば却つて危險身に及ぶ事あるより、同地の有志中之を思ふ者は頻りに適當なる制裁法を布くの機會到來を窺ひ居たり。時に明治三十七年、日露の和破れて我が雞嶽の滿洲の野に遠征せるもの日夜を分たず。横濱の市民は愛國の赤誠を傾けて之を平沼驛に送り、彩旗紅燈、物を饒し萬歳を叫びて干城の氣を壯にするに熱狂せり。横濱炭界の元老馬場寅吉、大島現三、中村象藏其他の諸氏、偶ま之を以て同志糾合の好機會となし、同志松永、星、小嶋氏等と突差に議を纏め晝夜有志を説いて醜金二百餘金を得、横濱石炭商有志會の名の下に大旗を作り、別に世界各國旗を連ねたる裝飾旗を急造して、平沼驛頭に翻へし、在渤たる敵愾心を善用して、容易に石炭商の一體を起し、以て盛んに出征兵士を歡送したり。之實に横濱石炭同業組合の卵子なりとす。

既に斯の如き時の利を得たるが故に人は期せずして和し、翌三十八年には有志會は一變して横濱石炭商組合となり、同年十二月には幹部として左の顔振を有するに至れり。

組長三輪清吉(三井代表) 副組長大島現三、評議員山下龜三郎、同村山捨吉 同馬場寅吉、同中村象藏、同柴田兼吉、同中垣保(朝田石炭部代表) 同星野元五郎、同藤村民藏(田野駒井商店代表)、同加藤甚吉(芳谷炭礦株式會社代表)、同織戸瀧之丞

横濱は九州北海其他海運に依る石炭の本船積卸あり、回漕事業と密接の關係あるが故に、石炭業者の外に回漕業者をも網羅し、當時は尙は申合組合に過ぎざりしと雖も、其約束は意外に嚴守され請願巡査を置き海陸の取締を勵行して一に組合目的の貫徹に努力したり。

此の組合出現の爲に、從來不正悪業を恣ま、にせる一部の輩及び船夫等の蒙りたる影響甚大なりしは、勿論なり。其結果として冲稼ぎの荒くれ者は常に匕首を懐ろにして石炭の掠取を行ひ、萬一組合員又は警官に見えさるゝ時は、白刃を閃かし暴力を以て不正を遂行する事少ならず。現に某組長の如きは途に暴漢に要撃せられて人事不省に陥りし事あり。又役員事務員にして職務の爲に同様の難に逢ひし事故擧に遑あらず、組合幹部は非常の危険を冒して多年の慣習的罪惡と奮闘する有様なりしが、『時』は最良の教訓なり。以上の弊害も漸次矯正せられ四十二年には馬場寅吉氏外十名の出願に對して農商務大臣より組合設置認可を與えられ、織戸瀧之丞氏組長に就任して副組長馬場氏其他の役員と共に鋭意組合事務の發展を圖り、今や暴漢要撃事件の如き、噂昔の一話柄として、僅かに茶前酒後の題目たるに過ぎず。而して其事務所は四十四年七月翁町一丁目より現在の壽町一丁目に移轉し昨今に至りては規模設備多く間然する處なく、一ヶ年約百六十萬噸の集散に、何等の故障滯滞を來すことなし。織戸氏は組合認可前より組合長として就職し約五年間勵精事に當りしも、四十五年三月一身上の都合によりて其職を辭したるを以て組合は金盃を贈呈して在職中の功に酬いたり。然るに其後任は缺員の儘とし馬場副組長奮つて事務を見たるが、大正二年五月の總會に於て遂に役員の總改選を行ひたり、其當選就任者左の如し。

組長(名) 中 垣 保

副組長(名) 加藤甚吉(竹内礦業會社代表)

評議員(名) 馬場寅吉、津田弘視(三井代表)野中熊彦(三菱代表)、窪田四郎(北海炭礦代表)菅禮之助

(古河代表)阿部吾市、辰澤延次郎、寺井榮次郎(淺野代表)、石谷信藏、奥村三樹之助、山下龜三郎(山下汽船代表)、星野元五郎、村山捨吉、大島現三、中村彥藏、穂苅永正

斯て組合業務は益す發展擴張され從來の神奈川綿花町出張所の外更に沈没炭引揚事務の必要上子安町に出張所を新築し、此書の刻成りて讀書の手に達する頃は全部落成を告ぐ可しと云ふ。

以上は東京及横濱の組合を中心として見たる炭界沿革の大略なるが茲に注意すべきは、横濱が帝都の支關として、石炭輸出入の關門に當るが故に、同一人にして東京横濱兩組合に加入せざる可らざる者少なからざるの一事なり。前掲組合の役員に就て見るも竹内礦業株式會社、三井物産株式會社、三菱合資會社、北海道炭礦汽船株式會社、古河合名會社、阿部吾市、淺野石炭部、山下汽船合名會社の八氏は同時に兩組合の役員たり更に巻尾に附録とせる組合員名簿を参照せば、一方に役員にして一方に組合員たる、或は双方共に組合員たる者頗る多かる可し。蓋し、東京に店舗を有して、常磐以外の石炭を取扱ふものは、悉く横濱を経由して移入するを以て、是等の諸氏は同一の石炭に就き二重に組合の經費を負担せざる可らず。其不便と苦痛少なからざるを以て兩地の組合員中には將來適宜の方法を講じ兩組合を合併せん事を希望する者少なからざるが如し。而も異なる行政官廳の管下にある二個の組合を一所に合致するは現今の法規組織にては全然不可能なるを以て、此點に就ては如何なる方法を講じ、如何なる融通策を見せんとするか、兩組合の合同若くは特殊聯絡問題が必らず將來に憑起すべき運命を有する以上、這は京濱の炭界に跨がれる案件として何人も注意研究を要す可き宿題なりと謂はざる可らず。乞ふ、筆を更めて是等の解決に任ず可き諸氏の片影を窺はん哉。

炭一革沿界炭

北米	英	獨逸	佛蘭	露	日	支那	東亞	南亞	西	墨	伊	其	瑞	合
二四八〇	二六〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	一四七〇	一四七〇	一四七〇	一四七〇	一四七〇	一四七〇	一四七〇	一四七〇	一四七〇	一四七〇

北九	畿内	關東	關西	東海	北陸	四國	九州	海外
一六四〇	一六四〇	一六四〇	一六四〇	一六四〇	一六四〇	一六四〇	一六四〇	一六四〇

竹内鑛業株式會社 取締役社長 竹内綱君



我炭界の名士中、其經歷の豊富にして波瀾曲折に富める、恐らく君の右に出るはなかる可し。君は土佐山内侯の家老伊賀家の士たり、天保十年十二月、土佐國幡多郡宿毛村に生る。萬延元年伊賀家の目付役となり、後仕置役、老役に上り主家の家政を改善す。戊辰の役、幼主陽太郎氏を補けて奥羽征討に従ひ、伊賀家の兵二小隊を率ゐる越後より出羽、庄内に轉戦し、事平ぎて後藩地に凱旋す。君夙に開國進取の説を抱き識見時流を抜く。後大阪に在り、伊賀家の藏屋敷を設け國産の販賣を爲す等劃策する處尠ならず。明治三年藩命に依り營業を停止するに至つて官途に就き、同年大阪府典事に出仕、又た小參事に任ぜらる。七年十月更に大藏省六等出仕に任じ、漸やく信望を得たるも、志す處あつて八年十二月野に下り、後藤象次郎氏等と肥前高島炭鑛を拂下げ、自ら長崎に赴き専ら炭鑛經營に任じたり。君亦後藤氏の後を襲ふて蓬萊社々長に推され、兩者の採配に全力を傾倒す。明治十年偶々西南事件連坐の嫌疑を受け、冤を雪ぐ能はずして禁獄に處せらる。眞に奇禍なりと謂ふ可し。出獄後、板垣伯を助けて自由黨を起し、國事に盡瘁する事あり。廿三年國會開設さる、や高知縣より選ばれて衆議院議員となり、前後三回十二年間政府と政黨との調和を圖り、國政協賛の任を竭すこと大なる者あり、明治二十九年板垣を内相に据ゑたる如き君の力甚だ多かりき。十二議會後は意を政界に絶ちて頻りに實業界の發展を圖り、或は京釜鐵道を發起して其專務理事となり

竹内綱

或は芳谷炭礦株式會社(現今の竹内礦業株式會社)を興して現に其の社長たり。又、南日本精糖株式會社社長、株式會社榮銀行頭取、九州炭礦汽船株式會社監査役等に擧げられ我實業界の長老として信望隆々たるものあり。君又我邦鑛業の幼稚なるを慨し巨萬の資を提供して秋田縣秋田鑛山專門學校を創立し、盛んに鑛業界の俊材を養成しつゝあり。其規模の整頓と、教育法の完備とに於て、九州の安川松本氏の經營に係る明治專門學校と相並んで、日本の双絶と稱せらる。君の如きは實に現代實業界の功勞者たるに止まらず、我國産業に對する永遠の貢獻者と謂ふ可き也。(東京市麻布區筈町一四二、電話七一七〇一)

石狩石炭株式會社 取締役社長 淺野總一郎君



始めて和蘭より傳來せし醫學が、日本近代の文明に貢獻したる分量の大なるは實に意料の外に在り。日本と西洋と思想の相通するに至りし、其梯を爲したるは實に蘭語を以て記されたる醫書にして、維新の時代憂國の志士が、夙くも西洋の事情を知るを得たるは、醫書に依りて魁を爲せる蘭學の賜なり。即ち、當時の志士は蘭學を學ぶの捷徑として必らず醫書を繙きたるが故に、國士にして醫事に通ずるもの、醫師にして國事に明らかなるもの頻出し、遂に醫家は其時代の最も聰明なる新智識と目さるゝに至りぬ。淺野氏の家は、其所謂蘭法醫に非ざりしも、越中射水郡藪田村の醫家にして、一村の畏敬を受けたるは云ふ迄もなし。君は嘉永元年三月を以て生れ、幼より我邦の文明と最も接近せる空氣を呼吸したり。而も霸氣盛んなる君は一身を藥香苦味の調合に委ぬ



るを潔しとせず、明治四年東京に出て、一大飛躍を試みんとしたるも、時機未だ到らず。困苦零丁して京濱の間を放浪し、墮弱なる現時の青年が夢想だも及ばざる艱難を経たるが、偶ま横濱の埠頭に石灰の焼塊を購ひ、之を以て巨利を占めたるを前途の成功として、爾來機會を掴む事、鷹の雀を捕ふるが如く、遂にセメント王となり、海運界の大勢力となり、石油界の重鎮となり、高輪御殿の臺頭に輝やく金鱗は其怪光を海の東西に投ぐるに至れり。若夫れ、炭界に於ける君を語れば、常磐全産炭額の三分一を出し、我邦有數の大炭礦たる磐城炭礦株式會社の社長として、殆んど王者の位に在り。石狩石炭株式會社の社長としては、右に東京瓦斯の大顧客を有し左に地方幾多の瓦斯會社の供給を獨占し、將來瓦斯事業の發展と正比例を爲す可き有望の會社を主宰し、又自家經營の淺野石炭部は、京濱其他に於ける九州、北海炭の販賣を爲して牢乎拔ぐ可らざる基礎を築き居れり。殊に君が幕下俊毫雲の如く群がるの狀、恰かも炭界の梁山泊の如く、實に一場の壯觀と稱す可し。(東京市芝區田町五ノ一六、電話芝九八〇)

高田炭礦々主 高田慎藏君

俚諺に「男振りより佐渡の土」と稱へらるゝ其佐渡の國より、一代の巨商高田慎藏君を出したるは必然の因縁とも云ふ可きか。君は同國相川高田六郎氏の長男、嘉永五年二月を以て生る。蕪村の句に「荒海や佐渡に横たふ大の川」と云へる絶誦あり、佐渡は絶海の孤島、其趣豪宕にして峭峻、其島人も亦名匠の句の如き壯大の風あり、君十四歳にして佐渡鑛山見習生となり

先づ黄金の氣を吸ひ、後同島開港局勤務となり、公務の餘暇眼を英書に晒して倦ざりき。君が呱呱の聲を上げし嘉永五年は米使、ペルリ來朝の年にして、その少年時代は、海外の新思潮始めて日本に汪流せるの時なり。私に思へらく、孤島の一腰辨豈我を朽しむるに忍びんやと。蹶然東京に出で、亞連商會に入り、又藥品輸入商英國人ヒア氏に仕へ、勤儉力行、數年にして萬金を蓄へたり。明治十三年ヒア氏歸國するに當り自ら其後を襲ぎて益々事業を擴張し、三井、三菱、大倉等の間に伍して大に海外貿易を起し、拮据多年、或は歐米の實況を視察し來りて其長を執り、遂に今日の成功を贏ち得たり。高田炭礦は福島縣双葉郡に在り、高田商會の一事業として之を經營し、當初は規模設備、炭山の實際に副はずして、缺損を招きしも、去四十四年井戸川義忠氏を礦業所長に選びてより、頓に順況に入り、今や出炭日に増加を來しつゝあり。その炭質の有煙無煙何れの需用にも應じ得るの特色あるを以て、特に好評ありと云ふ。君少年時代に於て所謂「佐渡の土」を掘りたるの因縁熟し來つて、遂に嶺の富を積み、今や又、餘力を常磐の野に試みて、地中の寶庫を拓く、君が吐裏の豪快蓋し「佐渡に横たふ天の川」の概あらん也。(東京市本郷區湯島三組町五八、電話下谷一二二七)

九州炭礦株式會社
專務取締役社長男爵 田健治郎君

東京の炭礦會社に華族の社長さんが二人ある。一は入山探炭の社長郷誠之助男、一は九州炭礦社長たる田男であるが、此の二人の閣下には似た處が妙に澤山ある。先づ其爵位が共に男爵である事。其姓が各一字で名が三字である事。郷と云ひ田と云ふ字の意味が共に田舎びて居る事。又、ゴードンと云



ひデントンと云ふ時は甚だ語呂が悪く、何だか外國語を讀む様である事。

話が他道に外れて少々失敬であるが馬來の新嘉坡邊では倉庫が地下室に決

つて居る。乃で倉庫へ行く事をゴードン(下へ行く)と云ふ爲め、ゴ

ードンと云ふ英語は何時の間にか倉庫を意味する様になつた(倉敷料は

ゴードンハイヤとも云ふ)そして實際の發音を聞くと、ゴードンはゴ

ードンと取れる。次にデントンをデカントと取違へたら、或は男爵閣下の御叱りを蒙るかも知れない。

閑話休題として、男は兵庫縣氷上郡柏原町小倉の産、父君は文平氏、男は安政二年二月その二男に生れた。明治九年愛知裁判所判事補を拜して以來、高知縣警部長、警視廳警視兼警察使、神奈川縣埼玉縣各警部長、逓信書記官、同秘書官、郵務局長、電務局長、通信局長等に歴任し、明治三十一年未松逓信大臣の下に次官に拔擢され鐵道局長を兼ねた。後伊藤内閣の瓦解と共に野に下り、關西鐵道會社長となり、爾後代議士にも選ばれ、又逓信次官にも再任したが三十九年來は九州炭礦會社の社長として、専ら力を注いで居られる。男爵を授けられたるは日露戰役の功に依り、尙貴族院議員に勅選され、名聲噴々たる者である。(東京市麻布區本村町五〇、電話芝一八)

磐城探炭株式會社
取締役會長 田中榮八郎君

兄弟相並んで現代の社會に雄飛せるもの、各方面に其人乏しからず。就中、官界に於ける渡邊氏兄弟(千秋氏と國武子)、學界に於る岡田氏兄弟(良平氏と一木喜徳郎氏)、穂積氏兄弟(陳重氏は已に故



人となれり、實業界に於る大川氏兄弟(平三郎氏と田中榮八郎氏)等最も著名なり。磐城探炭株式會社が其田中氏兄弟を重役として戴けるは、大に誇りとする處なるべし。君は東京府士族大川修正氏の三男、文久三年八月を以て生る。東洋汽船の副社長にして我實業界の大立物たる大川氏は其令兄にして實に男爵澁澤榮一氏の甥に當れり。君少年時代より學問武技を練り、稍長じて出て田中氏を嗣ぐ。田中家は我邦硝子業の元勳にして、夙に製造工場を設け各種の硝子器を製出せり。君即ち斯業に關はりて新工風を加へし事尠からず、今日世に行はる、ビール瓶の如き、君の手に依りて作られしもの、本邦品の嚆矢を爲せりと云ふ。斯て愈よ實業界に濶歩するの基礎を作り、令兄大川氏と協心同力して種々の事業を興し、其田中工場を擴張して東洋硝子會社となせるを始め、明治二十九年には福原有信氏等と共に關東酸曹會社を創め、或は王子製紙、龍東材木、磐城探炭等有力なる諸會社の經營に當りても一も隆運を捉へざる事なく、性質實にして華美虚榮を厭へるが故に、世に花々しき名を諱はるゝ事なしと雖も、其信望の厚くして、實業界に於ける勢力の偉大なるは寧ろ驚ろく可きものあり。磐城探炭は社長たる君と、取締役たる令兄大川氏と、二個一體の大勢力を擁し、而も専務として炭界の元老加藤爲二郎氏を有せり。其經營者に於て些の遺憾なきと共に、前途の希望亦洋々たりと謂ふ可し。(東京市本郷區根津宮永町三六、電話下谷三四一)

入山探炭株式會社
取締役社長男爵

郷誠之助君



豊公の後、暗愚にして亡び、南洲の後、碌々として聞ゆるなし。所謂斯兒不肖の嘆、權家に絶ざる所以なり。然るに、名門麒麟兒を出し、世人をして父子二代の行藏を仰視せしむるもの、我郷誠之助男に於て之を見る。男は、維新の人傑田園天下に半ばすと稱されたる郷純造男の嫡子慶應元年春王正月を以て獅子吼第一聲を擧ぐ。生れ得て氣宇超邁、頭腦冷靜にして風格の高きこと同儕を抜けり。弱冠に達するや、遠く獨佛に遊び、財政經濟の學を専攻す。當時、君が才華最も噴發、天下の富豪たる實家よりの送金潤澤なるに任せ、殆んど歐洲大學生々活の記録を破る可き豪奢の日常を送り、或時は一皿の晚餐に百金を抛ち、或時は紅情綠意の巷にプリンス郷の艶名を喧傳されしと云ふ。歸朝後は其力量愈よ上下に認められ、明治三十三年、自井遠平氏辭任の後を受け、入山探炭株式會社社長となれり。入山は磐城炭礦と雁行する常磐の代表的炭礦なれども、男が就任當時は未だ甚だ振はず。資本金も五十萬圓に過ぎざりしを、七十五萬圓に増資し、男に依て大に活躍せん事を期したるなり。果然株主の期待は空しからず、爾來着々として好成績を擧げ、株主配當の如き一期毎に其率を増して、遂に今日の盛況を見るに至れり。男は別に帝國商業銀行の頭取、東京株式取引所理事長たり。何れも困難の事業なるが中にも取引所理事長の如きは到底凡庸の器の當り得る處に非ず。而も、男は此等の難局を變理する事刀を振つて物を割くが如く、之く處悉く其力量の非凡なるを示しつゝあり。男亦宗教的修養あり。自家の富に驕らず、地位の順なるに馴れず、嚴に己れを律し毅然として身を持ち、世の片々たる貴族の態なき、蓋し、其修養の賜なる可きか。男や年齒尙壯に

して已に實業界一方の覇者たる亦壯なる哉。(東京市麹町區上二番町二八、電話番町五七二)

日本煉炭株式會社 取締役社長 小野金六君



君は嘉永五年八月を以て山梨縣北巨摩郡韭崎村に呱呱の聲を擧ぐ。嚴父を傳吉氏と稱し、酒造及び呉服商を營み、富裕を以つて近郷に鳴る。君は其第二子なり、寺小屋に通ひたる當時より四書五經の素讀を能し、天資穎敏にして機才あり、少年の時既に郷黨に異彩を放ち、十四歳にして同地方の酒造業者より撰ばれて其取締役となり、幹旋頗る努むる所ありしが故に、聲望漸く高きを致したりと。以て其の才幹の非凡なりしを知るに足らん。稍長するに至り、縣當局者と謀りて甲信兩國に食鹽の輸入を策し、又は養蠶業の發達を圖りて種苗の培植に努めたるも、不幸にして共に失敗に期したるを以て、此に第二の策を樹て、會て取引先たりし江州商人より若干の反物を借入れ、自ら遠近各地を巡りて卸賣業を營み更に利する處なかりしも屈せず。明治九年夏生絲相場の大變動あるに際し全力を傾倒して輸贏を争ひ幸にして數千金を儲け得たり。西南の役起るや、米物の騰貴を察し故岩崎彌太郎氏と謀り、清水港の米商人を訪ひて巨額の購入を爲し、之を米商會社に轉賣して一舉巨萬の富豪たるに至る。此所に於て甲府第十國立銀行の出張店を設け、又は深川に倉庫業を開始したり。超て二十年第九十五銀行取締役支配人となり、後副頭取に進み、能く同行の衰運を挽回するを得たり。更に東京割引銀行を起して其頭取に推舉せられ、又甲信間の交通機關の不備を慨して甲信鐵道會社を

起さんとしたるも財界周圍の事情は之れを容るゝ能はずして成らず。二十九年臺灣の我領土となるや臺灣鐵道會社を創立せしが、戦後經濟不振の結果遂に解散の止むなきに至れり。斯くの如くして一敗一勝蹉跌顛倒亦た起つべからざるの感ありしも、精力絶倫にして千挫屈せざるの努力は能く頽勢を翻して遂に陶朱の富を重ね、現に小百嶺山合資會社、日本煉炭株式會社社長たるを初めとして東京割引銀行頭取、富士製紙株式會社、富士水電株式會社各社長、桂川電力株式會社、加納嶺山株式會社相談役、山梨輕便鐵道株式會社、帝國商業銀行、武藏電氣鐵道、小倉鐵道、朝鮮漁業株式會社、日本畜産株式會社各監査役、東京商業會議所常議員等の要職にありて東都實業界に覇を稱ふ、老成謹嚴眞摯にして温乎たる風平自ら長者の風あり。(東京市麹町區飯田町三ノ二、電話番町二五三)

北海道炭礦汽船株式會社 専務取締役 磯村豐太郎君



君は大分縣の人で明治元年の生れである。郷里の小學校を卒業した後は東京に出で、慶應義塾に學び、三十二年優等生を以つて全科を卒業した。君の心は此時に於て迷つた。實業界に投すべきか。官海に進むべきか。其選むべき途は幾らもあらう。差當つて官人生活を試むべく遞信省に職を奉じて、腰辨の仲間入をして見たが、思つた程面白くなく志を伸ぶるの地にあらずとして、更に操觚界に投じ、暫くは記者生活を送つて令名斯界に聞へたものである。併し文筆の末技に没頭して居るといふのは男子の本領にあらずとして、實業界に入らんことを希望し、二十七年

日本銀行員となつたが銀行事業は餘りに無味淡白に感ぜられたので、更に二十九年三井物産會社に入社した。君は此所に於いて少しく商業上の趣味を感じ、社務に精勵した結果として年々累進して、營業部長までに重用せられ、更に機械鐵道用品並に金物取扱部長を兼任したのである。君は此の時代を以つて除ろに得意の舞臺に入り、畫策することは毫も誤ることなく、その先見の明あるは周圍の人をして一驚を喫せしむる事が多かつた。加ふるに事務を總ぶる點に於ても極めて明敏であつたがために、部下の人々よりは少なからず畏敬せられ、長上よりは重きを置かるゝに至つたのである。此時に於いて外國貿易上の重要な倫敦には外交的手腕あるものを必要とし、衆望遂に一致して君は英京倫敦の支店長として輸出入貿易の業に従事したのである。併し君の經營的手腕は長く倫敦支店長として單に取引上の事務に齷齪せしむることを許さず。兩三年にして再び東京に歸り各方面に互つて君の意見は三井長老の傾聽する處となつた。特に三井所屬の礦業經營に就て貢獻する所少なからず、同社の事業は日と共に各方面に發展し、礦業部に於ては北海道炭礦汽船株式會社を其勢力圏内に包容するに至つて、君は其の専務として専ら事業の經營に盡瘁するに至つた。北海炭礦今後の發展は君の力に依るものが多からう。君が赤手を揮つて今日の地位を擧得し、三井を中心として中央の實業界に覇を唱へつゝあるは偉とすべきである。(東京市芝區高輪南町三八、電話芝一二四九甲)

磐城炭礦株式會社 專務取締役 佐久間精一君

人と交るに苟くも禮を失はず、謹嚴直行事を處する周到綿密にして一糸亂れずとは、恐らく佐久間翁



を語るに就ての適當なる言葉であらう。君は安政元年常州東茨城郡川根村に生れ嚴父を庸氏と呼び其長男である。明治元年の頃家を擧げて江戸に上り、牛込區竹島町に住み、布治師一郎といふ人の漢學塾に學問をしたのである。後夫人の實父佐々木莊助氏の創立にかゝる内國通運株式會社に入りて深川支店長となり、傍ら東京灣の汽船營業を營み、共に業務の隆盛を圖つ

た。功に依て内國通運の支配人に擧げられ、二十二年には東京灣汽船會社の取締役となり、二十六年には、内通の副社長から社長にまで進み常務取締役を兼ねた。是れが翁の前半生の成效であつた。炭界の一人となつたのは明治二十七年磐城炭礦株式會社の監査役となつたのが、其の初舞臺である。次で三十二年、日本通商銀行株式會社の創立に際し盡力の功少からずとして取締役に推され、三十四年茨城探炭株式會社創立に斡旋する處多かりしを以つて其取締役となり、其他津田沼製鹽、小名濱製鹽株式會社等の重役となつて今尙數會社の重役を勤め、其實業界に貢獻したる多年の功蹟は擧げて算ふべからざるものである。君夙に公共の事に念ひ深く二十九年麴町區會議員に擧げられ、區政に參與し令名あり、又慈善公共の事業に對し私財を投じて義捐したる所は實に莫大なるものであるといふ。現下翁の社長たる磐城炭礦は一年の産額實に五十餘萬噸に上り日本の炭礦としても屈指の大礦山である令息庸一氏は茨城探炭支配人に莊一氏は亦磐城炭礦購買課長の要職に任り、共に翁の後繼者として、將來の實業界に雄飛すべき運命の上に活躍しつゝあるのは一家の幸福之れより大なるはなからう。平素の嚴正謹直、苟くも論せず、苟くも談笑せず。對話の人をして自ら襟を正さしむるものもあるも、其半面に於て唯一の

娛樂とするものは思ひも附かぬ淨瑠璃の穩し藝である。談偶、斯藝に及ぶあらば平素の四角四面の様子はガラリと變つて宛ら別人の如き感あらしむるは藝術の徳も亦偉大なりといふべしである。(東京府豊多摩郡大久保百人町三三二、電話番町一九三八番)

好間炭礦株式會社
取締役社長 白井遠平君



磐城炭礦の専務佐久間氏と相並んで、常磐炭界の二本柱たる君は福島縣平の産、白井幸助氏の二男にして、弘化三年四月を以て生る。磐城は由來東北の雄鎮、山水の秀と氣候の峻と一個剛健の郷土氣質を打成して、氣骨稜稜たる傑士を出せし事少なからず。殊に、平は常磐炭田の上に築かれたる一都會にして、古來交通貿易の要區に衝れるが故に、實業家中炭礦經營に志せるもの多く、君の如きは其最も傑出せる成功者の一人なり。君始め常磐の地位東京と相近く、此の地方の炭田を開拓するは國家經濟上喫緊の急なるを曉り、自ら採掘の計畫を樹てたる事あり。明治二十六年磐城炭礦の重役たるに及んで、始めて其抱負を試み、拮据して今日の基礎を築きたるも、君が志は素と一炭礦の經營に非ず、汎く地方の富源開拓にあるを以て、單に一會社に膠着するを喜ばず自己は平取締の地位に甘んじ、専務の要職を他に譲りて偏へに實益の擧らん事に努力したり。後磐城を辭し川崎八右衛門氏等と圖りて入山採炭株式會社を興し、之が社長となり後更に好間炭礦を經營し三十三年入山の社長を辭して後任に郷氏を推薦したるも、衆望君を繋いで絶縁する能はず、三十六年

に至る迄取締役として其の經營に參與したり。同年、入山を罷むると共に從來の個人經營たりし好間炭礦を株式組織とし、君が理想たる地方の開発着々として實現せるを以て茲に好間の經營に全力を傾注するに至れり。好間炭礦は其組織株式會社なりと雖も株主は悉く一門同族にして君一個人の經營と毫も異なる事なし。蓋し磐城、入山、好間の三炭礦は皆磐城第一流の大會社にして、何れも君が裨育を受けたるもの、君の如きは實に磐城炭界の慈母嚴父と稱す可きなり。君傍ら公共の爲に力を傾け現時の國鐵常磐線は頭初君の創意計畫を日本鐵道に引継ぎし者に係る。如斯なれば郷黨の信望殊に厚く、嘗て福島縣會議員となり又帝國議會の初期に衆議院議員に選出されたり。當時國防經濟上の見地より常磐炭田を開拓せざる可らざる建、白書を提出して大に識者の注意を惹けり。君は有名の子福者にして男女二十四人(内十八人健在)あり、二男大森鎮平氏は現に好間炭礦々業所理事として令聞あり四男時三氏は中澤彦吉氏の養嗣子となりて其名を續ぎ、其他一門の子弟何れも英俊、眞に濟々たる多士の感あり。(東京市本郷區駒込千駄木町三三二、電話下谷一七九番)

茨城無煙炭礦株式會社
相談役 伊藤藤一君

君は舊幕臣伊藤幸之助氏の長男、弘化元年十一月を以て江戸に生る。十歳にして嚴君を失ひ、稍長じて維新の政變に逢ふ。君幕臣として徳川氏の覆へるを見るに忍びず、敢然孤忠を守り、同志と共に東北に脱走して、常陸下野の野に大に官軍と戦ふ。而も、汪洋たる時勢の流れは能く孤巖の支ふる處にあらず、同志潰裂四散、君亦刀折れ矢盡きて、静岡に奔る。静岡は慶喜公が恭順の誠意を表したるの



處なり。爾來春花秋月、王政古へに復して回天の事業全たく緒に就く。君翻然として悟る處あり、明治四年東京府に出仕し、東京府師範學校、宮城師範學校、學習院等の創設に與かる。西南役後、國利民福の實業興隆に俟ざる可らざるを感じ、十一年東京株式取引所の設けらるゝや、入りて其書記長となり次で支配人、理事に歴任す。四十四年十二月理事の職を辭せりと雖も、今日尙ほ相談役に推され、株式界の老成家として重望を負へるは、實に創始以來の柱石たるが故也。炭界の人としては君は元茨城無煙炭礦株式會社取締役社長、入山採炭株式會社取締役、茨城無煙炭共同販賣所出資社員等を重なる者とす。入山採炭は磐城炭礦中第一流の列に在り、磐城炭礦と併稱さるゝ事人の知る處、茨城無煙炭は常磐無煙炭礦中最初最大の炭礦にして、其商標より稱呼さるゝ丸茨無煙炭は類品中最も優秀にして信用あるも亦世の認むる處なり。而して君此等の會社重役として劃策盡力せること尠なからず。特に常磐炭界のオーソリティーとして、同業者の信頼甚だ厚し。其他君の關係事業を舉げば、日本メツヤス會社、東京灣汽船株式會社、二十七銀行各取締役、東京瓦斯株式會社、帝國商業銀行監査役其他數會社あり。又東京市會議員、麴町區會議員常議員等名譽の公職に舉られし事列舉に違あらず。(東京市麴町區下二番町四二、電話番町二五〇番)

大夕張炭礦株式會社 取締役兼支配人 淡中孝八郎君

北海道夕張郡清水澤に莫大の礦區を有する大夕張炭礦株式會社は昨年三菱合資會社に買収せられ、君



は其系の代表者として入つて取締役となる。就任以來内部を整理して、效果大ひに舉り社中君の手腕を稱せざるものなし、君は土佐の産にして慶應二年九月高知市に生る、明治十六年上京して、二松學舎、慶應義塾に學び、後自由新聞社に入つて筆を執る。二十三年取引所法制定せらるゝに當り全國取引所期成同盟會のために、各國取引所の實況調査を囑託せらる。二十六年北海道に於て取引所及銀行を設立し、次で北海道殖民鐵道株式會社を設立し、政府の保護を得て豫定線を速成して拓殖の業に資せんと企圖せしも、帝國議會の容るゝ所とならずして止みたるは君の夙に遺憾としたる處、後東武鐵道の創立に力を盡し成立の後舉げられて支配人となり、其經營に任ずること十年尋で滿洲製粉株式會社を創立して監査役に舉げられ、現に大夕張炭礦の浮沈を双肩に擔ひ、三菱の所有せる北海道礦區中君の獻策に依り經營せらるゝ者少なからずと云ふ。曩に日露役後ポーツマウス條約の結果として樺太の割讓と共に沿海州漁業權を得たるを機とし、大北水産株式會社を起して漁撈業に従事し、以つて樺太割讓の實益を擧げんと欲し、重なる實業家に協りて其の賛同を得たるも、時の外相小村壽太郎氏の阻止する處となりて止みたり、多く計り多く行ふの人として君の如きは甚だ稀れなり、夫人を春子と呼び正也、信子、光子の三子あり。(東京市麻布區筈町八〇、電話芝一九八四)

山下汽船合名會社 社長 山下龜三郎君

合名會社といふも實は山下氏と其令閨かめ子二人の名によつて組織されて居るので會社の資本金は十



萬といふも同社以外に幾多の會社の株券をシヨタマ抱き込んで居る點から
 看れば現下君の家財は二三百萬は動かぬ所だらうといふ噂である。君は慶
 應三年四月、伊豫の國北宇和郡喜佐方村の百姓の子に生る。君の生れた頃は
 家運甚だ振はず、夙に學問を志して居たが、殘念ながら幾分の學資を投じ
 て遊學することは出来なかつた。されど子供心にも人に敗ける事が嫌ひな
 天敏の才は何時迄も田舎のお百姓の子として燻ぼつて居ることは出来ぬ、村の物知りの老爺から先輩
 の成功談や、時世の進歩する有様などを聞いては齒嚙みをして密かに將來の大成功者たらんことを願
 つた、十六歳に僅か十五兩のお金を懐中にして飄然として京都に飛び出して苦學生の一人となつて普
 通學を修め、明治十九年更に東京に上つて同じく新聞配達や牛乳配りをして明治法律に通つて理財學
 を修む、其後日本橋區通一丁目の大倉孫兵衛氏の商店に這入込んで親しく商業の心を覺え熱心に商
 賣の運用に全力を傾倒したのである。併しながら他人に使役されて居たのでは遂に頭の上りッこはな
 いと固く決心をして單衣物一枚で横濱へ飛んだ。それは二十七年である、開港場とて空拳徒手の彼れに
 何物が得られるであらう、三年間苦勞の有りたけを仕盡して具に浮世の辛き經驗を嘗めた。生弱い男
 なら此邊で匙を投げて了う處だが、霸氣横溢、精力旺盛なる君は尙ほ奮闘を續けて僅かばかりの貯蓄を
 なし、初めて元濱町四丁目に石炭店を開業して横濱石炭商會と名づけた、石炭店は君が横濱に飛んだ時
 からの志願であつた。此の小さな踏み臺が出来ると一層の奮勵努力をして業務の發展を圖り店運漸時
 盛なるを得た。三十六年日露の風雲急なるに際し商機に敏なる君は全力を傾倒して汽船二艘を購ひ、開



戰と共に海運業に従事し、且つ多額の石炭を賣り込んで巨利を博した。其後東京に本店を置き神戸、門
 司、横濱の各地に支店及出張所を設け深川にも倉庫を建て汽船と石炭とを業として商運は日々に隆盛
 を致し其餘力は延びて信濃硫黄、小樽木材、朝鮮倉庫會社等の重役となり、日本船主同盟會評議員、石炭
 商組合評議員等をかね近く日本商船株式會社々長の椅子をも占めて居る。身を粉にして働らき出した
 金を持つて苦學せる一介の貧書生から身を起して今は中央の舞臺にも屈指の實業家となつたのは只夫
 れ偉大なる精力の賜といふべきである。君は今日と雖も尙ほ昔日以上の精力を以つて事業の發展に盡
 瘁し追々生活を樂む時代に入りながらも道樂と言へば只事業嗜きといふの一事である。後進者は君の
 如き好個のお手本を見て、大ひに發奮努力すべきものだ。(東京市芝區高輪南町四七、電話芝二二四番)

王城炭礦株式會社 取締役社長 川合芳次郎君

君が嘗て王城炭礦會社々長たりし時、秀絶なる其八尺層炭を提げて日露戰
 後の炭界に花々しき活躍を試み純益の多きに乘じて二十四割の株主配當を
 なし以て株式界を驚倒せしめたるは、今も尙ほ同業者の記憶に鮮やかなる
 處なる可し。君は實に名刀の如き事業家にして、其の光鋒の一閃する處截
 然兩斷せざるなきの切味あり。商才の喚發突嗟にして物に觸るれば紫電目
 を眩し、忽ちにして高塔聳え、忽ちにして大河横はる。光彩陸離と謂はむか、變幻不測と謂はむか。
 何れにするも其機略の非凡なる、其手腕の超群なる凡俗の端貌を許さざる者あり。蓋し君は日蓮主義

の歸依者宣傳者にして、胸に華嚴の妙諦を住し、勇猛精進の大勇氣を得し居れるが故に、事業經營の方途、自から一流の獅子吼に似たるもの乎。明治十七年君が横濱に兩替業を営みし時、連日殆んど百萬圓の取引を爲せしに係らず、朝鮮事變の餘波を浴びて形もなき失敗の淵に沈淪せる如き、其盛衰の飛放れたる點に於て、尋常を抜けるに非ずや。後君獨力を以て横濱久保山に日宗の一寺院を建立し、妙鏡山川合寺と稱す。北米市俄古に萬國宗教大會の開かるゝや、自ら日蓮宗の代表者として參列せるに至つては、益々異采ありと云ふ可し。廿三年美術商會を起し又横濱貿易會社社長となり二十九年以來王城炭礦を始め十有餘の銀行會社に重役となり、何れも其の辣腕を揮ひしも、君の主力を注げる日宗火災保險の頓挫以來又振はず、一たび王城炭礦をも辭せしが、昨年再び苦境に在りし同社の社長に就任して、社運挽回に努めつゝあり。君が就任と同時に久しく出水に侵されし八尺層に着炭して、社員皆好縁喜を祝したるに徴して、王城の前途頗る多望なるを疑はず。君は三重縣の人、川合伊助氏の四男にして安政二年十月を以て生る。佛教に關する著書數種あり。(東京芝區二本榎町一ノ六、電話芝四二八番)

入山探炭株式會社
常務取締役

内田直三君

其學殖、人格、識見、抱負に於て君は常磐炭界第一流の傑物なり。其威望、主張に於ても君と重きを争はんとする者果して幾人かありや。範圍を大にして之を全國炭界に見るも、優に其第一級の椅子に倚ることを得可し。君は神奈川縣足柄上郡澤村内田猶左衛門氏の長男、慶應三年八月を以て生る、明治十七年上京して慶應義塾に入り二十年十二月を以て業を卒ふ。君夙に治國平天下の志あり辯論を練



り文章を修め、私かに政界雄飛の秋を窺ふ。即ち其主義を述べ經綸を吐くの機會を繁くせんが爲め、卒業後有志と謀りて書籍出版業を営みたるも、一敗地に塗れて又起つ能はず。於是乎節を屈して日本鐵道に入り醒醒たる一腰辨となる。而も、機鋒は包む能はず。才幹忽ち社長小野義真氏の認むる處となり文書掛長に拔擢せらる。後、小野社長の職を辭するに際し、君も

亦辭任し、更に入山探炭株式會社に入り其支配人となれり。由來磐城炭は其質九州北海炭に一籌を輸し、炭礦經營の方法亦甚だ振はず、東京方面の需用の如き、近年まで頗る微々たる者あり、君が入社當時は粉炭を擧げて廢物同然に取扱ふ有様なりしを以て、君は先づ此點に意を注ぎ、鐘淵紡績其他に粉炭を賣込みて大に利用の法を講じ、或は日本鐵道に運炭賃特定の交渉を爲して、炭價の低減を圖る等々機宜の措置を取り、爲に磐城炭全般の活氣を誘ひて非凡の才腕を認められたり。爾後、株主の信任を得て常務取締役に擧られ、今や入山の名聲隆々として旭日沖天の概あるに至れり。大正二年八月十五日、伏見宮博信王、華頂宮博忠王兩殿下、福島宮城地方御巡遊の序を以て入山第四坑に台臨あり、具さに探炭の實況を御覽せらる。皇族の尊きを以て玉歩を炭坑に狂させらる。恐らく空前の事にして、入山の光榮眞に無比と謂ふ可し。而して此光榮に浴するの基礎を爲せるもの、炭坑の地位と、炭質の良好と、炭礦當業者一統の精勵の結果に依る勿論なるも、常務として多年心力を傾けたる君が功も亦少なしと謂ふ可らざるなり。君別に萬歳生命保險株式會社、磐城耐火煉瓦株式會社、東京製絨株式會社各取締、株式會社啓成社監査役たり、性沈毅にして邊幅を飾らず、殊に當年の霸氣未だ衰へ

北海道炭礦汽船株式會社
支配人 法學士 志田勝民君



君は長崎縣大村の藩士、志田宗一氏の長男である。父君宗一氏は維新革命の頃には薩長の志士と交り、熾に革命運動をやつた人である。明治の聖代には辯護士となつて令名高く、又長崎市に新聞を起して縣民指導の先驅者となり、縣の名譽職にも擧げられ政界一角の重鎮と仰がれた。其性恬淡にして財に親まず、公共事業などに盡瘁し資産を蕩盡して顧みたることなく、頗る氣節を貴び宛ら古武士の風ありし爲、衆人の崇敬する處となつたのである。今の長崎日々新聞は即ち宗一氏の手によつて創立されたもので、會社の資本は今尙相續者たる、君の權利に屬するものである。嚴父は君の幼少の時此世を去り母堂榮子の手に養育された。斯くして君は長崎の小學校を卒業し、中學を経て第一高等學校に入り常に優等の成績を占めて法科大學に入り、二十三年法學士の稱號を得て、勇ましき處世の首途に立つた。卒業後早稻田大學に聘せられて講師となり、後三井に入つて、鑛山部の人となつた。此當時君は支那事情の研究に志を寄せ機會あらば清國を漫遊して見たく思つた。恰も好し、三十六年清國張之洞の聘する處となり教師堂の政法學講師として教鞭を執り、傍ら支那語を學び併せて支那の貿易事情をも研究して得る所あり、歸朝後再び三井物産に入つてからも同社の爲めに支那貿易に關し貢獻する處少なからざるものがあつた。夙に磯村氏によりて其才幹を認知せられ、秘

書役として才識ある事務家として重用されたのである。大正二年北海炭礦が三井の勢力圈内に移されて磯村氏が其專務となるに及んで君も亦支配人として同社に入つた。君未だ不惑を過ぎず、春秋尙甚だ高きものあり、若夫れ努力して止むなくんば、他日三井物産會社の要職に進み實業界の重鎮となる決して至難の業ではあるまい。加ふるに君が法政上の智識は他日政界の舞臺に上るべき要素あるを以つて、君の前途は洋々として大海の如く、その局面の變る時期も遠くはなからうと想像される。(東京市牛込區北町一四)

大東鑛業株式會社
取締役社長 山本久顯君



日本に於て純無煙炭を産出するは山口和歌山及熊本縣下天草の三ヶ所に過ぎぬ。大東鑛業會社は、主として其天草無煙炭の採掘販賣を營む者にして社長山本君の鑛山事業成功者たる經歷と共に、多大の信用あり最も有望と目せられて居る。君は高知縣高岡郡大篠山本久光氏の男、明治三年八月一日を以て生る。郷里に小中學校を卒へて京都に出で、同志社に入り、後上京して東京共立學校を卒業し、明治二十年帝國大學に入つたが、翌年退學して米國に赴き、オハヨー大學に學ぶ事多年、更に英佛獨等の各地を漫遊して二十七年歸朝した。時に日清事件起り國內騒然たる有様なので、君は私かに時局の推移を見戦後より『東華報』と題する漢字新聞を發行し、極東政策其他經濟問題に就て大に氣を吐いた。爲に其眞價を認められ佛國事務官囑託として約一ヶ年、樞要なる國際

事務に參與した。其後職を罷めて居る大阪にトし、鑛山事業に關係して數年の間に巨萬の富を得、茲に我實業界に飛躍す可き素地を作つた。乃ち東京に出て檜舞臺の役者となり、其交際の多方面にして機會ある毎に擡頭する武者振りは誠に勇ましい者であつた。又、公事に關して財を投するを吝まず、先輩に對するの禮甚だ厚く、板垣伯の如き君が厚意を徳とせられし事尠ならずと傳へらる。大東鑛業は昨年冬、盛んなる人氣を以て創設された。其前後都下の新聞は筆を揃へて天草無煙炭の有利有望なる事を吹聴した。而して同社は創業以來極めて順潮に業務を進めつゝある。蓋し、斯の如きは君が事業經營の手腕と新聞政策の巧妙とを證し得て餘ある者であらう。君また南日本製糖株式會社の社長として敏腕を揮ひつゝあり。其臺灣に於ける工場設備の整備せるは痛く島民の信頼を繋ぎ、前途頗る有望なりと稱されて居る。(東京市麻布區筈町九、電話芝九六五番)

奔別炭礦株式會社 取締役 佐々木慎思郎君



君は東京の人佐々木直右衛門氏の長男にして、嘉永元年五月十五日を以つて生れ、多年實業界に身を委ねて其名汎く聞ゆ。試みに君の今日まで手を染めたる事業を舉れば其數少なからず、就中二十二銀行頭取、東京海上保險、日本耐火煉瓦、東明火災海上保險、日本興業株式會社等の各重役に擧げられ、東京商業會議所評議員たり。君は由來斯界の奇峭者として一部人士に知らる。本社が這般炭界一百人を編し、聊か同業者間の取引關係に便ならしむるを期し、一つは

以つて炭界の小紀念物たらしめんが爲め、乞ふて君の經歷を聞かんことを求めたり。君の答ふる所に曰く、「斯の如きは余の主義に反するを以て斷じて貴社の請を容るゝ能はず」と、所謂主義とは果して奈何なる意味に於て唱へらるゝものなるか、吾人未だ之れを解せずと雖も、若し自ら己れを誇るの弊に流るゝを陋なりとせば、之を避くるに自づから適當の方法あるべし、若夫れ玉石混合を忌むとせば、そは餘りに偏狭にして、窮窟なる解釋にはあらざるなきか、抑も亦世人の虛榮心を挑發せしむるの弊ありといふにあらば、君は弊害の一面を見て未だ利益の半面を見ざるものといふべし。世人の君を以つて奇峭なりとなす所以のもの亦或は這般の消息を語るものにあらざるか。吾人未だ君の「主義」なるものを聞く能はざるを遺憾とす。君の目下社長たる奔別炭礦株式會社は日本興業株式會社の後身にして、北海の炭礦會社中優秀の位置を占む、「炭界一百人」を編むに當り、奈何でか君を書外に逸することを得んや、君の拒絶あるに反し、強て尊名を加へたるは之が爲なり。君希くは諒せよ。(東京市神田區西小川町一三、電話本局一〇二六番)

三井物産株式會社 取締役 福井菊三郎君

三井物産の重役中、石炭に關する智識の最も豊富にして、其關係の密接なるは恐らく君であらう。三井の採掘高が日本第一にして、其産炭が全國到る處の重なる需用地は素より、支那、印度、露西亞、或は馬來半島、比律賓群島に至るまで、内外無數の競争者を壓して、莫大の輸出を爲し、而も尙ほ着着として機先を制し、益々其販賣額を大にしつゝあるもの、雲の如き俊材を拉し來つて要所々々に配置



云ふ。君は江戸ッ子である。江戸ッ子は五月の鯉の吹流し云々の狂歌もあり又宵越の銭は遣はぬと云ふ感情の爛漫にして櫻花の如く、其中に氣輕な一種のユーモアを有するを特質として謳はれて来たが、君は此と反對に極めて地味な、謹直な、沈着な人である。殊に思慮の周密なるは物産中の異彩と稱さるゝ程で、此思慮に依て割出るゝ計畫は、餘蘊なく仕事の上に發揮される。君が一度頭を捻つて考へ出した事は殆んど一失なしと云ふ有様で、其卓越せる見識には何人も敬服する處である。聞く君の高等商業を出しは僅かに十八歳の時なりしと、以て其の天才の如何に發揮せしかを知る事が出来やう。爾後三井に入りて除々に手腕を認められ、明治二十五年には新嘉坡支店支配人となり、次で香港支店長に任じ、物産の組織更革あるに際し撰ばれて本店營業部長に榮進し、更に大阪紐育等の支店長を勉め上げて四十二年十月、常務取締役と云ふ四本柱の一人となつたのである。君壯齡尙ほ四十七歳（慶應元年生）眞に大なる働き手として、我實業界に雄飛する好年配盛りである。此年配と手腕と地位と勢力と、及び精力との全幅を傾くるに於ては、三井の社運と共に君の將來も亦汪洋なりと謂はねばならぬ。（東京市麻布區東島居坂町二、電話芝二六八三番）

三菱合資會社 營業部長 江口定條君

東洋事業界の一角に雄飛して覇を天下に唱へつゝある三菱合資會社の營業部長として社中の輿望を負ひ、智略縱横その快腕を試みて、中央の實業界に處する策戰を按じ、複雑なる營業各種を主管する大本營たると共に、同社の石炭營業をも一切其指揮下に活動せしめつゝある君は高知城下の人、慶應元年四月を以つて生れ、明治四十三年分家し、令兄陸軍少將江口昌條氏が本家を相續したのである。由來土佐は板垣自由翁を出した因縁を以つて政治論の淵藪地とも言ふべき所である。君は土地の名門の産たると共に才識の群を抜けるものありしとよつて郷黨の矚目する所となり、自分も一時は政治圈内に投せんとした。されど時代の趨勢を見るに敏なる君は翻然として志を轉じ實業界に着眼したのである。此所に於てか笈を負ふて京に上り高等商業に入つた。その卒業證書を得たのは明治二十年のことである。此所既に先輩諸氏よりも頭腦の明敏にして學者としての價值あるを認識せられ、卒業と同時に母校の教師となり教鞭を執ること數年、後三菱合資會社の招聘する處となつて東京及び大阪に銀行事務を執ること約十年、三十二年長崎支店長となり、爾來石炭、銅及び其他の礦物の販賣並に同社の所有に屬する多數汽船の操縦を掌り、後門司支店長を経て本社礦業部の副長となり終りに去る四十三年を以つて本社の營業部長に拔擢せられ、三菱合資會社の本社營業部を首めとして、日本内地から、漢口、上海、香港、新嘉坡、馬尼刺及び英國等の各支店及び代理店は皆君の指揮監督に屬し二億萬に達せんとする大會社の營業は悉く君の胸算に出づるものとなつた。今や君が天稟の機略は思ふ存分に施し得らる

るの要職に上り名望實力兩つながら本邦實業界の雄と稱されて居る。夫人春子との中に五男四女あり、和氣一門に横溢せるは人の羨望措かざる處である。(牛込區赤城下町五三、電話番町一七二七番)

三星炭礦株式會社 取締役社長 松本孫右衛門君



昨年、衆議院議員總選舉の行はれた際、東部の炭業者から二名の代議士を出した。一は日本煉炭の重役であつた濱本義顯君にして、一は即ち松本孫右衛門君である。濱本君は其後煉炭を辭し、目下城戸炭礦株式會社社長として就任し、松本君は現に常磐兩地に跨り、有煙無煙の兩種炭を出す三星炭礦の社長として、斯界に重きを爲して居る。君が議會に於る言動としては特に世の視聽を動かしたのものもないが、福島縣の一部を代表する少壯議員として、政友會に動かす可らざる位置を占めて居る。殊に君の才幹識見は郷黨の間に異常の信望を博し、強て代議士に推されたのも今度で二度目である。君は、又鈴木藤三郎氏と日本醬油釀造株式會社の事業に與かり、其監査役として大に力を盡した。地方に在ては福島市に發行する福島民報の社主として、之が經營に任じて居る。同紙は舊自由黨系の機關紙にして、始め河野廣中其他諸氏の經營であつたが、同氏等失敗の後を譲られて自ら之を引受るに至つた。於是乎君は右に磐城炭界の四本柱と稱さるる三星炭礦の經濟的利刀を提げ、左に向ふ處敵なき言論機關の大劍を横たへ、中央と地方との實業界政治界を潤歩しつゝあるが、更に君が家は資産豊富なる土地の舊家であるから、所謂鬼に鐵棒以上に三拍子揃つて居ると謂ねばな

らぬ。君が主力を注げる三星炭礦は此夏綴坑に出水し、一時採炭の中止を餘儀なくされた。而も君を始め幹部諸氏の善後策宜しきを得て間もなく復舊の運びとなつたのみならず、別に三百萬坪の最も有望なる新礦區を買入れ之を採掘することになつたから、一場の災禍は却つて會社の幸福を醸した譯である。君は福島縣相馬の醬油釀造家松本仙藏氏の長男、明治六年一月生れで、僅かに不惑を過した許りである、其前途の發展は刮目仰視す可きものがあらう。(東京市下谷區谷中清水町一二、電話下谷一〇三六番)

三井物産株式會社 門司石炭部東京支部長 赤羽克己君



君は明治二十七年の高等商業出身で、卒業當時の優等なる成績と云ひ、又その才識の凡庸を抜けると云ひ、同級生は素より、教師の間にも大なる未來を囑された者である。果然周囲の期待は尠らず、中途若干の波瀾に漂ふたに係らず、今や三井本店の石炭部主任として、極めて重要な地位に居り坦坦たる向上の門戸、眼前に展開せられつゝある。君は福井縣若松市の人、明治二年を以て生る、少より磊落豪放、氣を負ふて敢て下らざるの概あり、父祖の家道を繼いで普通の商賈たるには餘りに圖抜けて居たので、父君も此兒教ふ可しと思つたのであらう。君の思ふが儘に學問をさせる事になつた。乃で、君は郷里の中學を卒ると東京に出で、遂に高等商業學校に入り、十二分に實業家として立つ可き最新最高の學理を修めたのである。卒業後は貿易商堀越商店に入り、又笠戸丸事務長として航海業にも従事した。其後三井に轉じ、四十年には口之津支店長となり、二年の後に

は三池支店長に榮進して大に腕を揮ふの機會を得た、然るに運命の謎は解き難い、四十五年には三井を罷めて大阪の朝日紡績に入り、應て同紡績の悲運と共に殉じて境遇に一頓挫を來した。之ぞ君の過去に於ける一大波瀾で、曩日轡を並べて高商の門を出た坂田通商局長や、福田法學博士や或は澁澤男の腰刀と稱さるゝ八十島親徳氏等に一籌を輸するの觀ある原因だと云ふ者もある。而も榮枯窮達は必ずしも人間の價値に伴ふ者でない。單に物質的成功を尺度として付度しては、恐らく君が胸底の一物を測る事は出來まい。區々たる境遇の消長は男子本來の面目とは没交渉である。見よ、君を禍したる波瀾も今は一場の昔話となつた。君の敏腕は先輩の惜む處となつて、再び三井の巨城に入つたのである。思ふに善謀善戰、一騎當千の強者たる君の今後は必らずや軍容を整へ、武備を新たにして強敵三菱と陣頭に相呼應する事であらう。吾人は多大なる興味をかけて這個炭界の勇士の奮闘振りを見んとする者である。(東京市日本橋區西河岸、鳥鐵旅館内)

三菱合資會社 東京支店長法學士 大石廣吉君



加藤高明男が三菱の一雇人から彌之助男の女婿となつて、三菱筆頭の權勢家となるに及んで、赤門出身の法學士は大分三菱畑の諸會社に植つけられた。由來赤門出の人物は一般に實業界よりも官海に投ずるを以て出世の早途としたものであるが、實業家の位置が漸時昂進すると共に、報酬の點に於ても亦官海に優れるものあるとによつて、赤門出身の法學士も遂には實業

界に投せんことを希望するの傾向を呈するに至つた。殊に三菱、三井等の大會社にあつては熾に事業の發展を企畫する上から、學業優等の學生に對しては卒業の前から手をつけて、特に優待の實を示すといふ行方であるから、自ら有爲の人才を拉し去つて、爲めに官海は人物の缺乏を示さんとするまでになつた。君も亦、大學在籍中から賣約濟みになつた優秀拔群の才物で、赤門の卵殻を喰ひ破つて浮世に出たのは明治三十一年の秋。菓子箱を擔ぎ奉公口を見つけて狂ひ廻る苦勞もなく、渡るに船のお迎ひで難なく三菱の大屋臺に乗り込んだ好運兒である、少時は商賣の見習をした後、直に香港の支店長に任命せられ、數年の間支店長の任務を全ふして確に使へる人物であることを知られ、招還されて門司支店長となり在職中支店長仲間での敏腕家たる相場をつけられ、竟に昨年東京本店の營業部副長に榮轉し、江口總指令官の參謀として歐米の各地支店指揮の榮職に上げられ、更に東京支店長の重任に据ゑられて三百餘萬噸の産額を有する三菱石炭部の支配者となつたのは君の前半生を飾るべき榮譽である。元來君の着眼點は可なり高い處にあるかのやうに察せられる。詳しく言へば單に一會社の事務家たる止らず、應ては世界的の大舞臺の人物たらんとする野心の勃々たるものあることは其の言葉の端々にも洩れぬでもない。赤門を優等で出た秀才としては當然その位の希望はなくてはならぬ筈である。それを固く三寸の胸底に藏めて十六年の長い間小心翼翼として無難に勤め上げたのは我慢の強い上から見ても確に成功者たるべき價値ある人物と言はねばならぬ。君は明治六年福井縣の一豪家に生れ、今や暫く不惑の年に達したのみである、舞臺は出來るし、人も信用して大事を任せると、頃の歳格好、仕事に腰を入れて自己の本領を發揮し、シツカリ働くのは此れからが回向院と言つたやうな

もので。而し悲しいことには二億萬にも手が届かうといふ大會社だけに生意氣なことを言へばヒツカ
られるので、横溢せる覇氣を密かに胸底に藏めて、頻りに根底に培いつゝあれば他日積雪解くるの日は
春陽と共に著るしく若芽を伸すであらう。〔東京府下中野町字上野原九〇六〕

石狩石炭株式會社 取締役支配人法學士 潮田方藏君

炭礦諸會社の俊材として、實際活動の衝に當れるは多く高等商業の出身なる中に、君と三菱の大石君
とは共に帝國大學出身の法學士なり。君は千葉縣安房郡鴨川村の士族、明治元年五月を以て生る、幼
より頭腦俊秀、頗る理智に富めり。同十九年、第一高等中學の業を卒へて帝國大學法科に進み、常に優れ
たる成績を以て法律學を修め、二十三年卒業法學士となる。同年十一月東京地方裁判所判事に任せら
れ、斷案公正、令名大に揚る。二十八年五月、横濱地方裁判所判事部長に榮轉し、同十一月更に海軍
省主理に任せらる。君が俊敏の頭腦と、明快の技倆とは是より益々認められ、海軍省軍務局幕僚とな
り、東京軍法會議兼任被仰付。後、條約改正實施委員を命ぜられて功あり。又海軍刑法及治罪法改正委員
として大に力を盡し、高等官五等從六位に叙せらる。是君が官海に於ける最後の光榮ある歴史なりき。
明治三十三年、官を罷めて日本勸業銀行に入り、書記役兼文書課長の要位に就き、同三十五年四月調
査役調査課長兼務を命ぜらる。思ふに君が海軍主理として軍務局に在り、條約改正刑法改正等の複雑
煩鎖なる事務に當りて以來、君が非凡の頭腦は愈々緻密正確を致し、勸業銀行に入りては更に精氣を
加へたる者なる可く、其執務振りの鮮かなりしは、今も君を知る者の話柄とする處なり、超えて四十一



茨城無煙炭株式會社 取締役支配人 二宮景輔君

年十一月、大日本精糖株式會社の監査役に推され、四十三年五月太平洋生命保險會社の創立と共に又
監査役に擧がる。君が石狩石炭株式會社の取締役支配人となりしは四十四年七月なり、石狩石炭會社
は、現に東京瓦斯株式會社所有礦區の依託採掘を行ひ、其産炭は東京瓦斯を始め、殆んど各地瓦斯會
社専用として需用さるゝが故に、會社の基礎に於て已に稍々普通の炭礦會社と異り、甚だしく一般炭
況に影響されずと雖も、特約各會社との取引或は礦業所との聯絡等其經營は決して容易なりとせず、
而して君之が取締役として支配人を兼ね、極めて圓滿に順潮に掉さし、社長淺野氏の信頼を擔ふて一
意會社の爲に力を傾けつゝあり。〔東京市赤坂區水川町二六〕

茨城無煙炭用途の開拓者、炭界稀に見るの君子人として、君が名は他の企
及し得ざる重味を有せり。丸茨無煙炭が無煙唯一の盛名を恣にせるが如く、
渾然玉の如き君の人格は同業一般の尊敬信頼を専らにしつゝあり。茨城無
煙炭礦會社と君と、實に恰好の對照、配し得て殆んど完たきに庶幾しと謂
ざる可らず。君は宮城縣士族二宮立右衛門氏の長男、安政六年九月を以て

生る。明治十二年出て叔父尙輔氏の跡を續ぐ。資性溫好、信に篤く義に固く、人に接するに苟も城府
を設けず、己れの美はしきを以て他を律し、玲瓏として表裏なし。其實業界に投じて、毫も惡風に染
まず、虚偽の巷に人となりて尙は眞實の流露する、如何に其天稟の厚きかを見る可し。君は茨城無煙

炭礦株式會社の創業と共に入社し、二十有餘年間一意専心業務に勵み絶えて他を顧みず。石炭は由來臭氣あり、其燃燒薪炭の如く容易ならずして、到底家庭の用に適せず。然るに茨城無煙炭は普通の有煙炭(瀝青炭)と異なり、褐炭の一種にして無煙無臭の特色あり、就中塊炭の優秀なるものは、焚落しを以て直ちに火鉢七輪に移すを得て木炭の代用となす事を得、家庭燃料として極めて經濟適當なるを以て、君は此用途の普及に全力を注ぎたり。而も、當時の市民之を知る者稀に、僅かに其特色を見聞したる者と雖も、使用の法に馴れず又燃燒器(竈、七輪等)等の關係より、需用を喚起するは非常の困難なりき。然るに、君が直往邁進、孜孜として倦まざるの熱誠は、遂に種々なる手段によりて市民の注意を惹き、販路は次第に擴大して、浴場、飲食店は云ふに及ばず、製絲工場、醸造場其他多方面に需用さるゝに至れり。茨城無煙炭礦に亞で阿部氏の茨城採炭、山口氏の山口無煙を始め各無煙炭礦相亞で競ひ起り、無煙炭は今や常磐を合せて一年四十萬噸を出すの盛況を呈せりと雖も、其販路開拓の急先鋒たる名譽は、獨り君が頭上に輝やくものと謂ふ可し。(東京市京橋區明石町三十一)

茨城採炭株式會社
專務取締役 阿部 吾市君

阿部君は嘗て我石炭界の飛將軍たるのみならず、我國實業界を通じて稀に見るの敏腕家なり。君が名は既に四方に喧傳し、世の立志譚中の異彩たる可き君が傳記は、又既に多數の圖書に掲載せられたるが故に、吾人は是等の公知事實を繰返して讀者の煩を増すを避け、茲には極めて簡單に、君が經歷の大略を記すに止めんとす。君は岐阜縣の産、明治六年三月を以て生る。齡七歳の頃ひ、兩親に伴はれ



て出京し、十六歳にして淺野總一郎氏の石炭部に入れり。先是君が家貧困學業意に任せず、即ち石炭部の小僧として晝夜の勤めを爲す寸閑を偷み、獨學を以て刻苦勉勵す。君天與の才氣滿幅、記憶力絶倫にして、一字一劃と雖も讀過すれば嘗て之を忘れず。又機智穎脫、囊中の錐の隨處に露出するが如く、早くも營業の表裏を洞察して、智略迸發常に先輩を驚倒せしめ

たり。十八歳にして横須賀軍港に赴き、石炭海軍納入の衝に當り、前後六ヶ年、多數の競争者を壓して概ね凱歌を奏せり、其の超凡の手腕淺野氏の知る處となり。歸京すると共に、廿四歳の一青年は、異數の技擲により淺野石炭部主任となれり。是より以後君が活動愈々目覺しく、或は入札或は賣込等、君が肥滿せる短軀の現はるゝ處、旋風の如く道途を席捲せざれば止まず、官衙諸會社の控所に群集せる同業者一たび君が姿を見れば、頭初より白旗を擧げつゝ妥協を申込む有様なりしと云ふ。二十六歳の時淺澤榮一、淺野總一郎、西園寺公威諸氏の贊助を得て、茨城縣多賀郡に石炭礦區二百八十萬坪の採掘特許を得、資本金七十萬圓を以て茨城採炭株式會社を創立し自ら專務となりて經營今日に至れり。其他東京瓦斯株式會社副産のコークス(一ヶ年二億萬斤)の一手販賣を營む東京瓦斯コークス株式會社を起して之が社長となり、日本護謄株式會社、共益倉庫株式會社、日之出汽船株式會社、京濱運輸株式會社各取締役、萬歳生命保險株式會社監査役等に擧られ、名譽職としては嘗て東京商業會議所議員(甲級)に選出され現に日本工業協會評議員、日本赤十字社評議員、東京實業組合聯合會評議員、横濱石炭同業組合評議員たり。大正元年東京石炭同業組合發起さるるや、君其總代として幹旋甚だ努め設

立認可後、衆望を擔ふて組長に選舉せられたり。又常磐無煙石炭礦主會なるものあり、常磐十二炭礦主を會員とする協議機關にして、君之が肝入役たり。此他阿部商店石炭部を經營して九州北海炭の販賣を爲す等、有ゆる方面に活動して恰かも精力の權化なるかの觀あり、君が前途殆ど測り難しと云ふ可し。(東京市京橋區南新堀二ノ四、電話京橋二二三六、二三七番)

合資會社加藤石炭部
業務執行社員 加藤爲二郎君



君は德島縣の人、加藤一學氏の三男、安政五年六月を以て生る。東京に於て石炭商を營むこと最も古く、現に有力なる加藤石炭部の主人として、磐城採炭株式會社專務取締役として、斯界元老たるの尊敬を受けつゝあり。由來、新舊思想の衝突は何れの方面にも免がれ難き處、殊に我炭界は純然たる所謂石炭屋の亞流多く、近時の進歩したる思想と風馬牛にして、壯年青年の同業と宛然別乾坤の觀を爲すもの尠からず。炭界多年の弊風の如き、主として此の兩様思想の調和融合を缺くに職由するを常としたり。然るに君に於ては全然之と異なり、東京草創の老舗を張り乍ら思想は絶えず日新の空氣に觸れ、能く青年の説を汲み、議を容れ、己れ必ず時代の先頭に立つの勇氣あり。今を去る十年前、同業者中の青年阿部吾市氏等と東京石炭組合を發起し、事理を説て盛んに同志の糾合に努めたるの一事、如何に君の頭腦の新鮮なるかを證するに足らん。這次組合の基礎を爲せる第一土曜會の如きも、君率先して力を盡し、又組合創立に際しても、奮つて之が發起人

となり、成立に及んで其副組長に擧らる。凡そ炭界の事、並に斯界の發展革新改善に關する事、必ず君の名を列せざるはなく、必らず君の力を要せざるなし。是れ、君の地位勢力に伴ふ自然の數と雖も、抑も亦君が射利一遍の商賈に非ず、至誠を事業の上に傾むけ、國利を民福の上に築かんとする、高潔なる心事の産む處ならずとせんや。嘗に炭界の一局部に止まらず、君が公共的精神は種々の美花となりて、既往の歴史の園に咲き匂ひつゝあり、今一々之を擧止するに堪えず、僅かに其性格の片鱗を語りて、全豹を讀者の清察に委せんとするのみ。本春神田に大火あり、壯麗の稱ありし君が家類焼の厄に罹り、之と前後して君が愛兒、抱瘡神の奪ふ處となり了んぬ。物質と精神との苦痛、殆んど想像に餘りあり。而も、君や運命に安住して多く悲まず、悲んで傷まず、從容として公事に盡し、一日の怠りなかりき。記者當時、石炭販賣業營業稅改正問題に付、君と席を共にしたる事少なからず。而して君が憂心を藏して之を色に現はさず、滿幅を披いて公事を談するの狀を見、反つて君に對する萬解の同情を禁ずるを得ざりき。爾來半星霜、時や深秋に際して君が愛兒を悼むの創痍更に新たなる者ある可し。或は思ふ此一篇の刻成りて、幸に君が機邊に至る時、恐らくは「蜻蛉釣り今日は何處まで行たやら」の嘆に堪ざらんを。(加藤石炭部東京市神田區鎌倉河岸十三號地、電話本局三二八、六七八番。自宅東京市芝區愛宕下町二ノ一四、電話芝一六九〇番)

茨城無煙炭共同
販賣所長 岡部正樹君

茨城無煙、茨城採炭、山口無煙の三炭礦會社が、競争亂賣の弊に曉りて、其出炭全部の共同販賣を策



十一月を以て久留米市日吉町に生る。父君正道氏は武藝百般に通じ、有馬侯の小姓役御側物頭たり。故小松大宮の妃殿下、有馬家より御入嫁の故を以て、妃殿下お附として久しく宮家にあり。又江戸藩邸に君側に仕へて忠勤を抽んでしが、維新後、家祿を奉還して、郷里に銀行業を起し、後、事業を後進に譲り閑雲野鶴の間に壽を以て逝けり。君、嚴君の血を享けて資性穎悟、一片稜々の氣あり。久留米中學を卒へて上京し、高等商業學校に入る。明治廿五年優等の成績を以て卒業すると共に外務省に仕官し、日清戦後、一たび茨城無煙炭礦株式會社に入り、後三井一派により上海紡績株式會社の設立さるゝや、矢野次郎氏の勸誘に依りて同社に轉じ、東京本店詰として大に將來に囑望せられたり。然るに、戦後締結せる馬關條約の不備により、邦人の工場を上海に建設する能はず、止む事を得ず之を神戸に設け、爲めに當初の大計畫に齟齬を來すや、矢野氏の誘掖を受けたる高商出身の人々は、空しく雄圖を挫折するに至りしより、君等は袂を聯ねて退社(上海紡績は後遂に鐘淵紡績に合併したり)し、君は堀越善重郎氏の商店に入り羽二重輸出業に従事し、約三年間身を海外貿易に委ねたり。明治三十四年、聘せられて三井礦山部に入り、九州田川炭礦に在りて會計、賣炭、運輸の衝に當る、是君

し、合資會社茨城無煙炭共同販賣所を設くるや、特に招かれて業務執行社員となり、其經營を擧げて一身に擔ひたるは實に岡部君なり。共同販賣は一種のシンデケートにして、日本に於ては殆んど最初の試みと云ふ可く、君が就任當時は幾多の難關に遭遇したるも、利刃を錯節に試みて能く今日の順潮に掉さし得るに至れり。君は舊有馬藩士岡部正道氏の長男、明治三年



が石炭界と結び付ける第一因縁なり、同四十年三井本店商務課詰に榮轉す。超えて四十三年十一月、茨城無煙炭共同販賣所の起るや、君その經營者として無二の適任と認められ、禮を厚ふして招かれたるは冒頭記載の如し。爾來、三個の炭礦會社と多數の仲買商との間に介在して、按配調節機宜を誤らず、外に在ては汎く茨城無煙炭の特質を紹介して、盛んに販路を開拓し、今や、無煙無臭の家庭的經濟燃料として、京濱地方は元より、關東信越方面より京阪にまで茨城無煙炭の需用を喚起したる、君が功與つて多きに居れり、君別に日本礦物會社の重役を兼ね、東京石炭同業組合副組長に擧られ、我炭界に對する貢獻益々大ならんとす。蓋し、常磐無煙炭界の重鎮と云ふべし。(東京市芝區三田小山町一六、電話芝三一七九番)

山口無煙炭礦合資會社 業務執行社員 山口嘉三君

大正二年三月廿三日發行の帝國新報に下の如き雜報があつた。曰く「山口無煙炭礦合資會社にては昨年二月開坑せる茨城無煙炭礦株式會社石岡坑に對し礦業所礦原間専用軌道一部使用の便宜を與へ居りしが茨城無煙會社にては長く山口無煙の好意に甘んじ無契約の儘に軌道を使用するも心苦しとて、茨城無煙重役二宮景輔氏より改めて山口嘉三氏に對し協定を申込み、茨城無煙炭共同販賣所長岡部正樹氏は好意上兩者の中間に立ちて斡旋を試みんとしたる處、山口二宮兩氏其該使用料に付て毫も私利的主張なく只一議にして料金の協定成り、全たく仲介の餘地なき程圓滿

に解決し、茨城無煙よりは開坑當時まで遡つて協定による料金を支拂ふ事となれるより、右解決の祝意を表する爲め山口炭礦にては、去十九日夜密接関係の同業數十名を木挽町萬安樓に招待して饗宴を張り席上山口氏の挨拶二宮氏の答辭岡部正樹、阿部吾市、岡上麟藏諸氏の演説あり、何れも山口二宮兩氏の人格高潔にして礦業家の通弊とも稱す可き健訟射利の惡風を一掃す可き模範を垂れたるに推服し、和氣霽々の裡に午後九時頃散會したり此報道を得た時に、記者は一種歡喜の情に堪えなかつた。即ち黙せんと欲して黙し能はず、直ちに左の一文を草したのである。

◎人格は力なり、總てに超越す、智慧も及ばず、感情も及ばず、是等諸ろの葛藤は、人格の前に釋然として解決せらる。

◎二面所報、山口、二宮兩氏の軌道使用料、金協定の一事、實は、右の人格の具體的表現として、吾人の感服と尊敬とを拂ふに吝かなる能はざる所なり。

◎由來礦業者に敏腕家多し、敏腕と云はんより寧ろ俊腕、險腕、辣腕家多し、俊敏險辣の手腕は即ち智慧の生む處、動もすれば世の道義理路を没却するが故に山師の名は概ね正直なる實業家を戰慄せしむ、而して此徒相寄れば相搏ち、相搏てば冷酷無慘にして、一塊の肉だも餓虎の如く相争ふ。

◎其争ふや、利慾一點張なり、礦區相隣れば尺寸の地も譲らず、自他の標木も其位置を奪はんとして有ゆる手段を弄す、慾念の互ひに煽となつて宇宙に鬭争する狀、眞に見るに堪えず。

◎感情は又彼等の城壁なり、己れに秀づる者には中傷讒誣の征矢を射り、己れと角逐する者には惡罵嘲笑の砲火を放つ、勝てば驕りて叫び、危ふければ深く隠る、只一片の感情の表裏に出没して、或は



く、己れを持すること堅く、又堅忍不拔の精神に富めること、到底富豪の子弟に見る事の出來ぬ程で

健訴の弊を醸し、或は産業の發達を沮む、比々として概ね然らざるはなし。

◎此等の間に在り、山口氏の寡慾恬淡、二宮氏の謙遜自讓、利害の感念を超越して、相互主張の交叉點を人格の上に置き、何等の故障を挟まざりし、誠に稀に見るの美事に非ずや。

◎普通の山師根性より云へば、同業者の生ずるは自家利益の滅殺なり、故に競争者は其敵なり、俗に所謂商賣敵なり、彼等は其敵と戦はんと欲す、迫害せんと欲す、同業者に許すに人格を以てし、喜んで其便宜を圖る如き、夢裡にも彼等の思ふ處ならんや、而して二氏は然らず、互に人格を以て相許せり、嘆美す可きは即在此點矣。

山口君を傳へんが爲に、此以上の文字を弄するは蛇足であらう。吾人は満心の敬意を表して、茲に全文を轉載する。(東京市京橋區本湊町七、電話京橋一〇二一番)

淺野石炭部 淺野泰次郎君

君は富豪淺野總一郎氏の世嗣、明治十六年を以て呱呱の聲を擧げた。父翁總一郎氏は濫澤男と併び稱さる、實業界の巨人。品海の波を射て輝やく高輪御殿の金鯨を仰ぎ見る程の者で、其嫡々たる君が幸運を羨まぬ者は殆んどあるまい。而も名家の貴公子として、望めば金銀珠玉を聯ね、求むれば

ける浮世の大學によつて修養研磨したのである、君又日本商船會社の取締役として力を海運業に注いで居る。(東京市芝區南高輪五六、電話芝四七七〇番)

茨城採炭株式會社
取締役礦業所長 坂市太郎君



現時、我邦の炭礦業者にして學識、經驗共に豊富なること、君の如きは少ない。或は經驗一點張にて、或は學理其儘にて、礦業界の權威の如く自稱する者もあるが、學者は經營に疎く、經營者は學理に暗きが普通の状態である。然るに君は學者にして同時に經營者で、換言すれば書物と算盤とを兩手に提げ得る人である。此點に於て君の匹儔は極めて稀である。君は舊

大垣藩士、安政元年を以て生る。明治初年壬申義塾、開拓使學校等に學び、殊に我邦礦業開發の恩人たるライマン氏に就て地質學、結晶學等を研究した。ライマン氏の教を受けた地質學者の、現存して居る者尠からぬ中に、君は實に其の高弟で、ライマン氏と共に地質測量に出張した折の逸話杯も數多く殘つて居る。其後、内務省勸業寮、工務省工作局等に出仕し、北越地方の石油田の調査を行ひ、同事業の爲に大なる利益を與へた。又、山陰山陽兩道の地質を短日月の間に調査したのも有名な話で、君が獨逸の學者ナウマン氏と共に著した『本邦地質圖解』の如きは、我國學界の金科玉條とせられた者である。斯の如くにして日本全國中、君の調査を経ぬ地質は殆どないと云ふ風であるが、佐渡金山の鑛脈研究に至つては最も苦心の一である、と云ふ、有名なる北海道の空知炭田の如きも亦君の調査に



依て開かれ、空知室蘭鐵道の布設されたのも、君の首唱の實現に外ならぬ。其他北海の全道に君が足跡は普ねく、炭坑々々の如き遙かに君の姿を見るも『坂博士だ』と稱して、競ふて敬意を拂ふ有様である。常磐炭田の有望なるを主唱したのも同じく君であつて、日本鐵道海岸線の敷設も、君の主張與つて力ありと稱された。阿部吾市氏が濫澤淺野氏等の後援により、茨城採炭を興すに當りても、君は最初より事を共にし礦業所一切の經營を引受けて、今日の盛況を來した。又、北海道各地に有望な多數の鑛區を有して居るが、歌志内の鑛區は炭質と云ひ炭層と云ひ殊に優良で、已に採炭に着手して居る。令息研一氏は久しく米國の鑛山學校に在り、石炭礦業に關する専門の學を修めエンヂニヤ、オブマインズの稱號を得て本夏目出度歸朝し、目下茨城採炭礦業所に在て蘊蓄を傾けて居る。君の如きは父子併せて我炭界の誇りと謂ねばならぬ。(東京市牛込區納戸町二六、電話番町一二五七番)

秋山炭礦々主 桑田明知君

翁の祖先村松吉右衛門氏は羽州新庄城主戸澤の藩士なり、元祿年間二代喜右衛門氏に至つて浪士となり、後新發田城主溝口侯に召し抱へられ、御馬屋支配役に用ひられ祿百石を賜り晩年溝口家の重臣に昇進したるものにして、現姓桑田は翁の嚴父立齋氏が養子として桑田家を襲名したるに初まる。君は嘉永元年五月一日を以て生れ、幼より親しく嚴父の教を受け普ねく和漢の書籍を讀破し、長ずるに及んで笈を負ふて江戸に上り開成齋に入り、大學南校と改稱さるゝに

至つて専ら佛蘭西學を修學し、後今の札幌農科大學の前身たる開拓使學校に入つて、地質及鑛山學を修め、明治元年大學南校に佛蘭西學の教授を任命せられ、教鞭を執ること三年、再び開拓使學校に赴き専ら鑛山學の研鑽に従事す。此れ君が鑛山學に對して造詣深き所以なりとす。明治九年内務省に奉職し、後工務省に移り鑛山技師となり、更に轉じて北海道廳に轉任し、明治二十二年に至るまで十餘年間の官吏生活を營みしも、遂に官海の無趣味なるに倦き斷然職を辭して民間に下り、鑛山鑑定事務を執り或は鑛業家の顧問として親しく鑛業經營の實情を研め、今や獨力秋山炭礦を經營して素志を達せんとす、聞く君の鑛山經營に當るや多年研究せる學術を應用して理想的の手段方法を探り偶々困難に遭遇することあるや此れ自己の能力を試験するの好資料なりとし其疑問を解釋し一道の光明を認るあらば是を以つて無上の快樂となすと。君夙に人に語つて曰く余は鑛業を以つて單に自己の榮達を計るの目的となさず、聊社會國家に貢獻し、一は努力の結果贏ち得たる資財を投じて公事に益する所あらんと欲するもの、其子孫に對する遺產増殖の如きは余の願にあらずと、君の如きは眞に古武士の風を傳へ武門に生れたるの心を失はず、其清廉潔白稀に見るの士人にして人心日に輕佻浮薄に流れ利益の外何等解すること能はざる實業界に於ては眞に崇敬に値すべき人物なりといふべし。〔東京市赤坂區榎町一、電話新橋八五五番〕

中野炭礦々主 中野喜三郎君

君は香川縣小豆郡豊崎村中野忠次郎氏の二男にして安政六年の生れである、小豆島は有名なる石材の



産出地なるを以て君の家は世々石材業を營み同地方にては盛名ある家柄である、君亦幼少より斯業に身を委ね上京後明治十六年には皇居御造營の石材工事を請負ひ、令兄榮次郎氏と共に精勵する處ありしに、突如として中途令兄の病没に遭ひ、一時は非常の悲境に陥つたこともあるが、君の努力奮闘は遂に能く百難を排して工事を落成した。爾來君の手によつて造り上げら

れたる石材工事は幾百を以つて數ふべく。就中其重なるものを舉ぐれば、日本銀行、横濱正金銀行、三井銀行、司法省裁判所、東京商業會議所、芝公園赤十字社、警視廳、帝國劇場、十五銀行、鎮海灣軍港を初めとして東京市内の幾多の大鐵橋石材工事、鐵道石材工事、水力電氣工事等枚舉に遑あらざるまでに手を擴げて莫大の利益を得たる上に君の曾て購入せる茨城縣稻田村に所有せる花崗石産出地、磐城勿來炭礦を初め、君の財力は實に測るべからざる富源を抱き、其餘勢は今や財界の各方面に發展して赤井炭礦株式會社社長、東京石材株式會社取締役花崗石組合會頭等に推舉せられ、遂に石工業者中の覇を唱ふると共に、炭界の大立者として斯界の名聲赫々たる者あるは、畢竟其天才の致す所なりとは云へ、君の精力拔群にして一度志を立つるや小事と雖も必ず成就せしめざれば止まざる底の熱心を以つて事業に當つた結果といはねばなぬ。老來意氣益々旺盛にして、其關係會社の業務に對しては重役としての責任を重んじて自ら實際の經營に従ひ夙に繁務に忙殺せられつゝあるも尚且つ四方に奔走して一日をも苟く徒消せず一日も長生して少しにても多量の利益を世に貢獻せんと努めて居る。君の如きは實に成功談中の花形である、夫人をあき子と呼び一嬢あり喜咲といふ、君も亦好運兒なる哉。〔東京

市京橋區本八丁堀三ノ一、電話京橋七三八番

茨城採炭株式會社 取締役 的場覺三君



君は、池田播磨守の臣的場三造氏の二男、萬延元年二月を以て江戸藩邸に生る、其長するの時、所謂明治維新に際し、國內騒然として四民各適歸する處に迷へり。嚴君夙に時勢の趨く處を悟り未だ垂髫にして君を我國銅版の發明者梅村翠山氏の門に入らしむ、明治六年君十五歳にして紙幣寮(現時の印刷局)彫刻部に奉職す。時に政府に於て地券狀印刷の議あり。之を全國の地主に配附せんには幾千萬枚を要するを以て、先づ其方法を紙幣寮に下問せらる。然るに當時銅版彫刻術を知れるもの日本を通じて五六十名を超えず。若し此小數者を以て全國の地券狀を印刷せば少くも四十個年を要し、到底其用を辨すべくも非ず。依て其印刷を外國へ注文す可しとの説もありしが嘗て我紙幣をゼルマンに注文して或る問題を惹起したる事あり。斯の如き貴重の證券を外國人に依託するは危険なりとし、遂に伊太利ゼノア大學の名譽教授エドワード、キヨソネ氏を紙幣寮技師として我邦に招聘するに至れり、於是乎キヨソネ氏は精巧なる機械を携へて渡來し、常磐橋内に工場を設け僅かに三年にして全國の地券狀を刷了し我が印刷界に特筆さる可き功績を残したり。的場君は即ちキヨソネ氏の製版術傳習生となりて、其秘奥を授かり爾來三十四年間一日の如く印刷局に勤續し、殆んど同局の柱石たるの觀あり、紙幣證券の製版に缺く可らざる第一人として珍重せられぬ。然るに或る事

情は君を石炭界に迎ふるの楔子となり、明治四十年八月、印刷局を辭すると共に茨城採炭株式會社取締役として就任せり。此際印刷局が百方懇談を重ねて、君を惜しむの情に堪えざりしは、左もある可き事ながら、我炭界として君の如き着實溫和にして、眞摯老成なる紳士を得たる事、望外の至幸と謂ふ可し君風流にして諧謔に富み又文藻あり。『能狂言無煙炭賣』を作り帝國新報紙上に掲載して大に讀者の喝采を博したるは尙ほ最近の事に屬す。(東京市小石川區小日向水道町三七)

松昌洋行代表者 山本唯三郎君



君は明治六年を以つて岡山縣久米郡鶴田村に生る。安田銀行祕書役青木要吉氏の令弟なり、君の幼時家豊ならず、時に或は活版屋の小僧となりしことあり、青木氏京都同志社に學を卒へ教鞭を執るに至つて君は其收入を割愛せられ、岡山縣閑谷養より更に同志社に進みたるも、令兄の米國に遊學するに當りて學資の杜絶するに至る。後北海道に走り農業經營を志したるも資本なく再び札幌農學校に入り牛乳配達をなして資となし二十八年を以つて卒業す。白雪皚々の天地眼底一青を映せざる吹雪の中を遊ぎつゝ學業を卒へたるは、堅忍不拔の志なくして好く能ふ所にあらず。此れを以て君が第一期の成功となす。學窓を出でたる君は更に進んで石狩郡新篠津村石狩川の沿岸見渡す限り鬱蒼たる深林十萬坪の地を選び牛乳配達によりて貯蓄し得たる數十金を投じて之れが開墾に従事せり、奮闘努力僅かに四年の短時日に於て約十萬坪を單身開拓し去れるなり、白面の一青年

がロビンソン、グルーナーの生活を以て斯る短期間に成就せしめたるは實に空前絶後にして此間の苦辛經營素より尋常一様の業にあらず、當時附近に開墾業起り往々君を誘ふて監督を託せんとせしも眼前の偷安を潔とせず、飽迄獨立獨行して初志を達し之れより收穫する處によりて家の生計を維持し十萬坪の地主として後顧の憂なきに至る、是れ君が第二期の成功なりとす。霸氣満々として向上の念熾なる君は、竟に北海の小天地に農夫として身を終るに甘んぜず、令兄の學友市原盛宏氏を東京の寓居に訪ひて志を述べ更に濫澤男に紹介せられ昨日の農夫一躍して松昌洋行の全責任を擔つて在清の貿易業務を主るに至る、百尺竿頭一步を進めたるは是皆君の才識非凡なるの故なりとす、君の清國にあるや材木の輸出と石炭の輸入を營み、英國の經營せる開平鑛務局獨逸の經營せる青島鑛務局へ坑木を賣却して獨占的事業となし、石炭は開平地方の産出を採り之を田中長兵衛氏の釜石製鐵所、枝光製鐵所東京瓦斯會社、三菱炭所等に供給したるなり、開平炭の輸入と清國産の格安なる鐵材を輸入したるとに依りて我邦製鐵業の上に貢獻したるの利益決して尠少にあらざるものあり。支那は今日以後に於いて諸工業の勃興すべき運命を有す、君の非凡なる着眼辣手は更に大陸に於いて大飛躍を試みるに至るべきを疑はず。君や多年清國に滞在せし故に特に清國の財政經濟事情の研究に興味を有し、之が爲に書を求め、之が爲に人を用ひ、資を投じたること少なからず、君尙春秋に富む前途大に爲すあるべきは君の周囲の確信する所。當年牛乳配達を以つて雪中を遊き廻りたる一苦學生が一年百數十萬圓の大取引をなすに至れる多く得難きの天才といふべし。(東京市芝區高輪南町四四、電話芝一七二〇)

秋葉商店主 秋葉大助君



秋葉大助と言へば、直に人力車を聯想するまでに、車輛製造業者として名を知られたものだ。従つて夫が爲に莫大の利益を博したことをも想像される、今の秋葉氏は人力車の元祖たる先代大助氏に嗣子なきを以て入つて後繼者となり、祖先を忘れざる紀念として其名を襲用したのである。君は本姓を飯田と稱し、世々千葉縣海上郡旭町に住し、醬油醸造を業とせる飯田佐次兵衛氏の二男にして、明治十年九月其郷里に生れ、廿八年に横濱英和學校を卒業し直に一つ橋高等商業學校に入り、卅年四月の卒業である。君先代の遺業を繼ぐや偏に其の事業に光彩を輝さんことを思ひ、商標を定め意匠を凝らして之を外國博覽會に出品し、更に日本の文明の蹟を追ふて進むべき東洋各地に販路の擴張を計り清鮮の諸市街は言ふに及ばず、南方香港新嘉坡に向つて視察を試み竟に代理店を設置して盛に海外に人力車を輸出したのであつた。同商店は明治四年の頃事業の發達と共に新看町より銀座四丁目に移轉し同所に製造販賣を營みしも、首都第一の銀座街頭に職工の裸體を露出するに忍びずとして、本所區に一大工場を新築した。君の人力車改良に心を用ひたるは一二にして足らざるも、車體を改良して輕便ならしめ、車軸組織に十二の小鐵丸を裝置し車軸の轉回を輕滑ならしめたる如き商業學校出身者とし工業的新案を工風したるなどは奈何に職業に忠實熱心なるかを想像することが出来る。而して今は社會の進運に伴れて都市は電車の發達、自動車の利用等益々大ならんとし

て、人力車の勢力範囲は日々に縮少されつゝ、あり地方に至るまで交通機關の上に急速の變遷をして居る時代であるから、君亦此點に察する所あり、兩三年來更に貿易業の上に着眼して、漸次事業の發達に留意し、石炭販賣業の如きも渡邊三彦氏を入れてその衝に當らしめ、盛に業務の擴張に努めて居るのである、店主、支配人共に年少氣鋭の人であるだけに、今日以後は其貯積したる資金の豊富なるによつて、大なる發展を見ることであらう。(東京市京橋區銀座四ノ六、電話京橋三二八、二二九、二七三〇番)

古河合名會社 營業部主任 菅禮之助君



古河の營業部に在つて主として石炭販賣の衝に當り、競争激烈なる京濱兩地の炭界に馳驅して、一步も人後に落ちぬ君の鮮やかな手腕は刮目に値する。殊に未だ三十一歳の青年にして、古河の大看板を擔ひ、目に餘る勁敵を物ともせず、縦横無盡に切て廻る雄々しさには、何處やらの阿嬌に非ずとも恍惚として岡惚れせざるを得ない。君は三十八年度の高商出身、故矢野翁以來の所謂一橋氣質に陶冶されて、機智と、雋敏と、並びに潑刺たる才氣とを併せ有する、恰好の實業家肌。卒業と共に古河に聘せられて間もなく天津支店詰となり、茲に多くの外交的修練を積んで大阪支店に歸り、更に石炭の本場たる九州門司支店に赴いた。門司は由來我邦石炭戰の策源地と稱する。近來若松、唐津等の發達に伴れ、幾分其獨占的威嚴を殺がれたとは云へ、尙ほ大會社の門司支店は石炭販賣に關する最も多くの働らきを爲し、現に三井の如きも門司を石炭の本部とし、東京は其

下に屬する一個の支部たるに過ぎぬ。古河も素より石炭營業に付ては門司を主腦部とするは云ふ迄もない、而して君は此主腦部に在て十分に斯業の經驗を嘗め、古河が近く京濱方面にも力を注ぐに至つて、一昨年本店詰となつたのである。古河の營業部には君の外に尙ほ津守、豊治氏があつて、各方面に活動を試み、若手としては神戸、正樹氏あり、君と相並んで鼎の如き働きを爲しつゝある、君は古河の理事長木村長七氏の令甥、現に古河を代表して横濱石炭同業組合評議員に擧られ、京濱間を來往して力を斯業の發展に傾け敢て一日の怠りもない。(東京市下谷區上野櫻木町四〇)

大倉石炭販賣所 主 任 廣瀬春吉君

大倉石炭販賣所は我邦の大富豪大倉氏の一族中、最も俊秀にして新智識に富むと稱さるゝ大倉發身氏等の出資に係り、昨年創設せられたる者なり。當時炭界一部の道聽途説に依れば、是れ我邦實業界の有ゆる方面に虎視眈々たる大倉氏が、炭界に於ける自家の施設甚だ振はざるに鑑み、將來有望の事業を等閑に附するを遺憾とし、多年積富の餘勢を提げて指を斯業に染め、大に三井三菱に對抗して天下三分の計を爲すの準備たるべしとなし。假令如斯大計畫に非ずとするも、少なくとも京濱の炭界に濶歩すべしと期待したる者の如く、吾人も亦多大の注意を其前後に拂ひたり。然るに成立以來、業務以外に振はず、平々凡々として多く普通の商賈と異なるなきに及んで、反つて當初の期待の過大なりしに失望する者すらありたり。蓋し如斯は直接店務に執掌する其人を得ざりし爲か、或は他に何等かの理由ありしに因るか。深く内部の消息を探るを要せずと雖も、大倉氏等も茲に陣形を立て直して、從來の

情氣を一振するの必要を感じたるは事實にして、即ち今年初夏を以て所内の改革を行ひ、少壯敏腕の廣瀬君を聘して其主任に据ゑたる者なり。君が就任以後着々諸般の整理を行ひ、今や發展飛躍の計略は緒に就きたるに似たり。思ふに世人當初の期待が果して實現するや否やは、繫つて君が向後の經營如何にある可く、君が責任も亦甚だ重しと謂ざる可らず。君は岐阜縣の人、明治八年を以て生る。郷里の中學を卒へて上京し慶應義塾に入り、三十一年其理財科を出づ。同時に門司の石炭商谷口加藤商會に招かれ、居る事二年餘、香港支店詰となり、更に上海に轉じて獨立の石炭業を營み、芳谷初め九州炭の販賣を爲して香港、新嘉坡等に手廣く活動せしが一昨年歸朝、昨年又東洋各地を歴遊して炭況の視察を遂げ、歸來本年六月大倉組に招かれたる者なり、目下相州逗子に一家を構へ、朝夕山水紫明の境に俗塵を洗ひて、來る可き奮闘の糧を培ひつゝあり。(神奈川縣三浦郡逗子山の上)

磐前炭礦々々主 山崎藤太郎君



常磐炭界に於て、個人として最も古き經歷を有し、最も大なる成功を爲せるもの、君の如きは尠なからう。君は或點に於ては常磐炭界の活字引であり、或點に於ては常磐の貝島太助と稱し得る。而して、其豊富なる資財と經驗とを有し、各方面の信望大なるに係らず、猥りに會社事業に指を染めず、無暗に八方に手を擴げず、自己の經營せる一炭礦を全たく自己の乾坤として、茲に全生命を籠め、茲に全幅の慰安を求めて居る點は敬服に堪えぬ。記者嘗て磐城石城郡内

郷村字宮の磐前炭礦に君を訪ふた事がある。唯見る、山間の一小廓、河ありて秋水澄み且つ流れ、爽氣掃くが如き遠麓近堤に紅楓點綴せるほとり。徑あり堤上を迂餘して、輕便軌道の一踏盡くる處に、日當りよき瀟洒たる新築家屋を見た。即ち是れ磐前炭礦々々業所で、兼て君が山間生活の別墅である。其廻縁に面せる一室に於て、高潮にして明快なる談話は口を衝て出る。曰く「磐城の石炭は安政四年片寄平造と云ふ人に採掘されたのが始まりだ。尤も其以前にも彌勒澤(石城郡白水村附近)邊へ行くと石炭がゴロ／＼と流れ出して居たが、土地の者は決して之を採らなかつた。其當時は石炭とは云はぬ、クンノンコーと云つてね、之を掘ると地の脂が無なる。地の神様が怒つて祟りをするから、作物が出來ぬと云つて手を付ける者はなかつたのだ。夫を片寄が、横濱で黒船に石炭を積んでるのを見て來て、コイツア金になると思つて掘り始めた。掘つた炭は俵へ入れて馬に乗せて小名濱へ出して船に積む。其石炭の俵へ赤い星の印を打つたから、之を赤星印と云つて居たが、矢張り其頃内藤藩の物産係加納作平と云ふ人が、白水で石炭を掘り出し、之には俵に黒い星を打つたから黒星印と云つて、何れも盛んに輸出した者だ。之がマア磐城炭の紀元で、つまり赤星と黒星とが磐城炭田の開拓者さ」と。以上は常磐沿革史としても興味ある一節であるから特に掲記して置く。扱君は此明媚なる一仙境に事務員坑夫等を家族同様に愛撫し、時には令閨と共に滯留して事務を執る事もある。個人經營の炭礦としては温情に充ちた、殆ど理想的に完全した者である。京橋入舟町の君の店も亦信用ある老舗で、販賣主任の菊地君と云ふ若手の元氣潑潑たる人が、東京と山元とを往來して、盛んに活動して居る。(東京市京橋區入舟町三ノ一、電話京橋二二七八番)

磐城炭礦株式會社 主事 生駒 東一君



「ハイ、只今の原籍は麴町區富士見町五丁目十七番地ですが出生地は山口縣萩町で、慶應三年一月の生れです。祖先是代々長州侯の賤士で同町に住居して居りました。私は幼にして父を失ひ、十歳の頃より東京の親戚に寄食し、薪水の勞やら商店の小僧やらを致し、傍ら學校にも通學致しまして二十四年東京法學院英語科を卒業しました。折柄其翌年同縣人の先輩が東京礦業合資會社なるものを組織したのに會しまして、種々の事情より之に使用人として従事する事になりましたが、不幸にして此會社は二十七年に至り解散の悲運に陥りましたので、二十八年磐城炭礦會社に入まして今に及びました。此の如く私の經歷は極めて平凡で、何等の波瀾も曲折もありません。從て趣味もなければ逸事もなく、餘な嗜好も持しません。處世の理想に至つては更に平々凡々たるもので、Honest の外一物なしと信じます。』以上は談話の儘を採録せるものなるが、君は久しく磐城炭礦々業所に在り、精勤の聞え高かりしが、一昨年東京本社主事に榮轉、爾來内は社中の庶務を司どり、外は各方面に應酬して、誠實に社務に執掌しつゝあり、君が「正直」を以て處世の信條となせる、洵に故ありと云ふべし。(東京市麴町區富士見町五ノ一七)

石狩石炭株式會社 販賣係主任 小山清太郎君



石炭の市價は、石炭其物の價に、採掘費及運賃等を加算して割出さるを常とす。即ち石炭業と運輸業とは其關係密接なるを以て、炭業者が常に海陸運輸の狀態に注意を怠らざると共に、運輸交通の事業に携はりし人の、石炭業に精通せる者甚だ多し。小山君の如きも後者の一人にして、多年鐵道事業に従事し、轉じて現今の地位を得たるもなり。君が家は世々備前池田侯の臣、君は明治三年二月を以て岡山に生る、始め郷里の山田塾を出で東京に遊びて更に學事を修め、二十一年鐵道廳に就職、水戸線、日光線等の建築工事を監督して早くも其技能を認めらる。工事落成後日本鐵道に引繼に際し、君も亦同鐵道會社に入り、累進して中村驛長より一ノ關、盛岡驛長を経て仙臺驛長兼長町驛長に榮轉す。君が就職中、日清、日露の兩役あり、共に軍隊大輸送の局に當り功勞尠からざるを以て、事終りて勳章紀章を賜はる。日露戰後、職を辭して専ら自己所有石炭礦區の採掘販賣に従事し、四十二年石狩石炭會社に入り販賣掛主任となりて今日に及べり。君資性嚴格にして武士的氣風を帶び劍道、柔道等の嗜み頗る深し、殊に劍道に至つては殆んど其堂に入り、從來興に乗じて道場破りを爲せし事一二に止まらずと云ふ。東京石炭界の有力なる團體第一土曜會には、君常に石狩の代表者として出席し、組合創立前後には、其準備員の一人として定款起草を始め種々重要な事務に盡せしが、組合成立後石狩石炭の土曜會退會と共に、君の威嚴ある風貌を例會席上に見るを得ざるに至りしは甚だ惜む可し。君動もすれば訪客を顧みて曰く、「僕は誠の仙人になりたい」と謂ふ心は徒らに世外に超然たらん事を希ふに非ずして、紛々たる世人の詭譎奸惡を憎むの意なる可し、是亦君が武

士的風格の發露と稱す可きか。(東京市本郷區森川町一)

三井物産株式會社
石炭部總務主任 飯原佐次郎君



京濱方面に於ける三井の石炭販賣は近來著しき發展を來し、殊に元の石炭掛を改め、門司石炭部東京支部と爲して、石炭販賣上の聯絡を敏活にし、其組織の統一を圖るに至りてより、規模愈よ整備して炭界翱翔の羽翼全たく成りし觀あり、其係員の如きも亦羽主任以下青年敏腕の士を羅致し、士氣肅々、之を搏てば憂として聲あるの概あるが中に、君は最も此方面の實況に明るく、部中古參の一人として總務主任の要位に占據し、内外上下の鍵鑰を握りて、名實共に中堅の重きを爲せり。明治四年福井縣鯖江町に生れ、嚴肅峭料の氣に充てる日本海の波浪に郷土氣質を洗練されて人と成り。上京後、慶應理財科に入り廿三年を以て業を卒ふ。君と前後して三田を出たる者の中、竹内鑛業の坂田君、大倉販賣所の廣瀬君等、何れも我炭界の花形役者たり。君が三井に入りしは三十年にして、實に十六年の昔に屬す、爾來孜々として精勵、三十二年には若松支店に赴きて、石炭販賣の實戦に參じ、茲に十分の修練を重ねて三十八年門司支店に轉じぬ。若松と云ひ門司と云ひ、共に日本に於ける石炭の本場たり、檜舞臺たり。此晴れの舞臺に於て多年の經驗を積みたる君が、將來に處する抱負の大なるは推して知るべきに非ずや。果して君が智識は慧眼なる先輩の有效に利用する處となり、本年春を以て東京支店の總務部に擢んで、其主任を託せらる。元來京濱兩地に於ける石

炭の販賣額は三井として重きを爲すに足ざるは勿論なるも、其大局の策戦に要の大役を果すは何を擱くも本店の責任なり。而して君が此本店樞要の椅子に在りて内は重役の諮問に答へ、外は一般の需用關係を按ずる苦心用意は尋常に超たる者ある可し。古歌に『たい見れば何の苦もなき水鳥の、足にひまなき我思ひかな』と、君が慘憺の苦心も亦此邊にある可きを思ひて、その責務の轉じ重きと共に、前途の光明も亦殊に大なるを想はざるを得ざる也。(東京市芝區南佐久間町一ノ二)

清田炭礦株式會社
取締役社長 清田房次郎君



君は、加藤、豊島の兩氏と合せて東京石炭商中の三幅對と稱せらる。其販賣高から云つても、經歷から云つても、石炭商としては第一流の押しも押れもせぬ老舗である。そして、一面には有煙炭の大販賣を爲す店舗を有し乍ら、一面には無煙炭礦を經營して居る點に於て、君と加藤氏とは殆んど同様で、豊島氏も亦三澤無煙炭礦との關係から、略ぼ同じ状態である。單に石炭の販賣を爲すと云ふ側から云へば、淺野石炭部もある、阿部石炭部もある、松本三郎氏もある、何れも第一流の商店たるは勿論であるが、以上の三氏は炭礦經營の一面を合せ有する點に於て、興味ある三幅對と云ひ得るのだ。君の炭礦は茨城縣多賀郡に在り、元と手網炭礦と稱し前年來久しく某氏との係争となつて、採掘の方も殆んど等閑に附しあつたが、昨年、當然の理由に依り君の勝訴となつてから之を株式組織として、銳意坑内の整理、採炭設備の改善を行ひ、敏腕なる礦業所員を配置

したる結果、頗る順潮に向ひ、現時に於ては日々多量の石炭を採掘販賣しつゝある。爲に君の業務は愈々繁忙となり、販賣主任若月勇八と共に、夙起夜寝の活動を爲して居るが、而も、百忙中に寸閑を割いて炭界の爲に力を盡し、彼の第一土曜會の如きも、最初より發起者の一人として出席して居る。其他組合の設立に就ても、營業税問題の如き事件に就ても、君は必らず一臂の力を投じて居るので、その精力の旺盛にして公心に富めるは、實に斯界の珍とす可きである。君は神奈川縣の人清田佐兵衛氏の四男にして、萬延元年八月の生れ、明治二十八年三月分家して一家を創立したのである。(東京市京橋區南小田原町二ノ八、電話京橋七二八、七二九番)

三菱合資會社 東京支店副長 谷口文夫君



三菱合資會社の東京支店副長と言へば、會社から言つても至極重要な地位であり、湖海から見ても男一匹の役目である。況して大石支店長は本店營業部副長といふ一役があつて、支店經營上君の力を要する事も多いから、君の任務は中々重大である。一見した處では未だ三十の坂をやつと越した位にしか見へぬ。ドコとなし愛嬌があつて人嗜のする好男子である。若いには似合はず其態度には最早落付が出来て、如何にも一部の立役者たるの眞目は充分である。夫れに先祖傳來の特性かも知れぬが、昨今頭髮や薄らぎて、聊か寂寥たらんとするものあるは、好男子だけに一層氣が揉めざるを得ぬ。而も憂る勿れ、一失は亦一得の存する處で、若く見られるよりか老化

て見える方が、世間の信用がありますと何處やらの通人が言つた言もある。夫は扱置き此頃の若い人で少し地位でも得れば、自分では一かど偉いものになつた量見が出て、厭に氣取つて見たり、ヲツに修容て見たり、兎角人にキザがられるのが多いが、君には些しもそれが無い。人に接するにも謙遜の態度を失なはず。寡言なるも敢て城廓を設けず。飽まで篤實家たるの風あるは、先輩の信任を厚ふし以つて今日の地位ある所以であらう。生れは三重縣一志郡久居町、先祖から一町内の家柄者で、嚴父は地方の銀行會社などに重役となつて、町民からも尊重された人物である。君はその家に長男として(明治十三年八月卅一日)生れ、實家は一人の妹に婿を迎へて續がしめてある。三十六年東京高等商業を出で三井物産に入り、本社より門司支店に轉じ、更に大阪支店に榮轉して一部の主任となつた。今春朝田石炭部を廢して三菱東京支店を設けらるゝに至り、大石氏の次席として招かれたのである。君尙春秋に富む、此處一番の努力精勵によつて他日三菱の幕内に相當の地位を占め得るや疑ひなきものがあらう。(東京市赤坂區青山南町六ノ一〇八)

豊島石炭商店主 豊島徳太郎君

豊島商店は、明治八年君の祖父豊島安平氏の時代に於いて石炭業を開始したもので、東京の同業者中其の創業の早きに於いては實に一番であつた。明治の初年から二十年頃までは石炭業者は夥大の利益を占めたもので、徒手空拳の駆け出し者と雖も石炭の取扱によつて今日巨萬の富を致せるもの少なからぬ。豊島商店も亦是の時代に於ては巨額の利益を博したのである。併し其一方に於ても少な

らぬ貸し倒れを生じ、殊に嚴父勝太郎氏の幼少の時に安平氏は逝去した爲めに、取引關係に緩みが出て多大の損害を蒙つたこともあつた。斯くして、豊島商店は二代を経過して幾多の波瀾を凌ぎ、遂に今日の隆盛に赴いた。今や嚴父は、新らしき時代は新らしき者、若き者の舞臺であると云ふ考へから、隠居して家督を譲り、己れは光風霽月の裡に其晩年を送りつゝ、店務の一切を擧げて君に一任し、尙一人の妹には五十嵐榮次郎を入れて婿として家業を援けしめ、別に家を分けて祖先の祭を盛ならしむべく計られて居る。君は明治四年一月の生れで、高等商業の出身である。有名なスタンダード石油會社の社員として相當の地位に昇り、同社からも重く用ゐられて居たが、家業の經營と云ふ大責任もあるので同社を罷めて別に獨立して營業し、旁ら孜々祖父傳來の事業に従事して居る。夫人菊子との間には二人の男子と三人の女子を擧げ家業は益々盛況を呈しつゝあるは幸福なりと言はねばならぬ。君不惑を過ぐるに僅かに三歳社會に活動して愈々家名を輝かすも是れからである、性質朴にして華美を避け、實に就くといふ主義で、滔々たる世俗の風潮に逆行して意とせざるは亦一個の識見と言ふべきである。(東京市日本橋區繩切町二ノ一、電話浪花二二九二番)

三井物産株式會社 市川純一君
門司石炭部東京支部

君は千葉縣市原郡音瀧村の人、明治八年を以て生る。夙に慶應大學を出で、三井物産に入り、明治三十年孟買支店に赴任す。居る事七年、累進して支店長となり、三十七年を以て歸朝し神戸支店を管す。四十二年米國出張を命ぜられ、具さに同地の貿易事情を調査し歸るや、更に濠洲シドニー出張所長に

任せられて渡航し、在勤三年、大正元年始めて東京本店詰となれり。君三井入社以來十有七年、或は熱帶の夕陽を椰子森の緑に避けて各種の調査研究に耽り、或は社命の重きを双肩に擔ひて異郷萬里の山河に南船北馬を試むる等、専ら海外の支店出張所に在りて事務を執り、母國に在るの日は反つて其半ばに不足らず、蓋し三井の人材琢磨法は多く此類にして、苟も一技一能の用ゆ可きは奮つて海外に特派し、十二分に其の見地を廣むると共に、日本の對外貿易に關する研究資料の蒐集を爲さしめ、以て其の人材の手腕識量を鍛練せしめ、併せて世界的富豪たる三井の、方針立場の確立に資するを常とするなり。前の石炭係長津田弘視氏の如きも亦多年海外の支店に歷任したるの人にして、一昨年歸朝當時は先づ第一に日本の事情を研究するの必要ありと稱し居たる程なり。君も亦海外に試験されたる技倆を内地に試みんとするに當つて、先づ日本事情を研究したる一人なる可きか、性、謙遜、卑讓、苟も自己の功を語らず、偏へに己れを空ふして、職務の勵行に腐心しつゝあり。君の如きは實に三井森林中の、一良材と云ふ可し。(東京府豊多摩郡大久保村四久保一八九)

北海道炭礦汽船株式會社 商業主任 稻岡世民君

君は静岡縣富士郡鷹岡村の人、精次郎氏の長男にして、明治十六年を以て生る。郷村の小學校にありし當時學業優等にして群を抜くものあり、夙に神童の譽れ高く後中學を経て慶應義塾に入り大學部を出で、米國に遊學し、ミネソタ大學に入りてバチエラー、オブ、アーツの肩書を得、更にエール大學の業を卒へて、マスター、オブ、アーツの稱號を贈らる。在米數年にして歸朝し、一時は學海の人と



あり、近く日本徴兵保險會社專務足立莊氏の令嬢民子を迎へて室とし、伉儷蜜の如く相和すと云ふ。
〔東京市麻布區本村町一六〕

茨城探炭株式會社
取締役支配人 佐久間庸一君



君は常磐炭界の巨星佐久間精一氏の長男、生れ乍ら好運を掴みて呱呱の聲を擧ぐ。父翁精一氏が磐城炭礦株式會社專務取締として多年經營の功あり其の信望勢力強大なるは普ねく人の知る處、殆んど絮説の要を見ず。而して君は其嫡子として、幼より穎智伶俐の譽あり。加ふるに嚴父慈母の温かき家庭に人となりて、洋々春海の如き學生々活をなし、明治三十九年早稻田大學法科を卒業したり。其七月直ちに統監府鐵道管理局營業課に採用せられ貨物係となり、後萬歲生命保險株式會社社員、日本アスファルト合資會社主事補等を経て、四十二年一月中外アスファルト株式會社會計課長となれり。君、資性温穩にして頗る同情心に富み、襟度寛厚の美質は能く同僚後進



の畏敬を受く。又頭腦明晰事務に勤勉なるが故に、長老先輩に愛せられ、殆んど往々として可ならざるなかりき。明治四十三年八月茨城探炭株式會社支配人として入社し又取締役に擧られ、萬般の庶務を掌どりて阿部專務以下の重役をして毫も後顧の患なからしめ、年を閱するに隨つて其才幹の凡ならざるを認められつゝあり。思ふに炭界に在つては君は尙ほ未來の人なりと雖も、其典雅にして悠揚迫らず、宛然貴公子の如き風采と、雜然たる煩務を截斷して何等滯滞なき明敏の技倆とは、既に君が價値を重からしめて十二分りと云ふ可く、更に君が一家の地位と勢力とを擁して、將來の事業界に雄飛す可き秋を想へば、源家の陣頭に金鞍白馬を起て、旭扇を翳して敵將を摩ねく公達にも似たる雄々しき武者振も俾はれて、一種の興味を禁ずる能はざる者あり、蓋し君が未來に嚮望するは恐らく本編の記者一人に止まらざらん乎。(東京市麴町區下二番町七三、電話番町四三八番)

越賀炭礦々主 越賀幸次郎君

君は埼玉縣北埼玉郡北河原村字酒巻野口金五郎氏の四男、明治元年三月を以て生る。舊名を伊之助と云ひ、郷里の佐藤塾、群馬縣萱野の進藤塾等に於て普通教育を受く。廿一年兵役に就き、入營中品行方正、勤務勉勵、學術技藝優等の廉を以て受賞八回に及ぶと云ふ。廿四年九月歸休除隊後、先代越賀幸次郎氏に懇望されて養嗣子となり、茲に石炭業に従事するに至れり。日清の役、召集を受けて第二軍に従ひ、分隊長として各地に轉戰、旅順、蓋平の激戦には殊勳を

樹て、凱旋後勳八等に叙し、白色桐葉章を賜ふ。三十六年養父の死に逢ひ、家督を相續して其名を襲げり。翌年十一月、磐城石城郡内郷村の宮炭礦を買収して越賀炭礦と稱し。爾來營々として改善發展を圖り、遂に今日の盛を見るに至れり。君が事業に熱心にして、不屈不撓の精神に富み、如何なる障害あるも初一念を貫徹せざれば止ざるは、夙に同業者の知る處にして、居常質實儉素、毫も外見を粉飾せず、内容の充實を圖るに専らなるは、又君を知る者の敬服措ざる處なり。その入營中前後八回の賞を受けたるに徴するも、君が精勵と忍耐力の強大なるを知る可きなり。一昨年五月、群馬縣北甘樂郡八幡鑛山（金銀銅鐵）を購ひ、炭礦經營の餘力を割いて鑛物の採掘に従事し、是亦頗る好良の成績を擧げつゝあり。（東京市京橋區川口町八、電話京橋二四四番）

東京瓦斯コークス株式會社支配人 鈴木太郎君



東京瓦斯コークス株式會社は、資本金四千五百萬圓を有する東京瓦斯會社副産の瓦斯コークス一手販賣を營み、極めて低廉安全なる薪炭代用の一般燃料として東京附近に盛なる需用を喚起しつゝあり、同社創立の當時は、其産出額も一ヶ年二萬噸内外に過ぎざりしが、瓦斯事業の發展と共に、比年著しく増加を來し、現今に於ては實に十三萬噸以上に及び、尙年々三割強の増加率を示し居れり。此盛んなる副産物の一手販賣を營むコークス會社の營業は最も機敏、大膽、周到を要するは勿論、普通石炭の如き大口の需用を望む可らざるを以て、區々零碎の點にも最も細心の用意



を講せざる可らず。而して、其會社實際の樞軸となり、動力の中心となりて約七十の社員を動かし、些の遺算なく、些の齟齬なく、一社の事務を總理し居るを支配人鈴木太郎君とす。君は社長阿部吾市氏夫人の令弟、僅かに廿九歳の青年なり。夙に慶應義塾大學を出で、俊秀の譽れあり。溫雅、寡言にして頭腦頗る組織的に、區々たる一鎖事と雖も決して之を等閑に附せず。又、事務に精勵忠直にして所信に邁往する時は何者をも眼中に措ざるの概あり、白哲長身、紅顏美髭の優乎たる一貴公子なれども、主張を立て事に對する時は泰山にも屈せざる稜々の氣格ありて、苟くも人後に落ちし事なし。此を以て阿部氏も安んじて一社の大事を委し、君も亦奮つて其使命を完ふしつゝあり。今後、瓦斯コークス産額の増加と共に、會社の規模益々擴大し、君が任務責任も亦益々大を致すものあらん、謹んで加餐修養を祈る。（東京市日本橋區箱崎町四ノ二）

高萩炭礦々主 千澤平三郎君

君は、大阪の觀世流能師、橋岡家に生る。同家は關西に於ける能樂の大家にして、其門に遊べる者頗しく、三井八郎次郎氏の如きも、熱心なる橋岡の門人なりき。其因みにより君は少年時代より三井家に客となり、東京に上りて神田商業學校其他に入學し、經濟法律等の學をも併せ修めたり。後、下谷銀行の頭取千澤專助氏一家と相識るの機會あり。偶々大磯招仙閣主人の媒により、入りて千澤家の養嗣子となり、下谷銀行の業務擔當社員となれり。君が性、沈着にして

才氣あり。頗る内外の信用を得たるが、後更に噴霧器、防水布其他專賣品の販賣を爲す大菱商會を創設し、自ら之が經營に當りて實業界に大活動を試み、次第に其名を知らるゝに及べり。於是多々益を辨する君は炭礦業の有利有望なるを見て、食指頻りに動き、明治三十五年茨城縣の高萩炭礦を買収して、採掘販賣を開始せり。高萩炭は茨城無煙炭中に於ても品質優れし方にして、君が經營方法の堅實なると相俟て、其石炭も大なる信用あり。秋山炭礦と併稱されて業務益々發展しつゝあり。本社を常磐線高萩驛に置き東京隅田川石炭部に出張所を設けて營業一切を爲すの外、大菱商會に於ても亦其販賣を爲しつゝあり。君頭腦緻密、よく考へ能く斷じ、苟も輕舉盲動の事なきを以て礦主中に在ても隱然重きを爲せり。(東京市神田區仲町一ノ一六、電話下谷七九二番)

好間炭礦株式會社 菅波角之助君



好間炭礦株式會社は白井遠平翁一族の經營する處にして、其名は株式組織なれども、事實は全たく家庭的の關係を爲せるは別に記する處の如し。而して一社の要所には悉とく一門の俊才を配せるが中に、礦業所理事大森鎮平氏(翁の二男)と東京本社支配人たる君(翁の女婿)とは最も令名あり東西相呼應して常磐の炭界に光彩を放ちつゝあるは快なりと謂ふ可し。君は磐城平の産巨頭豐顔にして格腹雄大、堂々たる一個の偉丈夫なり。少時より剛毅にして容易に人に下らず、私かに政論を喜こびて、苟も區々たる未節に拘泥せず、稍長するに及んで交を志士論客に通

じ、遂に四方に遊説して大に經綸を吐くに至れり。福島縣は元の自由黨崛起以來政爭激甚の地、黨派の葛藤盛んにして、縣治頗る困難と稱せらる。君は狂瀾絶え間なき福島政界に奔走して幾たび死生の巷を往來したりけむ。嘗ては斗酒を傾けて廟堂の當路を罵しり、青樓に燭を乗りて血盟を同志と結びし事もありとか。而も世事悉とく非なり。閥族政柄を執り孺子天下に跳梁するに至つて、慷慨の餘り心機一轉し翻然として筆舌を抛ち、炭界に投じて又他を顧みず遂に今日の地位を贏ち得たり。常磐は我帝都に近接せる一大炭田、此寶庫を開發するは總て都市文明の向上を圖るに異ならず。而して好間の如きは最も忠直堅實なる開發者なるが故に、其社の直接經營に當れる君は、吾人の日常生活に大なる寄與を爲せる者と謂ざる可らず。君亦夙に茲に見る處あり、炭田經營の爲に力を盡す事少なからず、彼の磐城西小川炭田開發の便宜の爲に、平郡線鐵道豫定線路變更の議を起し同志と共に鐵道院に交渉して遂に其目的を達したる如き、最近の功績に屬す。斯の如くにして往年の鋒鏘を轉じて、不撓の勇氣を事業遂行の上に用ゐ、今や我實業界の隱れたる重鎮として、四方に潛勢力を扶殖しつゝあり、又壯なりと謂ふ可し。(東京市淺草區橋場町六七、電話下谷一九九六番)

合資會社加藤石炭部 藤本邦宗君

合資會社加藤石炭部に入りて十三年間精勤一日の如く、全たく己れを忘れて店務に盡瘁せる君の如きは敬す可きかな。君は安政元年二月徳島縣三好郡三好村に生る。明治四年、十七歳にして壯兵に徵せられ、同八年、廣島に鎮臺を置くに及んで、其管下松山營所に入る。當時は洋式軍制を布るゝの始



めにして、兵役に期限なく、或は英國式、或は佛國式等、其訓練の方法服制に至るまで區々亂雜にして、今日より之を見る時は、寧ろ失笑を禁せざるものもあらむ。君は此時代の兵役を終へて歸郷し、二十一歳にして三好郡辻小學校教員となれり。爾來専ら教育事業に従事し、各所の學校に教鞭を執り次第に用ゐられて校長となり部視學をも拜せしが、明治三十四年聘せられて加藤石炭部に入れり。蓋し、君と加藤爲二郎氏とは同郷にして、君の令妹は即ち加藤氏の室たり。事の茲に至るは當然の成行と云ふ可きか。君入所以來異心同體の誠を以て加藤氏を補佐し、其石炭部の爲に又は磐城採炭の爲に劃策する處多く、繁忙なる加藤氏をして些かも内顧の憂なからしめたり。君、温和にして寡黙、又極めて質實朴素にして、眞摯の氣眉宇の間に現はる。多年教育の衝に當り、多く書を読み、謹嚴にして言行を苟且にせず、而も、事に望みては諄々として事理を説いて倦まず、眞とに尊敬す可き君子人たり。(東京市神田區鎌倉河岸一三、電話本局三二八番)

高田炭礦 礦業所長

井戸川義忠君

高田炭礦は、合資會社高田商會の有に屬すと雖も、事實は殆んど井戸川氏一人の經營する處にして、採掘販賣の總てを舉げて皆君の双肩に負擔されつゝあり。即ち君は山元に在ては礦業所長たり、東京に在りては隅田川賣炭所長たり、一身兩様の激務に當り、往來倥傯として寧日なく、月の大半を夜行列車に眠る事少なからずと云ふ。而も君が手腕は尙ほ綽々として餘裕あり、高田の隣礦區なる廣野炭



礦をも手中に收めて之が經營に當り。近くは又日本煉炭株式會社の委任を受け、久し、悲境に陥りし山田炭礦の復活を圖り、起死回生獨得の手段に依りて全たく之を蘇生せしめ、今や大なる希望を繋いで營業を開始するに至れり。某氏嘗て君を評して『井戸川君は炭礦のお醫者様だ』と謂ひし事あり。頗る要領を得たる評言にして、現に高田炭礦の如きは、收支相償

はず流石の高田商會すら之を持餘し居たるを、最も君を信任せる我礦業界の權威和田維四郎氏の紹介にて、君に經營を託したるもの、又廣野炭礦も略ぼ同じき病的状態に在りたるもの、何れも君が應病與藥の妙技に依りて、今日の盛を致せし者なり。君は奥州相馬の産、幼にして熊本に赴き、故佐々友房氏の濟々鬢に學びたる事あり。その豪快磊落、滿幅の才氣を動かすに七分の霸氣と三分の蠻氣とを以てするもの、東北特有の雄渾なる氣質に、健剛不屈なる九州氣質を加味せるに依るものか。礦山事業に携はりたるは十餘年の久しき以前にして、嘗て好問炭礦株式會社販賣主任たりし事あり。當時、君が賣炭の技術拔群にして機智突發端睨す可からず、時には一餐の飲に半百の黄金を抛ち、數十萬の貯炭を談笑の間に處置せし如き痛快淋漓たる逸話あり。井戸川と云へば同業者間にも、花柳界にも黒旋風の快漢子として其名を恣にしたりき。四十一年秋好問を辭し、四十四年高田の經營を引受け依然として紅圍粉陣に勇を振ひしが、昨又大患を得てより頓に禁酒禁煙を斷行し、爾來殆んど仙に近き生活營みつゝあるも、曩日の霸氣は尙毫も衰えず。三炭礦の運命を双手に掴みて、梭の如く間斷なき活動を爲しつゝあり。君は斯の如き外部の勇者なれども、家庭に在ては天真流露せる無邪氣の好々爺

にして、老母に對しては至孝、令室と琴瑟相和し。二人の愛兒に嬉戲して、習々たる温風に包まれ居り。《東京市淺草區橋場町八一》

茨城無煙炭共同販賣所 販賣主 任 北村久義君



君は、舊奥板藩(越後井伊掃部守の分家)の江戸詰家老北村叶氏の長男 明治六年四月淺草區向柳原町に生る。明治二十六年高等商業學校を卒業し、二十九年迄義兄某氏の業を助けしが、三十年一月澁澤男爵等の經營に係る青森縣三本木開墾株式會社支配人として招かれ、同地に赴く。東北は由來天分薄く、不毛の土地尠からず、之を拓殖して産業の興隆を圖るは一大急務なるを以て、君は奮つて業務に従ひ、成績頗る見る可き者あり。君又、餘力を割いて自ら一商店を開き、酒石油其他雜貨を鬻ぎ、公私の業共に隆々として發展す。君、勢に乗じて更に規模を伸べ、別に一大耕地を購ひて他年雄飛の基礎將に成らんとす。時なる哉。明治三十五年東北地方大飢饉あり、三縣の黎民殆んど砂を食むの苦楚を閲す。爲に、君が事業擧げて頓挫を來し、殆んど策の出づ可きなし。加之、開墾會社亦解散の悲運に陥りたるを以て、君は萬事を一擲し、其年十二月遂に單身赤裸となりて歸京す。翌年大阪の砂糖商香野商店の客員として入る。香野商店は當時我邦隨一の砂糖商にして一ヶ年の取引額實に一千萬圓に上る。幾干もなくして君其の販賣主任に擢んでられ、業務執掌三十七年末に及ぶ。翌三十八年三井鑛山部に入り、商務課勤務となり、各種石炭其他礦物の取扱に任す。

四十三年十一月茨城無煙炭共同販賣所設立せられ、岡部正樹氏其所長となりて赴くや、君亦三井を辭して之に轉じ、販賣主任の要位に就けり。共同販賣事業の容易ならざりしは別に説く處の如し、而して君岡部氏を助けて八方應接の妙を發揮し内外其だ令名あり、今や所内に在て缺く可らざるの人となれり。君外貌柔和にして、辭令謙遜なれども、資性濶達にして動もすれば霸氣横溢するの概あり、所謂江戸ッ子的閃影の、時に流露するを見る。《東京市牛込區加賀町二丁目》

三井物産株式會社 門司石炭部東京支部 中須養三君

君は兵庫縣加古郡高砂の人、明治十五年生れの三十二歳、孔子の所謂三十にして立ち四十にして惑はず、五十にして天命を知るといふ筆法から言へば將に是れより身を立つるの歳、前途の春秋は遼遠である、三井物産といふ大家臺の下に各々その長所を發揮して活動せる石炭部は殊に腕揃ひの觀があるが、君は其中でも若手の才物で、外交の晴れの舞臺に觀客の注意を引寄せて居る、所謂花形役者である。勿論多士濟々たる會社の全體から見れば、其位置は未だ高しと云ふ可らざるも、何しろ高等商業出身で學問の素養もあり、實業家として身を立んと欲する君としては申し分のない資格が備はつて居る。學校を卒業して直ぐに九州の門司支店に赴き、五年間石炭の中に没頭して、四十三年の春東京本店石炭係となり販賣方面の擔任者たるの位置を瀛ち得たのである。君の今日の地位は相撲道で言へば序の口から取り上げて幕下十兩まで漕きつけたといふ格で、上からも下からも、世間からも、周圍は其の前途に對して刮目して居るのである。君は此のドタン場に立つて今日の任務を全ふし、上下に

對する折合もよく、世間の氣受けも好いのであるから無論幕内力士となるに相違はない。只併し乍ら三井の如き大會社には自づから嚴重の階級組織があつて、假令働きが拔群なればとて容易に地位の昇進を見ることは出来ない、飽まで饑上りでなくてはならぬ。此點は君の夙く熟知する處であるから、向後は只微を積み細を重ね、徐々に堅固なる階段を築き上る事であらう。君頗る常識に富み宏量にして人を容れ、又よく人を愛するの美德あり、此美德は殊に、君の大成に有力なる武器となるを疑はぬ。
〔東京市麻布區筈町二八〕

三菱合資會社 東京支店 谷井光之助君

三井石炭部の若武者中須養三君と相對して、三菱支店の一角を代表し、此の二大會社の東京に於る石炭戰場に、花々しき名乗りを上げた者は谷井君である。中須君は三十八年、君は三十九年の高商出身にして、其年配と云ひ、經歷と云ひ、地位と云ひ、兩者略ぼ同じき者あるは頗る面白い。其風采態度等にも、何處か似通つた點があつて、共に未だ一ツ橋氣質の残つて居るのが、如何にも若々しく未來に富んだ感を深くさせる。東京石炭同業組合發起認可後、組合創立委員中より更に定款起草委員を設け、回を重ねて定款の起草審議を行つた時、兩社を代表して出席したのは主に兩君で、組合員としての利益關係類似せし兩社を背負ひたる君等の主張は、期せずして一致する點が多かつた。組合成立後、評議員會其他に出席するも亦多くは兩君で、東洋無敵の二大石炭王國の使臣として、何日も天晴の武者振を見せて居る。君は和歌山縣の人、學校卒業後直ちに三菱に入り、九州若松支店詰として先づ十二

分に石炭に關する智識と經驗とを積んだ。斯て舊臘、三菱の賣炭組織を變更さるゝに及び、東京支店詰として上京し、谷田君と相俟つて一社重要な椅子に就たのである。現に三菱支店の外交事務は、君を中心として活動して居るので、未だ僅かに三十を越した許りの若手としては、其技術手腕の頗る老熟せるを稱されて居る。資性恬淡、小事に拘泥せず。舉止應揚にして迫らず焦らざる處は、將來大成の素質十分なりと謂ふ可きであらう。〔東京市麻布區新網町一ノ三四〕

山下汽船合名會社 石炭部 長 伊藤好太郎君



君は明治十三年二月を以つて芝高輪に呱呱の聲を擧げ、玉川上水に磨き上げられたる生粹の江戸ッ子なり。高輪高等小學校を卒業して私立英語學校、明治學院に普通學を修め、横濱石炭商會(即ち今の山下汽船)に入りたるは商界に身を投じたる初舞臺なり。性濃厚篤實にして業務に勤勉なるの故を以つて山下社長の信する處となり、石炭業の視察をかね、同社より香港、馬尼刺地方に派遣せられし事あり。此の漫遊的見學によりて得る處少なからず。二十七八年の日露戰役當時、門司に支店を設けらるゝや、君は其の主任として赴任し、佐世保出張所を合せ督して、我海軍に石炭の供給を爲し、大に功を樹てたり。爾來引き続き門司支店に在勤して、同地石炭業者の間に交り博く、斯界君の名を知らざるものなきに至る。後東京本店詰となり、石炭販賣の衝に當るの傍ら、横濱門司の二出張所一切の事務を支配しつゝあり。酒も飲まず、遊びもせず、二六時中勤勉力行して

曾て倦むことを知らざる。此れ君が山下社長の信頼を得たる一因なるべし。君亦深く山下氏を徳として一身を獻げ、他を顧みることなしと云ふ。君未だ不惑に達せず、春秋尙甚だ高し。加ふるに強大の精力を以つて職務に精勵す、將來の發展期して知るべきのみ。(東京市芝區高輪二本町一ノ六一)

磐城炭礦株式會社 販賣主任 尾川友輔君



君は山口縣の人、嚴父を順平氏と呼び、世々毛利公の家臣にして、儒名を以つて藩中に聞ゆ。明治五年三月を以つて呱呱の聲を擧げ、漸く長するに及びて兩親を喪ひぬ。此れより將に高等教育を受けんとするの青年は宛も木より落ちたる猿の如く、中等教育の央ばにして學を廢止するの餘儀なきに至れると共に、自ら働き自ら喰はざるべからざるの不幸に會す。或時は如何にして此世に處すべきかの問題に思ひ悩みたるも、麵麩の迫害は一日も之れを等閑に附すべからず。青春の情火燃えて前途幾多の希望を抱ける青年をして、あたらし一礦山事務所の事務員として、衣食の謀をなすべきの境遇に立てり、居ると三年後磐城炭礦株式會社に入り、漸時累進して東京本社販賣主任の地位に昇りて社中有用の材となり、業務に精通するの點に於て、炭界又君の右に出するもの稀れなり。君の同社に入りたるは、明治二十七八年の頃にして今日に至る實に約二十年、此の長時日を一社に勤続したるもの、京濱炭界に在ては僅かに指を屈するに過ぎず。世間偶此類の勤続者を評するに凡物にあらざれば利巧者なりと言ふを以つて常套語となす。誰れか知らん、君が薄給の一雇人よ



り身を起して今日の要位を瀛ち得たるもの畢竟青春の客氣を抑へて勤勉力行せる賜に外ならざるを。利巧ならずして何人が之れを成し得るものぞ。君は性、濃厚篤實にして些の角張りたる處なく寡言なりと雖も愛嬌を缺がず近く接するものをして何處となく心地好き思を抱かしむ、此れあるが故に二十年一日の如く勤続するを得て社内の氣受よき所以なるべし。君今や實務習練時代を卒へ、此れより一步を進めて藪を作すの時機に入らんとす。思ふに君の忍耐力と職業に精勵なると、其健實なる精神とは他日の大厦を築くの礎石となる可きを疑はず。(東京市豊町區三番町七六)

入山採炭株式會社 營業部長 廣瀨定次郎君

君は神風の伊勢の人。古來殷賑の港として聞えたる津の生れなり。十八歳の頃ひ上京して學事を修め、明治三十年、始めて入山採炭株式會社に入れり。當時、常磐の炭礦は今日の如く盛んならず。同社の如きも其規模甚だ大ならざりき。君は始め湯本礦業所詰として赴任し、石炭採掘に伴ふ諸種の事務に執掌し頗る成績あり。殊に、交際巧みにして才氣溢れ、一種の手腕尋常に超えたる者あるより、同社は君を僻陬の雜務裡に没頭せしむるを惜み、拔て東京本社に招き販賣係に任じたり。當時東京の炭界は群雄割據の形を爲し、競争激甚、苟も間隙あれば手段を撰ばず之に乗ずるの風なりき。君は販賣係として此の混戦競争裡に入り、奮戦苦闘、一日の安を貧ぼらず、智略と精根とを盡して東奔西走、遂に能く使命を完ふし、日に盛大に赴く入山の面目を發揮するを得た

り。即ち累進して販賣主任より營業部長となり、郷社長、内田専務の下に、社内三大柱の一と稱せらるゝに至れり。君交際に巧なりと雖も、他に阿附追隨するの亞流に非ず。確乎たる理想を以て誠意人を動かすを常とす。自ら標榜を立て、曰く、「猥りに廉賣す可からず、大に炭質を精選せよ」と、蓋し、入山が今日の盛を致したるは、其炭質の優等なるに加へて、經營宜しきを得たるが故に外ならず。而して、入山炭の信用甚大なるは、十分に其炭質を精選せるの致す處なり。精選せられたる優良炭に對しては、何人も至當の價を吝むものに非ず。君が廉賣を排するは洵とに所以あるなり、即ち、入山炭の聲價あるは君が主張の實現せるものにして、君が主張は又入山の主義たるを失はざるなり。入山即ち君か、君即ち入山か、法人と個人と渾然融合して、活動の流れに掉さずが故に、希望の彼岸は、雙手を擧げて君の來降を待ちつゝあるなり、君乞ふ、健全にして邁往せよ（東京市京橋區木挽町一ノ四）

竹内礦業株式會社
商務主任 坂田厚民君



たりと稱す可く。或は既に成功の域に達したる人なり。森村市左衛門翁嘗て其の香港支店を巡視し。

東京の炭界に在て、一會社に勤續する事十八九年。孜孜として嘗て他を顧みざるものを、磐城炭礦の尾川君、入山探炭の廣瀬君、茨城無煙の田口君、及竹内礦業の君とす。昔は石の上にも三年と云へり、一所に勵精する事三年なれば成功の基礎必す築かるゝを謂ふなり。三年にして然り。況んや五年十年十五年を勤續するは其人非凡の忍耐力あり、十分成功の素質を備えたりと稱す可く。

一青年の倉庫番を爲しつゝ書見に耽り居れるを見る。之を店員に訊すに、彼は倉庫番となりて以來十年未だ一言の不平なく一日の缺勤なく、忠實に勤務し餘暇を偷んで讀書に専念し居れるなりと云ふ。翁感嘆して其青年を拔擢し一躍支店支配人の要位に就かしめ、以て非常の好成績を收めたるは有名の逸話なり。思ふに分を守りて一事に熱中し、不平不満なく十年間を送り得るは大に用ゆ可く大に信頼す可き人たるに相違なし、今夫れ君等四人は彼の青年に超ゆる事八九年、その内外上下の信頼を博して、社中樞要の位置に據れるは實に偶然に非すと云ふ可きなり。君は京都の人、幼より九州唐津に在り、明治二十八年慶應大學理財科の出身にして、卒業後直に芳谷炭坑（即ち今の竹内礦業株式會社）に入り、有ゆる炭坑事務を執りて今日に至れり。竹内礦業は近來石炭の販賣を擧て三菱に託し、單に礦山の採掘を爲すに過ぎざれども尙ほ各方面との聯絡其他の事務頗る多し。君は永く東京方面の販賣主任たりしが引續き商務主任に進みて右の繁務に當り、全たく同社勢力の中心として活動し居れり。彼の第一土曜會は主として君等の主唱に依り成立せるもの、第一回以來、其會計主任に推れて會の發展に力を傾け、曩に組合創立に際しても、大に盡瘁する處ありき。君の如きは眞個に京濱炭界の中堅と謂ふべき也。（東京府豊多摩郡千駄谷原宿一九八、電話一七九番）

車置礦業合資會社
代表社員 岡上麟藏君

突如として常磐炭界に現はれ。茨城無煙の車置坑を採掘して、本年上半年には無慮四十割、後半期にも尙少なく共二十割の利益配當を爲さんとする君は、大正の政變に十年雌伏の身を起し、一代の巨人



は岩崎久彌氏の姻戚)を以て岩崎家に據り、竹内家に入りて礦業の趣味を解し、茨城無煙炭礦の社員となり礦業に従事する數年。去て樺太に入り同地開拓に斡旋すること亦多年。四十五年車置礦業會社を起して業務を擔當し、冒頭記載の如き異常の成績を挙げ、本年更に帝國煉瓦株式會社取締役に擧られたり。三十七八年の役君徴れて征露の軍に従ひ、石油を敵の城壁に注ぎ之に砲火を送る可きを獻言して、上官の容る所となり、奇策功を奏して到る處露軍を惱ましたり。凱旋後殊勳を録せられて功五級金鵄勳章を賜ふ。一兵卒の身を以て五級に叙せらるゝは實に異數の榮譽なり。君放膽豪宕、多く利し多く散し尙も蓄財の念なし。惟へらく、蓄財は天下の富を私するもの、人道に悖る一種の罪惡なりと。氣焔あり、詩藻あり、趣味あり、雅情あり。而も、人の嗜好を問ふあれば洒然として答て曰く。「碁は不知、將棋は下手、飲めば酔ひ、食へば下痢し、女には振られ、詩に俳に徂水の號あれども一向に不振」と。多角多面にして電光石火的の君の風貌躍如たるに非ずや。東京豊多摩郡連谷廣尾町八八、電話芝四八八八番

磐城採炭株式會社 丸山兼三郎君



君は東京の人、丸山文吉氏の三男、明治三年八月を以て生る。弱冠にして沈着大量、事業經營の才あり。學窓を出るや獨立自營して種々の方面に手腕を試み、或は進み、或は沮み、曲折常なくして備さに辛酸を嘗めたるも、意氣益々昂りて撓まず、屈せず。一難を経る毎に一步の基礎を造り、一厄に會ふ毎に一基の楷梯を築き、其の堅忍の志と、誠實の技倆と、次第に同志先輩の重んずる處となりて、遂に實業界に擡頭するに至り、城戸炭礦株式會社取締役、東野鐵道株式會社、日本馬匹改良株式會社各監査役等に擧られ、又、王城炭礦株式會社支配人に就任せり。王城炭礦は一時社運隆々たりしも、日露戰後經濟界の不振に煽られたると、其有名なりし八尺層の出水に達するとにより、頗る逆境に陥り、重役に對する株主の紛擾少なからざる有様なりき。君は此時代に支配人として、直接經營の衝に當り、内外の折衝に紛骨碎身し、幹部の諸氏と協力して遂に能く破綻を未然に防ぐを得たり。爾來、社運展開し復活の曙光を認むるに當りて、昨年同社を辭し、磐城採炭株式會社の支配人として、新たに得意の手腕を揮ふに至れり。天性溫厚にして圭角を藏せず。其人格力量に於ても優に一家を成し居れるが故に、機運一たび熟せば、羽翼大に張りて實業界に捲土重來するに至るや必せり。(東京市京橋區築地町二ノ三、電話京橋一八〇五番)

中野炭礦
支配人

中村千代松君



君は中野炭礦主中野喜三郎氏と同郷なる。香川縣小豆郡手島村の人、元治元年を以て生る。幼より鬼才あり。夙に四書五經を暗んじ、郷黨の先輩をして其強記に驚かしめたりと云ふ。稍長じて村役場に勤務し、用ゐられて収入役となり。専ら地方自治の改善發展に盡瘁したるを以て、村會議員、或は郡會議員等に擧られ、名望地方に洽ねきものありき。後、中野氏が東京に於て石工業に成功し、盛んに店務を擴張するに當り、招かれて店務の支配役となり、更に中野無煙炭礦の經營するに及んで、販賣一切を司るに至れり。君思慮周密にして、理智に富み、日常の瑣事と雖も、必ず整然たる規矩を設け、放漫疎懶を惡むこと殆んど蛇蝎の如し。殊に素養あり見識あるが故に、其言動は同業者間に重きを爲し、常磐無煙石炭礦主會に在ても君常に中野炭礦を代表して之に蒞み、正論公議を立て、他を傾聽せしめつゝあり。君また兒童教育に心を注ぎ、一般兒童日用の學費を節約せしめんが爲に水書草紙を發明して之が普及に腐心し、現に各所の文房具店頭に鬻ぎ居れり。君の如きは實に常磐炭界の異彩たるのみならず。我が教育界にも亦一地步を占むるものと謂ふ可し。

東京市京橋區八丁堀中野炭礦内、電話京橋七三八、七三九番

山下汽船合名會社
石炭部

渡邊旗郎君

君は長崎縣壹岐の人。其家は同島一流の名門にして、數代連綿たる舊家である。壹岐は宗對馬守の藩領にして、玄海の波浪中に孤立せる豆大の小島に過ぎぬが、九州と朝鮮との間を連結せる一雄鎮として、對馬と共に邊境防備の務に任じ、或は舊韓國を抑えて、釜山守備の衝に當り、我國海外發展の足溜りとも云ふ可き位置に在つた爲め、古來様々の光輝ある歴史に充ちて居た。殊に、平家滅亡の際、安徳天皇が此島に渡られたと云ふ傳説もあつて、其行在所の跡は今も神社として祀られて居るが、壹岐の島守は其際、天皇に冊き奉つた功によつて、御紋章を拜領し、爾來儀禮の際に附け用ゐて無上の光榮とした者である。而して、君の實兄に當る人は令室を宗家より迎えた因みもあり。御維新前迄は君の家にも其紋服と用ゐた事があると云ふ。君は斯る舊家に生れ郷里の小學を終ると共に長崎に出て商業學校に入り、卒業後直ちに實業界の人となり實際の修練を積むこと數年。後、今の山下汽船に入り、努力精勵して今日に至つたのである。君、豐顔溫容にして姿勢端嚴、流石に其家柄を偲ばしむるものがある。齡未だ三十を越した計り。自ら期する事高きに係らず己れを俟つ事薄く。謙遜自重の念強きが故に、其前途は大に望を囑すべきである。(東京市芝區電町四七)

三星炭礦株式會社

小島順之助君

磐城の炭礦には、世の社會問題殊に勞働問題研究者の注意を忽にす可からざる一個の特長あり。開は冷酷殘虐、動もすれば現世の地獄と稱さる、坑山内部が、不斷の春風に充ち渡れる、特種の家族制度によりて經營さるゝ一事なり。例之は、磐城炭礦の淺野一派に於ける、好間炭礦の白井一派に於ける。



三星炭礦の松本一派に於ける。何れも一族一門を以て社中の要部を構成し、表面は株式組織の公開的色彩を帯ぶと雖も、實は個人の經營と多く異なる處なきなり。去れば其東京本社と云ひ、磐城礦業所と云ひ共に家族團練の觀を爲し、絶えて普通會社に通有せる朋黨比周内に相争ふの弊なく、人夫坑夫の末に至るまで之が流風餘情に浴し居れり。小島君は元と松本一派と何等一族の關係なしと雖も、三星炭礦に入りてより多年、今や本社の主事として、内は一切の庶務より外は販賣取引に至るまで萬般の率領を爲し、殆んど一族以上の信頼を受けつゝあり。蓋し、斯の如き特種の雰圍氣内に在りて能く調和を保ち、十分に自個の技能を發揮し得るは困難の事にして、紛々たる俗情を超越せる至純の人に非ざれば、恐らく油を水に投じたる如き關係に陥る可し。而も、君は人格を以て自ら律し、私心を虚ふして事に當れるが故に、自づから我他彼此の牆壁を脱却し、互に融合渾和して、一族以上の一族たるに至り、安んじて主任を託されたる者ならむか、君は茨城縣鉾田の産本年四十一歳、家は地方の豪家にして、甚だ聲望あり。君亦村治に盡して功績少なからざりしと云ふ。三星に入しは明治三十九年にして、爾來精勵八年間、現に常磐炭界の立役者として、一城を築けるは人の知る處。其風采態度に學者的面影あり。近眼にして長身。談話にも理路あり組織ありて毫も卑俗に流るゝ事なく、能く其風采と相稱へり。(東京市下谷區下根岸町七六)

好間炭礦株式會社 營業課長 赤津安藏君



記者曩に常磐の遊あり、私かに所看を歌ふて曰く、「磐城なる黒石山は山底に富をたくはふゆゑに幸あり」と、彼地は實に無盡の寶庫の上に築かれたる天興の樂土にして、一片の鶴嘴に依り碎き出さるゝ富は幾百千萬に及ぶべきか殆んど擧げて量る可らず。其人生に寄與する幸福も亦頗る大なる者あるなり。君はその「山底に富をたくはふ」磐城石城郡の産。生れながらにして我炭界と深き因縁を有す。郷里に中學を卒へ、上京後更に攻學研修を積みて、身を保險事業に委ぬ。明治三十八年春轉じて好間炭礦に入り、庶務係より販賣係に移り遂に進みて其主任となれり。君は所謂努力主義を守り、才に任せて機略を弄するよりは力を以て正面より漸進するの人なり。故に其販賣上の手段に於ては、花火線香の如く喚發的に非ずして、徐々に堅實に成績を擧るに努む。彼の機略縱横も時には必用にして勝を突差に制するは一見花々しきに相違なし、而も質實漸進、徐ろに大勢を鑑みて永久の利益を打算するは更に究極の勝利たるや論なし。早熟も一種の成功なれども晩成も亦光榮ある凱旋なり、而して君は眞面目に努力し、秩序的に精進す。奇兵に非ずして正兵なり。早熟に非ずして晩成なり、殊に奇兵は障害に逢ひ安く、正兵は一路平坦なるが故に、君の如きは何等の危険なく前途を進み得るもの。好間炭礦が營業課長として君を撰びたるは、又以て同社の安全多望なる前途を現示するものと謂ふ可きに非ずや、君年齒尙三十三歳、幸に加餐自重して、今後の豊かなる春秋に光輝あらしめよ。(東京市淺草區橋場町二二三)

茨城無煙炭礦株式會社 田口虎次君



君は岐阜縣惠那郡岩村町の人田口集吉氏の二男明治六年九月を以て生る。大島參謀次長、下田歌子、豫言者飯野吉三郎の人々皆同郷なり。就中飯野氏とは同町内竹馬の友なりしと云ふ。君の家は世々長命にして一族繁昌し、祖先の壽何れも七八十歳を下りし事なし。現に君の嚴父七十四歳、慈母七十歳共に健全にして、嚴父の如きは鑠鑠壯者を凌ぎ、山野に獵して一日十里を往復するも絶えて疲勞の色なしとぞ。又君の兄弟九人、次弟孝助氏が曩に乃木軍に従ひ戰死せるを除けば悉く健在し、而も皆既に婚嫁せるが故に、多數の子女あり。嚴父を家長として孫二十八人、曾孫八人、一族合せて約六十人に及び、四五年前金婚式を擧げたる際の如き。子孫八方より賀を進めて郷閭遠近を羨望せしめたるよし、家門の隆昌洵とに稀有の慶事に非ずや。君は郷里の小學を終り十四歳にして上京、三田英語學校より慶應義塾に入り、廿八年其門を出づ、翌年茨城無煙炭礦株式會社に聘せられ茨城縣多賀郡の礦業所に赴任す。當時無煙炭の用途須知せられず、爲に採掘せる石炭を伊藤平山式竈に投じて煙蒸し、一種のコークスとなして之を『伊山炭』と稱し海路東京に輸送せるに過ぎざりき、三十年三月日鐵海岸線開通前後より無煙炭の販路漸次に擴大し、三十二年君が本社販賣主任として東京に歸りてより後一兩年にして全たく『伊山炭』の跡を絶ち、石炭其物を以て世の需要を喚起するに至れり。凡そ此石炭の販路を開拓せるものは、二宮景輔氏等熱心運動の賜なれども、君が

效も亦決して没す可らざるなり。君亦父祖の血を享けたる子福者にして、既に五人の子女を有す、朝夕の嬉戲歡語以て想見すべき也。(東京市赤坂區新坂町六九)

山下汽船合名會社 渡邊忠治君



君は安房の人。關東の平野犬吠ヶ崎に盡きて長汀曲浦の九十九里を流れ、南の方總房の連山を起して太平洋萬里の浪に洗はる、半島の海岸は、冬温かく夏涼く、魚肥え果實稔りて自づから醇朴温雅の氣を醸成し、老幼子女能く勵み能く睦みて習俗の掬す可きもの少なからず。而して一面利害の打算鋭敏なるが故に、實業家として最も適當の素質あり。君斯の國に長じて幼より郷土山川の感化を受け、商業上の懸引應對頗る巧妙、八面應酬些の圭角なき處に其特長十分に發揮せらる、夙に東京に出で、清田房次郎氏の商店に入りて石炭販賣の局に當り、十分に手腕を認められたり。居る事六七年、横濱石炭商會に轉じ、同じく賣炭係となる。君此の方面の活動頗る鮮かなるものなり。一たび狙ひを定めて之に向ふ時は、必らず目的を達せざれば止まず。或は神氣頓生すれば、百萬二百萬の取引を爲すこと須臾の間にあり。其一點に於ては殆んど獨往無敵と稱せらる。横濱石炭商會は次第に發展して山下汽船となり、君また勤績榮進して其の販賣主任に任せられ、今や得意の辣腕を最も得意の舞臺に演じつゝあり。一言にして評せば君は山下氏を小型にして、二三の長所を除きしものと謂ふ可く、殊に同社の自主自由なる空氣中にありて、自由なる特長を輝やかし居れるも

の、君としても真に好箇の場所を得たりと謂ふ可く、山下氏も亦好箇の役者を捉へ得たりと謂ふ可き也。《東京市日本橋區龜島町一ノ二》

高萩炭礦
主事 村上音松君



君は富山縣の人、明治十四年を以て生る。郷里に小學校教育を受け十六歳にして上京、順天中學校に入る。當時の學生は多く疎暴放縱、高履短袴にして大道を濶歩し、動もすれば喧嘩口論を爲して誇りとなせり。而も君は温和着實毫も其弊害に染まず、孜孜勉學の傍ら東京簿記學校に入りて、記帳の道を兼修す。順天中學を卒へて一たび歸郷兵役に就き、第二師團に入る。日露

戰役に際し召されて軍に従ひ、滿洲鐵嶺方面に奮戦して勳功を樹つ。凱旋後三十九年又上京し下谷銀行に入れり、同銀行は高萩の礦主千澤平三郎氏岳父の經營する處、千澤氏も當時其業務擔當社員たりき。後、千澤氏が三菱商會を創むるに當つて君亦之に移り、更に轉じて高萩炭礦の隅田川出張所主任に進みし者なり。前後八年間總て千澤氏との關係密接なるに見るも如何に其信頼を受けたるかを知らざる可し。始め、君が下谷銀行に入りしは同行坂本支店長細海豐吉氏の紹介に依りしもの、今日の地位を開拓せる第一鐵は正に細海氏に與へられたるに等し、然るに運命奇遇、細海氏は又轉じて今や高萩に在り。君と机を並べて出張所の經營に任じ、唇齒輔車、同炭礦の双柱を爲し居れり。兩氏の因縁亦深しと謂はざる可らざる也。《東京市本郷區丸山新町三六》

宇佐美炭礦 石井留藏君



君は栃木縣安蘇郡佐野町の人、實父を荒川藤十郎氏といひ夫人るい子との間に九子あり、君は其末子にして明治十一年十一月を以て生る。家世々商業を營みたるを以つて、君も小學校卒業の後は親しく商業に従ひたるも、農村の一小市街町にありては何等成す能はざるを察し、奮つて東京に上り商業見習として二三の店舗に投じ、其他銀行會社に入りたることあり、

後宇佐見秀次郎氏に拔擢せられて遂に宇佐美炭礦の採炭及東京一手販賣をなすに至り、三十二年一月より兼て茨城無煙炭の販賣をも營み、日夜販路の擴張を圖るに餘念なし、其性着實にして温健、業務を執ること極めて誠實丁寧なるを以て、同業者間は勿論、需用者方面にも頗る信用を博しつゝあり、内室花子との間に三子を擧ぐ、長男を健三、二男を富藏といひ、長女をとし子といふ。《府下南千住地方橋場二二五一、電話下谷五六五番》

龜井戸コークス
製造所主 神田兼太郎君

個人經營のコークス製造業者として、我邦有數の大工場を有し、江東龜井戸の空に樹立せる煙筒より濛々たる成功の黒煙を擧げつゝある君は兵庫縣神戸市兵庫新町の人、明治五年の生れである。夙に東京に上り、明治二十二年來業務を開始せる龜井戸コークス製造場の一使用人となり、眞黒になつて働



らいて居たが、同工場の經營意の如くならず、明治卅二年、場主が多年の事業を抛擲するに及んで、自ら其後を引受け、未だ二十七歳の青年の身を以て此難關を背負つて立つに至つた。近來各種コークスの生産増加に伴ひ其需用も漸次増大したが、君が事業を引受けた當時は、未だ一般に注意を拂はれず。内は工場經營より外は販路の擴張に非常の困難を感じた。而も君は寢食を忘れて努力奮闘し遂に今日の盛況に達したのである。其工場も最初は龜井戸町字柳島の一箇所であつたが、四十年には小名木川廻り砂村に分工場を設置し、四十三年には更に府下大島町字釜屋堀に第三工所を増設した。本工場の面積は千八百五十餘坪、分工場は千三百六十餘坪、第三工場は二千五百五十五坪。コークス窯の總數は實に九十六個にして、以上三ヶ所よりの生産年額は二萬五千噸以上三萬噸に及び、其の事業の盛大と共に、コークス業界の泰斗として君が名は、斯界に轟いて居る。又四十四年需用家取引先に對する便宜の爲め深川西元町に龜井戸コークス事務所を設け、愈々業務の完備を企圖して居るが、僅か十餘年前の一使用人が、斯る目覺しき發達を遂げ、覇を同業者間に稱ふるに至つたのは、實に驚嘆すべき事にして、君の如きは實に努力の枝に成功の花を開かしたる一代の名木と云はねばならぬ。(東京市深川區西元町一、電話本所一三六一番)

秋葉商店
石炭部主任 渡邊 三彦 君

君は栃木縣那須郡大田原の藩士渡邊渡氏の三男にして、明治十二年七月を以て生る、世々大田原藩公



に従ひ武名郷間に高し、君は大田原町の小學校より中學校に入り、卒業後上京して、東京外國語學校に入學し、密かに志を貿易の事業に立て、三十二年學卒ゆると同時に三井物産會社に入り、東京本店營業部に勤務し、更に門司支店に轉じて専ら石炭の取扱に従事す、後ち神戸船舶部、杵島出張所、長崎支店等に歴任し貿易商業上一般の智識を養ふ處少なからず。殊に石炭業者としては君は確に同業者中の黒人たるを失はず、君、秋葉商店主秋葉大助氏と親戚關係あり、其の信頼を受けること淺からず。竟に同店支配人として聘せらるゝに及んで、君は多年住み馴れたる三井物産を去るの情忍びざるものありしと雖も亦知己の請を辭すべくもあらず、大正元年冬斷然三井を退社して秋葉商店に入り其支配人となれり、同店が我邦人力車輛製造業者の濫興なるは人の知る處にして富巨萬を致し、今や業務の擴張を企畫して輸出入業及石炭部の如き最近の施設に係れり。君は秋葉氏を補佐して石炭部經營の衝に當る。適材適所を得たるものといふべく、従つて君の手腕を伸す亦今日以後にあるや必せり。君の處世の理想とする處は着實を旨とし、漸進主義を取ると云ふ、是れ最も危険なき方針にして、今日の商業家として最善最良の手段たるを失なはず。(東京府下目黒村下目黒一五一)

松本商店主 松本 三郎 君

東京に於ける茨城無煙炭販賣業者として、最大のレコードを有するものは君なり。君は本店を築地明石河岸に有し、飯田町、新宿、王子の各所に支店を設けて、盛んに石炭の取扱を爲し、無煙炭仲買商



中の牛耳を取れる一勢力なり。曩に同志と謀りて申合組合を設け、之が幹事又は幹事長として奔走する處少なからず。大正元年、東京石炭同業組合の發起せらるゝに至つて創立委員の一人に推され、更に本年組合成立に際して評議員に擧られたり。君由來、營業上の智略あり、人に接すること巧妙にして、喜怒毫も色に現はさず。所謂ニコク、黨の一人として、萬事を嫻然微笑裡に解決し去る。殊に、高知縣の産なるが故に、一種の粘着力ある土佐辯は巧みに對者を魅了し、諸ろの場合に有利の武器となる事あり。明治四年九月生れにして不惑を越ゆる僅かに二三。實質ある活動と内容ある收穫とは、思ふに今日以後に在る可し。聞く、君宿痾あり、近來健康稍よ振はずと蓋し健康は最大の資本なり。黄金は要するに世間融通の阿堵物に過ぎざれども、健康は直ちに自個なり、自個の運命なり。君が從來の努力によりて築きたる地盤をして、今後益々鞏固ならしむると否とは主として君が健康の如何に依る可し。君乞ふ我炭界の爲に攝養一番せよ。(東京市京橋區明石町明石河岸三號、電話京橋一八九一、一八九二番)

杉浦商店主 杉浦重吉君

松本三郎君が茨城無煙炭販賣の最大レコードを有するが如く、君は瓦斯コークス特約販賣人として唯一の記録を示せり。聞く處によれば東京瓦斯コークス會社販賣の、コークス中約三割は君の本支店により捌かるゝ者にして其業務の盛大なる他に比なしと云ふ。君の家は先代よりの石炭商にして、君は明



治七年五月を以て芝湊町に生る、十三歳の頃より十九歳迄某吳服店に勤務せしも、實家の石炭業愈有望なるを以て、歸りて家業に従事せり。廿七年徴兵に合格して歩兵第一聯隊に入營し、現役を以て日清戰役に従ひ、更に三十七八年役には後備を以て征露の軍に従へり、東京の炭商中、前後二回の大戰に出征したるは、恐らく君のみならむ。凱旋後は愈よ本業の發展に専念し石炭以外瓦斯コークスの特約販賣を開始して、熱心に販路の開拓を圖り。尙ほ別に共進舎を起してコークス用器具一切の販賣を營なみ、或は器具を實地に用ゐてコークス使用の方法を示し晝夜之が普及に奔走したり。爲に市内の需要頓に増大し、コークス商として杉浦商店の名顧客の間に稔知せらるゝに至れり。君性質謙讓溫和、母堂に仕ふる事厚く、又その使用人を愛すること骨肉の如し。不幸、令室との間に子なきを以て妹君の息泉次郎君を養ふて嗣となし。一家和氣に充ると共に、事業益々隆昌に趣き外に在ては石炭組合評議員として盡力しつゝあり。市外森ヶ崎に別邸あり。君業餘の閑を割きては母堂一族を伴ひて之に赴き、投網釣漁半日の清遊に塵懷を洗ふを常とすと云ふ(東京市芝區湊町一、電話芝一三四七)

西石炭店主 西主一君

西君は、東京の炭商中最も異色ある一人なり。君は利を貪らず、掛引を爲さず、一路直進昂然として所信と濶歩す。其風采は堂々として稍々南洲の偉あり。其趣味は風流多面、又菜園の嗜好ありて、時に清風に俳を談じ時に朝露に花卉を培ふ。而も碌々無爲の隱遁子に非ずして、時潮を見ること甚だ鋭



どく、神興汪潮すれば口角沫を飛して政談を行ひ、或は所謂新らしき女を品評す。又敬神尊佛の念厚く、公共の爲に力を吝まず、現に選ばれて淀橋町會議員となり、新宿角筈方面の信望を負えるが故に人呼んで君を「山手探題」と云ふ。探題の一語、君が非町人的風格を批評し得て頗る妙なり。君は備中國川上郡落合村の産、文久三年十二月を以て呱呱の聲を擧ぐ、六歳にして父を喪ひ兄妹十一人偏へに慈母の愛に浴す。明治二十年岡山師範學校中等科の業を卒へ幾干ならずして志を抱いて上京す。當時素より知己縁邊の寄る可きなきを以て單身奮闘苦學を重ぬ。君由來數學の天才あり、乃ち私塾を開いて且つ教へ且つ學び頻りに青雲を望めり。時に司法省、民刑局長小松、政治家豪放磊落にして大に書生を愛す。偶ま君が孤拳にして力行するを嘉みし拔て自家に客たらしむ。君感激して師事し、旁ら獨逸協會學校和佛法律學校等に學ぶ。然るに君亦腕白無双、校規校則を犯すこと日常茶飯の如く、或はルーソーの民約論等を耽讀し例の民權自由論を鼓吹して言動往々過激に互れるが爲め何れも退校處分に附せらる。君毫も意に介せず愈よ「生ける學問」に志し、井上毅氏の知を得るに至りしが、小松氏没後は心機一轉して録録を收め、明治三十一年得意の數理を以て東京市技手となり、水道部工務課を経て同庶務課に轉じ三十四年一月検査係長に榮任す。三十七年市役所を辭して東京市街鐵道株式會社に入り、翌年職を辭する迄前後八年、深く圭角を藏したるも、平凡なる備人生活は到底君が資性の堪る所に非ず、遂に實業に志して四十年十一月石炭販賣業を開始し、主として中野喜三郎氏の經營する中野無煙炭の特約販賣を營みて今日に至る。中野氏は東京に於る實業界の

俠、深く君と相許せりと云ふ。本年四月、東京石炭同業組合創立總會に於て評議員に選ばれ、將來炭界の事一に君の侃諤を要求するに至れり。君が非町人的風格は將來益々發揮して永く我炭界の清涼劑たる可き也。(本宅、府下澁橋町角筈六〇三、電話番町四四四二番、營業所新宿停車場前)

加納商店主 加納惠太郎君



君は加納由太郎氏の男、明治八年十二月を以て福島縣石城郡磐崎村大字下陽長谷に生る。祖父は作平氏、磐城炭探掘の卒先者として有名なり。作平氏は内藤藩の御用達を勤め常に東京と往復したるが、或時渡邊治右衛門氏より、石炭に關する智識を受けて歸來之を採掘販賣したるもの、其以に黒色の星章を打ちたるを以て、黒星印と稱し大に地方に喧傳せられたり。即ち常磐炭界に在ては、君は正に元勳名門の嫡流たるなり。父君由太郎氏は夙く逝き、君は明治十五年下陽長谷小學校に入り十九年進んで小名濱高等小學校に入る。翌二十年、淺野總一郎氏磐城を過り、君が家門の炭業に縁故深きを知り、君を率て東京に携へ歸らんと欲す。時に君未だ學窓に在りしを以て翌年卒業と共に上京し、前約によりて淺野石炭部に入れり。爾後、寒暑を忘れて業務に勤勉し旁ら學事を研修す。廿九年獨立して京橋區新湊町に店舗を開き、各種石炭の販賣を營なみて成績あり漸次業務を擴張し主として常磐炭の販賣を爲すの便宜上、三十六年十月を以て隅田川石炭部の現住地に移轉したり。東京の同業者中に在ては、君年壯にして最も常識に富み、素養抱負に於ても一頭地を抜けり。

同業組合成立に際し其評議員に擧られたるは必然の結果と謂ざる可らず。君に子女四人あり、長女と
き子芳紀十六歳、三輪田女學校三年生にして才媛の譽ありと云ふ、長男一郎君は當年九歳、一家の寵
愛を小さき双肩に擔ひ、天晴れ未來の大實業家として期待されつゝあり。〔東京南千住地方橋場一二五一、電
話下谷三三三番〕

中島商店主 中島庄次郎君



明治維新の際、慶喜公が大政を奉還し、恭順の意を表して静岡に退かれる
と同時に譜代旗本の多くは駿遠地方に歸農した。乃ち、江戸ッ子の多くは
静岡に移つて、薩摩ッぼや長州ッぼらが東京狭しと横行する様になつた。
爾來年を追ふて跋扈する閥族は皆要するに田舎ッぼらの成上り者に過ぎぬ
のだ。此成上り者の跳梁の爲に江戸趣味の滅殺されたは一通りではない、
江戸ッ子氣質の頹廢したは慘ましい程だ。若し茲に純江戸ッ子があつたら、何れ程懐かしい事だらう
又、何れ程痛快な事だらう。吾人は崩れかゝつた城の石垣の様な庇髮の女を思ひ、揉上の短かい鬘を冠
つた様な青瓢箪を惜む。而して、江戸ッ子に對して胸底一種の美くしい波打ちを禁ずる事が出来ない。
君は江戸ッ子である。資産家中島家の二男と生れ、目白の高臺から八百八町の薨の波を睨め付けて人
となつた。未だ四十には達かぬ色の白い好男子。血の氣の多い唇と輝やかしい兩眼に利かぬ氣の一癖
が仄めいて居る。二十三歳の時、少なからぬ資本を父に貰つて薪炭屋を始めた。素より資本は潤澤な

り、荷主に金を貸し山を買せて薪炭を送らせるから、商賣は頗る順潮に行く。けれども泣付れては否
と云へない、弱い者は扶けたい性だから幾らでも貸介れが出来。不埒な奴に對する鼻柱の強い割
に、義理と情の熱い涙にはボキリと折れるから、實家から引出した金も少々ではない。夫でも商賣は
益々手擴くなつて、明治三十六年には好間炭礦の出張所を引受けて石炭販賣を始め、今では山手方面
のみならず、東京の石炭屋仲間でも有數の大頭となり、月々の取扱高も極めて巨額に上つて居る。強
い者には剛く、弱い者には柔かく、月には泣き、雪には勇む江戸ッ子の面目は、君を叩くの隨時に見
る事が出来るのである。〔東京府下澁橋町角第一、電話番町八二〇番〕

内田商店主 内田允君



静かな、温健な學校の先生から、激しい辛辣な石炭商になつた。君の境遇
は消極から積極に變つたので、其取合せから見ても先づ激變と謂つてよか
らう。然らば、君の性格趣味も亦消極から積極に變つて居るのかと云へば、
然うではない。君は由來積極進取的の人であつたのだ、その一時教鞭を執
つて居たのは、蛟龍が池中に蟄して居た様に積極的性格を抑へて暫らく雌
伏して居たのである。果然、君は村夫子先生でなかつた。生馬の目を抜くと云ふ東京の、殊に競争激
烈な炭界に在ても、立派に悠々と瀟歩し得可き素質があつたのである。君は明治十五年生れ。二十六
年高等小學を出て、私立南總中學校に入り、三十一年其事業を終つた。三十四年西學館に和漢の學を

修め更に某小學校の助教として教壇に立つに至つた。頑是なき兒童を相手に平易普通の學を授くる。教育と云ふ方面からは頗る重い責任であるが、霸氣あり活氣ある青年の堪ゆる處ではない。三十六年、君は職を辭すると共に引絞つた矢を放つ如く實業界に奔つた。準備を整へて石炭業を開始したのは三十七年、日露戦争前後には一舉手一投足にも多大の利純を得て、内田商店の薈は駒形の朝日に輝やき渡つた。爾來、新進敏腕の若手として炭界に知られ、遂に今日の基礎を作り、公共の事にも盡す。同業の爲にも謀る。組合創立に當つては評議員の一人に擧られ。或場合には議論家として、大に重きを置れて居る、組合役員中の、最年少者であらう。東京市淺草區駒形町一五、電話下谷二六〇一番

福田石炭回漕店主 福田伊重郎君



今の隅田川石炭部が常磐炭の集散地として開け始めたのは、明治二十七八年頃であつた。當時三井物産では平田初熊氏が石炭部の主任として盛んに敏腕を揮ひ、常磐方面にまで手を伸して岡田、秋山、高田、白水(今の王城)諸炭礦の委託一手販賣を營んだ。君は其折柄親戚に當る靈岸島の高橋回漕店に在たが、同店でも隅田川に石炭及回漕業を開く事となり、君は高橋及三井双方の石炭係となつて始めて隅田川に乗出した。丁度二十八年君が二十五歳の時である。其後二年許りで平田氏は北海道へ轉任し、是と同時に三井は委託販賣を廢し、高橋でも隅田川を引拂ふ事になつたので、君は獨り踏止まつて三十年五月一本立の回漕兼石炭業を始めた。夫からは一生懸命



朝は早くから人夫と一所になつて働き、夜はカンテラを提げて自ら貨車護へに行く。毎暁十二時より早く寝た事はなかつたと云ふ程である。そんなにも働らいても好い目は容易に出ぬ。失敗に失敗を重ね店立を食ふ杯と云ふ大事件にも逢つたが、偶々市街鐵道の砂利運送を請負つて思はぬ利益を得、之を機けにメキ／＼と發展して、次第に石炭の得意も出來、店の信用も高まり、今では毎月五千圓以上の炭代取引をして炭界有力者の一人となつた。君に今日の地位を築いた秘訣はと問へば、「私は頭で商賣をする。得意には何處迄も頭を下げ、下げた頭を眞一文字にやり通す。此外には何の秘訣もない」と、洵とに面白い言葉で、同業者としても最も味ふべき事であると思ふ。(東京南千住町地方橋場一二六、電話下谷三一六二番)

大澤石炭商店主 大澤朝吉君

君は下野の人、祖先を究めれば、倭藤太秀郷の臣大澤小三郎より出て居る。秀郷が平將門討伐の功を擧げて雷名を轟かしたるは、苟も史を讀む者の知る處であるが、當時の戦ひに事實將門の首級を得たるは、寄手一方の大將を承つた大澤小三郎だと稱さる。秀郷は後に下野唐澤山に神として祀られ(唐澤神社と云ふ)其邊りに今も大澤と云ふ地名あるは、彼の小三郎が所領の跡である。大澤家は數代にして刀槍を抛ち農に歸し、又數代にして下野栃木に分家を生じ商となつた。是が今の大澤家の祖である。累代質商を營みて榮え。君の現住所は三代前に設けた江戸支店にして、

久しく手代に任せてあつたのを、江戸が東京となり時勢が急轉するに従つて、奉公人任せでは十分の發展が出来ぬと云ふので、君が茲に移つたのである。現に其業を繼續して居るが、君は極めて高潔な、武士的性格の人であるから、質商たる事を喜んで居ない。只、祖先以來の營業を抛つは一種の不孝である。と云ふ立場から、強て之を營んで居る。然う云ふ風であるから、無論其方面には力を注がず、十三年前から石炭業を始め、専ら此營業の擴張を圖つて居る。又數年前に自轉車特約販賣を始め、斯る文明的商業には自ら奮つて従事するのである。質商組合役員其他二三の名譽職に擧られたが、是等の公職に對しても君は立派なる理想を有し、自ら選舉運動を行ふ如き事は斷じてない。如何なる場合にも借金せず、十萬の金を十萬に使ふと云ふ現金主義にして、議員の如きは選舉民の自由意志に依つて選ばれる者であるから、被選者或は局外の第三者から勸誘誘惑して投票を集むべきではないと云ふのが其主張である。君の如きは當世に珍らしい氣骨の士と謂ねばならぬ。(東京市本所區入江町一、電話本所一七九三番)

杉村石炭店主 杉村正道君

君は福島縣岩代國二本松町の士族、文久元年五月を以て生る、十四歳の折兩親に分れ、孤となりて福島市の某材木商に雇はる、凡そ世に悲惨事多しと雖も、幼にして天涯無告の身となるほど悲惨の事はあらざる可し。君刻苦辛酸、具さに人間の苦楚を味ひて勤続多年、二十五歳にして上京し明治二十四年三田東京機械製造會社に入る。三十三年轉じて大倉組に屬し信州、甲州等にける鐵道工事及び横須賀



軍港の掘割工事等に從事して三十七年に及べり。事終へて歸京、居を小石川春日町に卜し、明治四十年四月 喜久多炭坑隅田川主任となりて現住所に移轉せり。喜久多は元と石城探炭株式會社の所有せる礦區を工學士江森盛孝氏が買收して其名を命じたるもの、現在は磐城探炭株式會社の有に歸し居れり。君は同主任とし始めて炭界の人となり、四十年十月別に獨立して石炭業を開始し、以て今日に及べり。君、同業者間の信用厚きのみならず、又地方の公共事業に斡旋して力を吝まず、教育衛生勸業治水等に對しても常に穩健なる所論あるを以て、大に町民に重んぜられ、大正二年五月撰ばれて千住町會議員に就任せり。隅田川は東京に於る常磐炭業者の根據とする一乾坤、その住居生活方面の問題にして研究解決すべきもの甚だ多し。幸に君に依りて將來の地方的利益を増進せば、實に一部炭業者の幸福に止まらざる可き也。(東京南千住町地方橋場二二六四)

鳥居石炭部 鳥居半次郎君



鳥居石炭部は、君及び其二弟磯吉、賢治の三君によつて極めて睦ましく、最も順潮に經營されて居る。父君梅次郎氏は常磐の炭界に古い歴史を有する炭業者で、嘗て隅田川炭礦株式會社社長として敏腕の問え高かつたが、其社所有の宮炭礦が會社から離れて獨立すると共に、自らも社長を罷め、専ら宮炭礦の經營に従つたのである。現に鳥居石炭部は宮炭の販賣部と云ふ

關係で、昨年五月梅次郎氏の逝去後も君等三人は亡父の遺志を繼ぎ、鼎となつて活動しつゝある。君等の商賣振りは一にも確實、二にも確實、徹頭徹尾確實一點張り、店の堅いと云ふのも評判になつて居る。殊に、店内の空氣温かく、上下の意志十分に疏通して居るから、雇人の末に至るまで忠實熱心に働らき、已に十五六年も勤続して居る者すらある。多年の勤続者のあると云ふ事は、其店の親切で、物堅いと云ふ證據で、昔ならば知らず、今時の商店には稀な事である。處に依りては主人と雇人とは裏長屋の寄合世帯の様に、只一所に居ると云ふ丈、チヨツと間違へば追出す方も造作なく、出る方でも左様ならとも云はずに出て行くこと云ふ程であるのに、斯る長年の雇人が居ると云ふ事は、君が店の誇りとして特筆するに足る事である。君本年三十八歳、之から先は只々業務發展を來す一方であらう。(東京南千住町地方橋場二二五一、電話下谷一〇七八番)

岩村石炭商店主 岩村基太郎君



君は愛媛縣北宇和郡吉田町の人、祖先是伊豫吉田の藩士にして、世々武を以つて其名を知られたり。嚴父高厚氏、夫人樂子、共に健在にして郷里にあり。君は明治十四年六月を以て生れ、小學校より中學に進み、後横濱英語學校に入り、卒業。同時に今の山下汽船會社社長山下龜三郎氏の經營せる横濱石炭商會店員となり、其訓薫を受くること數年、専ら石炭の取扱ひに従事せり。明治四十年に至り獨立して商舖の經營に従事し、多年經驗ある石炭販賣業を以つて營業の主

目となす。君は常識に富み、人と交るに誠意を以つてし、他の困厄を見ては必らず應分の援助を與ふるを常とす。又公共事業に對しては夙に人に先んじて一擘の勞を致し、區民の間にも甚だ信用あり。頃者人の區會議員たらんことを勸むるものあるも、一家生活の基礎を確立したる後にあらざれば斷じて社會的舞臺の人とならずと稱して、固く辭退しつゝあり。家庭の圓滿にして、子女の教育を完ふするを以つて現下唯一の樂みとなす。無事なる趣味といふべし(東京市本所區松井町二ノ四、電話本所二〇七九番)

和泉屋石炭商店主 吉田常三郎君



和泉屋と云へば東京の石炭商としても聞えた信用のある店である。君の家は代々の薪炭商で、其方の得意は市の内外にかけて非常に多い、夫等の得意は又多く石炭の需用家であるから、同じ燃料商として薪炭のみに偏るは不利益であると云ふ處から、明治三十九年に石炭を開業した、多くの世人は鑛業家を一口に山師と云ひ、山師とはボロイ金儲をする者の様に辨へて居る。同時に石炭商は馬鹿に儲かる水商賣と思つて居るが何うして中々そんな者ではない。一般に物價が騰貴して勞銀も之に伴ひ、石炭の探掘費は段々嵩まつて來る。自然、問屋からは礦主に高い石炭代を拂はねばならぬのに、得意の方は廉く／＼と小言を云ふ、中に立つ商人は上下から其利益を殺れる處へ持て來て、同業者の競争は益々猛烈になる。遂に自店の客を繋ぐ爲には元價も切れ／＼の取引を餘儀なくされる様になる。而も、利益なくして營業の出來る者ではない。心ならずも斤量や炭質を

誤魔化して、お茶を濁すのが珍らしくないが、君は絶対に斯る不信用な商賣をせぬ。已に薪炭に依つて確かな基礎が出来てゐる上に、代々の得意に對する面目を保つ爲にも、薄利多賣を以て押通して居るのである。此着實堅固な遣り口によつて、君の店は益々盛大となり、君の信用は益々厚くなるのである。其經歷に何等特筆すべき波瀾のないと云ふ其事が、聽て君の大なる特長と謂ふ可きである。(東京市淺草區上平右衛門町、電話下谷一四五七番)

矢崎石炭店主 矢崎万次郎君



讀者は、帝國新報の文藝欄に於て常に『東片僕』なる風流多趣味の能文家に接する事ある可し。東片僕は即ち我が矢崎君にして本郷東片町に住するが故に、取て之を號とせしなり。君は明治二年一月を以て本郷追分町に生る。父君は舊幕の頃本郷御守殿に勤務せるの人、母堂も亦昔氣質にして『人にする子であればこそ雪の簑』なりとて、幼より君を憂世の旅に放ちぬ。明治廿一年三月、君始めて人となりて森川町へ小間物店を開き、繼續七年に及びしも遂に意の如くならず。時恰かも日清戰酣にして軍役夫の募集あるを幸ひ、廿五人長として征臺第二師團即ち乃木軍に従ひ、彼地平定後も尙止りて一事功を樹てんと志せしも、重患を得て空しく歸京したり。超えて三十七年又日露の役あり、君雄心禁せず、陸軍看病人となり旁ら露西亞語の研究に耽りしも、從軍の機會を得ず、茲に初一念を抛ち當時横濱銀行取締役たりし馬場金助氏の紹介により、飯田河岸飯田商店に勤務

するに至れり。是君が石炭界に投せる第一歩なり。同四十年十一月現住所に店舗を開きて今日に至り、別に山手線巢鴨驛前に出張所を置き、共に隆運に向へり。以上の如くして君は系統ある學歴を有せざるも頗る能文にして詞藻豊富、和歌、俳諧、狂歌、都々一等悉とく金玉の佳什を吐かざるはなし。殊に其軟文に至つては流暢達意にして、かいなでの三面記者輩の及ぶ處にあらず。此點に於ては君は恐らく京濱炭界の明星、萬綠叢中の紅一點と謂ふ可し。君『誠實』に非ざれば心神の琴線に觸る能はずとし一首を座右に掲げて曰く、『徒らに心つくしの琴よりも眞ことの音こそまほしけれ』と、聽て是れ君が處世の要諦なりと云ふ。(東京市本郷區東片町一五)

三幸商會主 中垣保君



君は明治六年九月、紀州有田郡烏屋城村に生る。有田郡は有名なる紀州密柑の本場にして、山麓溪畔、時に及べば金鈴の美果累累として綠葉の間に聯なるを見る。又猿猴類しく繁殖し動もすれば人家に近く來り遊ぶ事あり、里俗に傳えて、猿を撃ちし銃口より天を覗けば鮮血滴り落つると云ふ。即ち絶て之を撃たず、偶ま銃を擬して射んとすれば、合掌して哀を乞ふが故に皆菩提心を起して之を容るすを常とす。於是乎無數の豊太閤得々として離落の間を跋扈するのみ。君此地に呱呱の聲を擧げ、美果を食ひ猿猴を友として人となる。宛然古豪傑譚中の一節。君が俊敏山澤の氣は實に其幼時に培はれたるなり。夙に横濱に出で巨商朝田又七氏に寄る。明治二十年三菱が京

濱方面に於ける石炭の販賣を擧げて朝田氏に一任し。三菱賣炭代理店朝田石炭部の設けらるゝに至つて君之が賣炭係となり、炭界を馳驅奔走すること多年、四十年に至つて擢んでられ其主任となり、君居を横濱に卜し、務を東京に執り、兩都の間を縫ふて活動晝夜を頻たす。大正元年十二月、三菱が更に賣炭組織を變更して朝田氏との契約を解き、新たに東京支店を設くるや、君も亦任を辭し、本年三月三幸商會を創め本店を東京將監河岸に、支店を横濱松影町に設けて盛なる石炭業を開始したり。先是君東京に在ては同志と共に第一土曜會を起し、同業組合の創立に際しては之が設置發起人となりて斡旋少なからず、横濱に在ても永く組合評議員として力を盡し、本年五月役員改舉に際し衆望を擔ふて其組長に選舉せられたり。如斯にして君が炭界に於けるの基礎愈々鞏く、延て我實業界に雄飛するの準備殆んど成れるに庶幾し。因に云ふ。三幸商會東京本店には、正田徳二氏あり、君を輔けて専ら店務を視、亦斯界に令名あり。合せて三幸商會の前途に光明あらしむるものと謂ふ可し。(横濱市野毛町四ノ一六六、電話二二九七番甲)

竹内鑛業株式會社
横濱出張所代表者 加藤甚吉君

君は明治四年九月、福島縣比婆郡西城町に生る。家は地方に名ある農家にして父君は村會議員、學務委員等を勤め公共の事に盡力淺からざりき。君は郷里の小學校を出で、某漢學塾に漢書を學び、後、農業を督するの餘暇郡役所、稅務署等に勤務したり。明治三十一年出京、石炭業九二商店の支配人となりて茲に我炭界に於ける初一步を踏出し、同店閉鎖後、竹内明太郎氏が白水炭礦を經營するに當り、



招かれて其販賣係となれり。後、竹内氏が同炭礦の重役を辭するに際し、

君亦其職を退き、明治三十六年二月芳谷炭礦株式會社に入る。芳谷は今の竹内鑛業株式會社の前身にして、主として竹内綱氏の經營に係るもの。君は本社並に横濱出張員として、熱心販賣の衝に當り、今や横濱出張所を代表して多大の信用を博し居れり。性溫和にして謙讓、街はず僞らず、終始一貫估々として職務に全力を傾くる。好箇の實業家なり。君嘗て横濱燃料株式會社監査役たりし事あり。又、竹内鑛業の代表者として横濱石炭組合評議員たる事數年、本年五月役員改選に際して副組長に擧らる。横濱組合の業務近來俄かに發展し、又其内部整頓充實して舊來の面目を一新したるは、中垣氏を始め君等新幹部諸氏の盡力と、事務所長岩田達氏以下事務員諸氏努力の結果に外ならざる可し。殊に同事務員小嶋吾策氏は横濱炭界の活字引にして、組合創立以來の元老、其勵精恪勤は殆んど事務所の大黒柱たる觀あり、吾人は加藤副組長の小傳を記するの機會を利用して、茲に多士濟々たる横濱組合の前途を祝福せんと欲す。(横濱市太田町五ノ八六、電一三三七番)

馬場商店主 馬場寅吉君

横濱炭界の元老と云へば人皆直ちに指を君と大島氏とに屈す。洵に君は廿餘年來の老舗にして、炭界公私の事、擧て其斡旋盡力に依らざることなし。君は淺野總一郎氏の親戚、嘉永五年九月を以て生る。夙に實業に従事し、我國維新の過渡時代を閲して、遭遇する處頗る多端、横濱近古の變遷の如きも、

亦悉く其記憶に鮮かなり。明治廿五年、淺野石炭部横濱支店を置かれ、君之を主宰して以來、引續き石炭業を營なみ、九州北海其他各地の石炭を取扱ふこと最も多量、巨然として同業の第一流に居り、卅七年六月更に馬場石炭店を合せ營なむに至つて、愈々其盛を加へたり。前に同志と圖りて、横濱市瓦斯局副産の瓦斯、トックス販賣權を獨占せんとし、熱心なる運動の結果其目的を遂げ、傍ら各種石炭の販賣を爲す横濱燃料株式會社を起して之が取締役となり、其他市の公共事業に對して諸種の功績少からず。若夫れ横濱組合に至つては、君實に創立發起者の一人にして、大島中村諸氏と力を協せて遂に之を興し、四十二年十二月より本年五月まで副組長の重任にあり。辭任後と雖も尙ほ全く閑地に就く能はず、強て評議員に選舉せらる、以て如何に重望あるかを知るに足るべし。君斯の如く公事に盡して倦ざるも、而も其名の世に現はるゝを厭ひ、偏へに謙抑して陰徳を積むを専らとしつゝあり。炭界の改善發展の如き、亦君の華を捨て實を執る堅實の手段に俟つ者多からん。凡そ此種の事、既往に於て悉く君の力を勞したり。現在尙然り。將來亦然る可し。必らず然らざる可らざるなり。(横濱市瓦斯一ノ三、電話五一〇番)

大島商店主 大島現三君

君は横濱第一の老舗、明治廿一年の創業である。十年を一昔と云ふ計算法から云へば、實に二昔半も前の事で、未だ國會開けず、日本の文明も混沌たる時代であつた。其頃は運輸交通の途も進まず、一般の工業も幼稚で石炭の需要も微々たる者であつたが、流石に横濱は開港場だけに、汽船の出入も頻



繁で、君の如き先見家に、斯業の有望なるを認めしめた次第であらう。君は開業後全力を傾け熱心に石炭の販路を擴張し、海陸兩方面に活動して次第に信用を高め、爾來時勢の張弛に依つて、業務にも浮沈消長のあつたは無論であるか、年を開し日を経るに従つて其基礎を固め、遂に今日の盛況を呈するに至つたのである。明治三十七年日露戰役當時、横濱石炭商有志會を

起し、今日の同業組合を産み出し或は副組長となり或は有力なる幹部として炭界に盡し、又横濱市第三區會議員、第三區商議員として市の事にも力を注いで居る。君は非常な精力家、活動家で、既に成功の域にある今日でさへ、業務の爲には夙起夜寝の有様である。而も、斯る劇務の半面にも若干の餘裕があつて、君は謠曲と圍碁の嗜みが深い。汽罐車の音轟々として横濱驛頭煤煙妖雲の如く匍匐する花咲町のほとり、月明らかなれば朗々たる美聲起り、雨細やかなれば丁々として黑白を争ふ音も漏れる。君が此の油興に依つて翌日の生産を養ひ、其豊富なる經驗と、老熟せる常識とに依つて、益々炭界の爲に盡されん事は、我同業者の熱望する處である。(横濱市花咲町四ノ六〇、電話二四七番)

横濱燃料株式會社 專務取締役 奥村三樹之助君

少壯敏腕の活動家奥村君！君を横濱の阿部吾市と稱する者の言は略ぼ當れり。勿論、君と阿部氏とは其人格性行に於て異なり、其抱負主張に於ても同じからざるものある可しと雖も、寸間をも忽にせざる車輪の活動、事に當つて毫も滯滞せざる果斷決行、利害の判断を即決して謬らざる頭腦の明敏



等甚だ相似の點あり。殊に燃料會社に據りて瓦斯局コークス販賣權を握れるは阿部氏の左に採炭會社を擁し、右に瓦斯コークス會社を提げたと同じく、又阿部氏が各方面の事業に關係ある如く、君は遠く腕を伸して愛知燃料會社を經營しつゝあり。而して能く時代に觸れ、時勢に駕し、文明の利器を用ゆるの機略を有し、辯説あり議論あり、能く人を容れ人を掖くるの點に於て兩者著しく相接近せるを見る。君は愛知縣愛知郡荒子村の産、儒者奥村松齋氏の長男にして、明治八年一月の生、即ち壯齡未だ不惑に達せざるなり。郷里の中學を終りて上京し東京英語學校を経て東京法學院今の中央大學に入る。卒業後實業界に投じ明治三十二年濫澤淺野兩氏の共同經營に係る秋田縣熊澤硫黄鑛山に招かれて庶務主任となり、三十五年轉じて茨城採炭株式會社販賣主任となる。四十一年横濱燃料株式會社の刷新整理を要するに及んで、阿部氏の推薦に依りて更に専務に就任せり。君と阿部氏との關係益々深しと謂ざる可らず。君就任後、燃料會社の業務大に擧り今や毎季一割内外の配當を爲し、動かす可らざる基礎を確立せり。四十三年別に名古屋市に愛知燃料株式會社を創立し、自ら社長として之が經營に任じ、亦洋々たる順境に在り。君斯の如く東西に事業を營む繁忙の身を以て奮つて公事に盡し、横濱同業組合評議員としては殆んど其中堅智囊と稱せらる。思ふに横濱の炭界を背景として將來最も花々しき活動を爲し、最も興味ある戯曲を演ずるは恐らく君なる可く、進んで京濱の同業者を結び、名古屋以東の炭界に、ヨリ大なる舞臺を提供して、ヨリ興味ある演劇を行ふの時は、君必らず主なる俳優の一人たる可し。吾人は讀者と共に、君の前途に刮目するもの也。(横

三井物産株式會社 石炭支部横濱出張員 江原卓爾君



君は岡山縣久米郡佐良山村江原丙三氏の長男、明治十四年六月を以て生る。祖先是美作津山松平藩士にして、君は幼より嚴格なる士的教育を受けたり。東上後早稻田大學の業を卒へ、三井物産に入る。始め其の上海支店詰として赴任し、輸入雜品掛として令名あり、蓋し三井三菱等大會社の海外支店は、公私共に多大の勢力を有し、其會社本來の業務の外、或は領事館、商業會議所の如き事務に當る事あり。即ち支店員は各任所に於て、一種の外交官又は實業練習生として訓練せらるゝを常とす。君亦上海に在りて貿易業の大勢を究め、公私に周旋して十二分に外交的修養を積み、歸來三井物産石炭部横濱出張所主任を命せられたり。横濱は帝都の門戸、輸出入品の集散地にして、石炭部事務の如き場合に依りては東京よりも更に煩雜至難の點あり、而も、君は雜務を截斷する事流るゝが如く、内外百事に應酬して其獨特の手腕を發揮しつゝあり。君又積極の方針を以て處世の理想とし、事に臨んで苟も踏躰逡巡せず。惟へらく、退けば守らざる可らず、進めば必らず取る。取ざれば人生向上の一路なしと。即ち日常の行爲より執務に至る迄總て此方針より打算せられ、旺盛なる精力を以て絶えず活動を試み居れり。大富豪三井の出張員として洵に其人を得たりと謂ふ可く、君の如くにして始めて使命を辱めずと謂ふべし。(横濱市月岡町)

三菱合資會社東京支店
横濱出張所主任 野中熊彦君



本編の記者は君と同縣同郡の出なり。君を傳するに當つて、端なく銀杏城下の風物を偲び、懷舊の情胸に迫るを覺ふ。思ふに金峰の山高く聳え、白川の水清く流るゝ處、君は短袴竹刀を擔ふて學窓に身心を鍛ひ、嚴冬の曉に霜を踏で狡兔を狩り、或は三伏の苦熱に身を躍らして碧潭に河童を驚かしけむ。竹越三又君は嘗て所謂肥後イヅムを罵りたれども、吾人は彼のイヅムを通して、朝暮の思郷的渴仰を充しつゝあるなり。君は熊本縣飽託郡古町村の人、明治十六年八月を以て生る。熊本商業學校を終り上京して高等商業學校に入り、明治四十年七月優等を以て業を卒え、聘せられて三菱合資會社に入れり。同九月長崎支店詰となり數ヶ月にして唐津支店に轉じ、居ること五年、四十五年二月再び長崎支店に榮轉せり。三井の三池に於ると同じく、長崎は三菱の炭業策源地にして、附近に高島の如き我邦最初の炭礦あり、長崎に有名なる三菱造船所あるも亦、遙かに三池との對照を爲す。君、其支店にありて石炭の取扱に任じ、大正元年十二月、三菱東京支店横濱出張所の新設さるゝに及んで、之れが主任として拔擢せられたり。君同會社に入りてより既に約七年、専ら石炭の本場たる九州に在りて斯業の機微を極め、内外需給の關係に就ても大いなる智識を畜ふ。今や、一所に長として晴れの椅子に就き、多年の蘊蓄を傾けて京濱の炭界に之を試みんとす。君として蓋し得意の壇場ならんか。吾人は同郷の誼を以て敢てカイナデの諛辭を呈せず、謹んで君が將來の

御手並を拜見せんとする者なり。(横濱市神奈川青木町二四二)

中村商店主 中村 衆藏君



君は兵庫縣神戸市東出町西組中村彌兵衛氏の二男、明治元年六月を以て生る。五歳にして父を失ひ、十一歳にして母に分れ、世に慘ましき孤兒となる。同市の石炭商岡田又兵衛氏、君が形影相弔ふの不幸に同情して自店に引取り、以て店務を見習はしむ。君幼な心にも主恩を忘れず酷暑嚴寒にも刻苦して精勵九星霜、聽て天ツ晴れ岡田氏の片腕と頼まるゝに至れり。明治二十年岡田商店の業務を擴張して横濱に開昇組なる石炭店を設くるや、君其主任として特派され、經營五年、具さに奮闘を重ねたるも、時利あらずして遂に閉店したるを以て、君も亦身を退き、更に阿部吾市氏の石炭部に入れり。當時、阿部氏は横須賀軍港に石炭部を設けて専ら海軍納めを爲し、別に尾張の半田に支店を有し、武豊鐵道其他同地方に石炭を販賣し居たりき。君阿部氏の信任を受けて半田に赴き、同支店を管する事となり、鐵道用炭を供給するの傍ら、附近の鹽田を説きて石炭の使用を奨励する等、二十九年に至る迄寢食を忘れて奔走したり。三十年秋、更に中央に出て活動せんが爲め横濱に歸來し、現在の吉濱町に山中商店と稱する石炭コークス店及汽船積込業を開店す。阿部氏等が後援となりて君が首途を盛んにしたるは勿論なり。爾來、業務の發展旭日昇天の如く、數年にして横濱第一流の炭商となり、信用日に厚きを致せり。三十七年日露戰役に際し、馬場大島其他の諸氏と共に

に横濱石炭商同志會を組織し、其副會長に擧がる。是實に現今の横濱石炭組合の前身なりとす。又、同市石炭商の新年宴會を行ひ、同業者の親睦を厚ふし、年禮に代ふる須要なる行事の一として今に至れるも、君が發意決行せる處にして、其第一回を催ふに當りては、君單獨にて四五百金を儲したりと云ふ。君亦町内の事業に斡旋する處多く、同町の東光會第三期の會長に擧がる。資性任侠にして、困難に逢ふも屈せず、險苦に遭ふも撓まず、能く然諾を重んずるが故に同業者は勿論、汎く一般の畏敬する處となる。嘗て横濱燃料株式會社の創立に與かりて其取締役となり、現に横濱石炭同業組合評議員たり。(横濱市吉濱町甲一四號、電話一〇〇一番)

樋口石炭商店主 樋口利八君



君は故樋口利吉氏の男明治九年東京深川の生れである。利吉氏は元々知縣渥美郡福石の人、夙に東京に出で石炭商八條商店に雇はれ、精勤無比であつた爲め、大に主人の信用を博し、後、回漕業徳岡商店の援助により深川區松村町に獨立の石炭店を開いた。是が約三十三年前であつた。以來熱心に業務を繼續し明治四十一年黒江町に移轉してよりは益々發展したが、間もなく當主利八氏は相川町に別居し、同じく石炭業を開き父子相併んで、斯界に活動するに至つた。四十二年暮利吉氏の死去に依て黒江町の店を閉づると共に、君は全力を注いで愈々店務を擴張し、目下は高萩中野の兩無煙炭を主として、極めて手擴く販賣して居る。所謂腕一本で叩き上げた父君の業を續

いで其名を辱めず、更に大に家名を發揚せんとする君は、内は祖先に孝に、外は斯業に忠なる者と謂はねばならぬ。(東京市深川區相川町一二、電話本所二一九八番)

山口無煙炭礦合資會社 配人 山口藤三郎君



君は茨城縣猿島郡八俣村の人、舊姓初見、明治八年を以て生る。三十三年度の高等商業學校出身にして、才識あり氣膽あり、夙に同窓先輩に重んぜられたり。三十七年入つて常磐炭界の長老山口嘉三氏の嗣となる。山口氏には長男順三氏ありしも、蒲柳の質にして家業を續ぐ能はず、即ち君が有爲の才腕を見て山口氏の望む處となり、入婿して其長女を室となせしものなり。君山口家の人となりて以來、専ら炭礦方面の經營を引受け、岳父に代りて山口無煙炭礦合資會社の事務を主宰するのみならず、外交一切の衝にも當りて、日夜社務の發展に腐心しつゝあり。彼の共同販賣所設立以來は、採炭全部を擧げて同所に一任しあるを以て、販賣方面の苦心は比較的除去されたるも、其以前は此方面にも奮闘を重ね、殆んど寢食を忘れし事ありと云ふ。君の令弟初見五郎氏は工學士にして目下名古屋遞信管理局技師兼電信課長の職に在り、有名なる書家小野鷲堂氏の令嬢を娶り居れり。(東京市牛込區砂土原町三ノ八、電話番町二一六二番)

淺野石炭部支配人 寺井榮次郎君



浅野石炭部が寺井か、寺井が浅野石炭部か、と云はれる迄に浅野家に古く、忠實に、熱心に勤績して居る君は東京の人。慶應元年三月深川區堀川町の生れである。慶應から明治の始めにかけては江戸は動搖の巷、不安の都、騷擾の街であつた。君は此の慌だしい空氣の中に育つて、失せ行く封建の匂ひ、漲り寄する現代の流れを送迎し、さながら走馬燈の様に變り行く世世相を目睹して人となつた。而して斯る變遷を閲したに付け、君が己れを守る心は愈よ深く且つ堅固となつたのである。始めて浅野石炭部に入つたのは明治十六年、未だ弱冠の頃であつたが、右の如く操守堅固にして正直温厚な質であるから、同僚先輩は素より、浅野氏よりも厚い信任を受け、専心専務三十年、遂に今日の地位を贏ち得るに至つた。現に浅野石炭部を脊負つて立てる外、日之出汽船株式會社、京濱運輸株式會社の重役及び磐城石炭販賣株式會社の社長に擧られ、炭界の先輩として大に尊敬されて居る。又浅野石炭部には販賣部主任として永井喜平氏あり、君を補けて専ら活動の中心となつて居たが、今回磐城石炭販賣株式會社の創立と共に専務取締役となり、双方を兼務するに至つた君と永井氏とは内外共に袂を聯ねて居る譯で、浅野家の爲に双翼兩輪の働らき手であるのみならず、又我炭界に於ける最も重要な役者と謂ふ可きである。(東京市本郷區西片町一〇)

野々山石炭商店主 野々山賢富君

君は愛知縣碧海郡志立町の人野々山賢作氏の二男、慶應元年を以て生る。少にして東京に上り、芝田町



の足袋商大野屋に雇はれ、十五年間精勵無二の雇人として、主家の信用を一身に擔ひたり。時に日清事件起り、豚尾漢撃つ可しの氣全國老幼の間に瀾こり、苟も青春の血燃ゆるもの悉く腕を撫して脾肉の嘆を發せざるなし。君時に壯齡三十、曩日青年の客氣已に收まれりと雖も、鬱勃の霸氣は禁じ難く、たとへ征衣を滿洲の野に晒し能はずとも、能く男性的の事業を營みて豪懷の一端を吐かんと念切なるものあり。遂に主家を辭して京橋越前堀に一戸を構へ、國運隆昌の原動力たる石炭販賣業を開始するに至れり。其後松本重太郎氏の社長たる九州の田川採炭株式會社が、東京に支店を設け、小倉敬止氏其販賣部長となるに及び、君亦同支店に入り。現住所に移轉すると共に盛んに九州炭の販賣を開始せり。爾來十又五年間、石炭販賣に關する君が特殊の手腕は遺憾なく發揮せられて、大口の需用家と契結を結ぶ事甚だ多く、現に是等多數の顧客を獨占して、極めて順潮なる營業を爲しつゝあり、彼の一部の同業者が殆んど手段を撰ばず、徳義の何たるを解せず、僅少なる得意の爭奪に餘念なき間に在りて、君が悠々として迫らす、殆んど競争圏外に超然たる如きは、一般の健羨措ざる處にして、此手腕は實に同業者の間に獨往獨歩の概を示す者と謂ふ可きなり。(東京市日本橋區三代町七、電話浪花二九七五、四二〇七番)

奥山コークス商店主 奥山新吉君

君は奈良縣大和國南葛城郡三室村奥山新八氏の二男、明治八年を以て生る。夙に東京に出で、元の古



河骸炭所製出コークスの特約販賣を開始したる以來、現時に至る迄十年間、専らコークスの特約又は一手販賣を爲し。同種の營業者中第一流の繁榮を來し居れり。古河骸炭所は今の東京瓦斯株式會社砂村骸炭所にして、君は尙引續き其製品を取扱ひつゝあり東京のコークス製造所は龜戸コークス、柳骸炭製造所等主なるものとし大小合せて二十餘個所に及ぶべし、而して

別に東京瓦斯コークス會社の取扱に係る年額十餘萬噸あり、總て各方面の需用に應じ、其狀況甚だ盛んなりと雖も、斯の景況を呈せるは近數年の事にして、従前は其需用と共に生産も亦微々たるものなりき。君は此の原始時代とも稱す可き時よりコークスの販賣を始め、一面には販路の開拓に全力を注ぎたるを以て、漸やく工場主の注意を惹き、尙ほ一面には時勢の要求に依て、業務次第に發展を來し、遂に今日の盛運を捉ふるに至れり、君資性醇撲にして眞摯、猥りに外面を粉飾せず、而も因循固息に非ずして其營業上の手段は常に進取的に出づ。彼の時勢に逆行するも舊態を脱却し得ざる潰々者流とは全然趣を異にせり、君が過去の成功は主として此進行的積極的經營の賜と謂ふ可く、將來も亦必ず然りと謂ざる可らざるなり。子女五人あり家庭極めて圓滿なりと云ふ。(東京市本所區中之郷横川町四五、電話本所一九六七番)

齋藤石炭商店主 齋藤松司君

東京最近の炭界事情を語らんとする者は、悲壯なる奮闘者として君の名を逸してはならぬ。君は新進

氣鋭の炭商として極めて手廣く、敏捷に業務に當り、數十年來の老舗と信託して殆んど遜色なき迄の盛況を呈して居たが、一たび營業上の蹉跌を來して大なる苦痛に逢着せるは近き過去の事である、並大抵の者ならば氣沮み志挫けて、容易に再起の望みは付かぬのだが、君は確乎不拔の勇氣を以て、山が崩れても驚かず、海が覆つても慌てず、泰然自若たるが中にも燃るが如き赤心を披いて彼の難關を切抜け、遂に商勢を盛り返す事が出來た。其働き振りは寧ろ悲壯であつた爲め、却て一般の同情を集めた程である。今や雨降つて地固るの譬の通り、君が地盤も眞個に踏固められて、發展の大道は果しもなく眼前に展開する様になつた。茲に遡つて少しく其の經歷を語れば、君は元ト三井の出身である。明治三十一年から三年頃にかけて、三井石炭部に在て敏腕の聞があつたので、當時の主任藤田誠一氏と共に、大に炭界に活動した。三十三年三井を罷むると共に加藤石炭部に入つたが、間もなく獨立して石炭店を開いたのである。久しく三井に居たと云ふ經歷もあり。殊に素養も才氣も十分であるから、營業は着々として緒に就き、やがて東京でも二流とは下らぬ盛況を呈するに至つた。然るに、好事魔多し。近年不慮の一頓挫を來したが、無事に其障害を突破して、又曩日の盛況に進みつゝある。君未だ不惑を越した計りの働き盛りであるから、今後は一層の順況に向ふ事であらう。(東京市京橋區大川端稻荷河岸三、電話京橋二九八番)

杉山石炭店主 杉山辰君

『終始一貫』の一語、吾人は君に於て始めて意義あり、實際に活現せるを見る、君は實に茨城無煙炭と



終始一貫する者にして、多くの炭商中、君の如く唯一の石炭と終始し、其販路の開拓を唯一の生命とするは稀なる可し。君常に曰く、予は茨城無煙炭礦に入りて始めて炭界の人となり、同炭の取扱を爲して一人前の炭業者となりたる者なれば、同炭の販賣を以て營業の全部となし、同炭の販路擴張に全力を注ぐこと當然なりと、洵とに理義明白、推して其性格の一斑をも窺ふ可きに非ずや。君は水戸の人、杉山清明氏の三男。明治四年を以て生る。其茨城無煙炭礦株式會社に入りたるは明治三十一年にして、本社に在る事二年、三十三年十月同隅田川派出所主任となり、爾後勤続七年、同會社の隅田川に於ける集散其他の事務一切を司どりて功勞少なからざりき。三十九年始めて獨立して現住に石炭業を開始し、九茨無煙炭の特約販賣を營なみ以て今日に至れり。君業餘の一閑事として四十三年頃より寫眞術の研究を始め、現在に於ては技術練達、優に所謂黒人の墨を摩せり。又文學の嗜みあり詞想豊かにして、雅號を鳶雨と呼び、和歌俳諧の玉什少なからずと云ふ。(東京南千住地方橋邊一三七三、電話下谷二五八五番)

遠藤石炭店主 遠藤悦藏君

君は岡山縣の人、慶應三年六月を以て生る。幼より倜儻不屈の氣あり。赤裸孤拳にして東京に出で、苦學又苦闘す。十七歳の時陸軍教導團に入り、軍隊生活を營むこと八年間。任終へて一たび郷里に歸り、重ねて上京して私かに風雲を窺ふ。日清役後、我國の工業俄かに興り、之が原動力たる石炭の景



氣活躍するや、君が食指動いて止まず。乃ち二十九年を以て石炭業を開始し、八面奔走、大に利益を得たり。於茲乎發奮一番、更に業務の基礎を固ふし、營業の方針を確立し、誠實と勉強とを一對の標榜として四方に活動し、次第に信用を博するに至れり。三十九年又別に陸軍御用測量機械全部及び望遠鏡の輸入販賣を創め、石炭業と合せて愈よ業務の擴張を圖れり。

今や、君は炭界に動かす可らざる位置を築きたると共に、陸軍御用商人としての勢力大に重きを爲し、押も押れもせぬ實業家として、其將來を期待されつゝあり。所謂脛一本にして、巨萬の富を積み、赤手を揮つて地位勢力を開拓せる者少なからずと雖も、多くは投機的成功若くは不意の幸運に僥倖したる者のみ、然も君は何等斯の如き僥倖なく、徐ろに堅固に、全く腕と力とを以て今日の盛況を生み出せり、此點に於ては正に秩序ある健闘者として特筆するの價值十分なる可し。(東京市本所區林町二ノ一八、電話本所二六二七番)

柳骸炭製造所主 柳啓三郎君

君は埼玉縣大里郡藤澤村の人、弘化元年二月を以て生る。二十二歳の折上京、親戚山村親兵衛氏の養子となれり。山村氏は三井吳服店員にして勢力あり、君は其所縁によりて三井に入り、同店を代表して主として陸軍省の御用を勤めたり。精勤七年、上下甚だ令名ありしが、不幸にして埼玉の實家に後嗣死去し、家系斷絶せんとするより、君は其長女に佳婿を迎へて山村家を續がしめ、自ら隱居して柳



の需用必らず盛んなる可きを豫知し、翌十五年本郷龍岡町にコークス製造場を設けて、コークスの製造を創めたり、是東京に於ける同製造場の鼻祖にして、君と古川氏の名は我コークス史上に特筆大書せらる可きものなり。二十四年、岩崎家よりの懇請を容れて同工場を現在の三輪町に移し、益々業務を擴張して今日に及び。先是、明治三十五地君等發起となりて磐城石城郡旅人村黒田炭礦を採掘販賣す可き黒田炭礦株式會社を創立したる事あり、其他二三炭礦との關係ありしを以て、君が名は常磐炭業者の間に重きを致せり、君現に八州銀行監査役に擧られ、甚だ重望あり。君の如き所謂功なり名遂げたる者と謂ふべし。因に云ふ、君が業務は昨今令息信次郎氏が繼續經營し、君は老來相談役の地位に在りと云ふ。(東京市神田區三崎町三ノ一、電話本局一九六三番)

横瀨燃料株式會社
取締役社長 織戸瀧之丞君

君は安政五年和歌山縣に生る、家は世々庄屋を勤めた郷里の名門で、令兄は現に村長として村治の爲に力を注いで居る。君は獨立心の強い少年であつたが、小學卒業後單身大阪に出で某羅紗店の小僧に住



込んだ。其店は可なり盛大で神戸に貿易部をも有して居たが、君の才氣凡を抜いて居るのを見込んで、間もなく神戸へ廻し貿易事務を見習はせる事になつた。之は儘かに君に取ての發展に相違なかつたが、年月と共に功名心の旺盛となつた君は、静として居られない。明治十七年滿々たる希望を抱いて上京した。處が東京と云つて大道に金が落てる譯でもなく、大臣の椅子がボカンとして空で居る筈もない。君は始めて憂世と云ふ事を知つて失望したが、夫も一時、聽て計畫を變へて横濱へ乗込んだ。勿論東京から徒歩であつたが横濱へ着た時は懷中僅かに六錢を剩すに過ぎなかつたと云ふ。茲に君は大勇猛心を起して飢渴に打勝ち、慘憺たる苦心の才覺で古着の露店を出し、寒風熱砂を浴びて機會を窺ふ内に、知己も出来る。處世の見當も付く、些かの貯へも出來て次第に一人前となり、遂に成田火災保險會社の代理店を引受けて世の中へ顔を出す様になつた。其社の重役中に白井遠平氏のあつたのは、君に對する伯樂とも云ふ可く、聽て君は千里の駿たるを認められて、好問炭の横濱一手販賣を營むに至つた。是抑も君と炭界との第一機縁である。此頃から君が識見技能は愈よ人に認められ、明治四十一年には衆望を擔ふて横濱石炭同業組合長に擧られ、之と前後して横瀨燃料株式會社の取締役社長となつたのである。曩日の一露店商人が此の榮達を見たるは誠に異數と云ふ可く、君も亦今昔の感に堪へなかつたらう。組合長としては爾後引續き五年間勤續し炭界の爲に功勞多大であつたが、昨年十二月一身上の都合に依り職を辭するに當り組合は金盃感謝狀を贈つて多年の功に酬いた。君亦菅波角之助氏等と圖りて櫻無煙炭礦株式會社を起し、其重役に擧ら

れて居る。(横濱市相生町六ノ九〇、電話七七二番)

村山商店主 村山捨吉君

君は一面に石炭、回漕、人夫請負業を營みて同業者間に大なる信望を有すると共に、一面には南洋貿易株式會社専務取締役として大に圖南の鵬翼を張りつゝあり。君は安政六年五月の生れ、夙に回漕の業に従ひて海洋的性格を養ひ、或は石炭、人夫請負等積極的商業を喜び、氣魄雄大なるものあり、徒らに國內に躊躇して、區々たる輸贏を同胞の間に争ひ、骨肉互に相食むが如き陋態を演ずるよりは、進んで無盡の富源を拓かんと志し日清戰役前後より、自己の有に係るスクーネル型帆船二隻を以て南洋貿易を開始し、雜貨其他の日本品を滿載して南洋未開の群島に赴き、土人居留民の間に賣却して奇利を博し、歸航には更に鼈甲を始め種々の熱帶特産品を齎し歸り、以て貿易商業の基礎を築き上げた。爾來此事業着々と成功し、最近に至りては南洋各地に十ヶ所に近き支店、出張店を有するに至りしより、益々其根柢を固ふする爲め四十四年、組織を改めて南洋貿易株式會社となし、自ら専務として社務を總理する事となりたり。石炭方面に於ても君の業務は頗る優勢にして、多年の經歷より生みたる信用勢力は牢として抜く可らざるものあり。組合其他の公事に就ても君を要する事多く、君亦繁務を割いて奮つて斡旋を辭せず、久しく組合評議員として重視され居れり。日本人の南洋發展は由來記者の理想にして、聽て我同胞の使命なりと信じ、既に此主張を披きたるも一再に止らざりしが、今横濱の炭界より君の如き實行家、成功者を待たるは眞に雀躍に堪へず。炭界の人としての君と共に圖

南の人としての君を傳へ得たるは、吾人の最も光榮とする處なり。(横濱市松影町三ノ一二、電話六四三番)

山下汽船合名會社 横濱出張所主任 折田新五郎君



山下汽船合名會社即ち元の横濱石炭商會横濱出張所主任として、同地の炭界に一巨城を築くものは折田君である。君が今春横濱に轉任前は、同會社の門司支店に在つて敏腕の名を恣にし、生れると直ぐから石炭の中に轉がつて、腹の底まで煤けて居る九州の石炭屋すら、君の前には兜を脱ぐ程であつたと云ふ。洵に其も道理であらうか、君は學校を出ると直ぐに石炭業

に従事し、東洋に於ける集散の本場、香港上海方面で永く九州炭の販賣を營んだのである。香港、上海、新嘉坡は本邦炭の輸出先として、我炭界と密接の關係を有する計りでなく、世界の同業者からも注目する、三大市場で、此各地に於ける貯炭の増減或は石炭の動き工合が、我邦の市價に影響を與へるのは少々でない、君は其樞要な地に在て實際の取引に當り、能く内外の情勢を暗んじて居るから、君が營業上の打算是區々一局部に立脚せず、殆ど世界的である。石炭の善惡計りを知て居ても、此の智識と打算を有せぬ者が君の後へに瞳若たるは、當然と云はねばならぬ。山下汽船が君を招いて、お膝元たる横濱出張所の經營を一任したのは、實に右の特長あるが故で、延ては同會社が横濱の炭界に處せんとする抱負の如何をも窺ふ事が出来る。果して君が就任以來、出張所の内外には新しい空氣、潑瀾たる空氣が充滿して居る。君が向後の施爲は、必らず此空氣の中から生れ、又此空氣を透して四

方に波動するであらうと思ふ。君は鹿兒島の人、明治六年の生れにして、有名なる造士館出身の秀才である。(横濱市駿河町二ノ七、横濱石炭商會内電話七三一番)

マーテン商會 石炭部主任 石川新次郎君



マーテン商會と云へば直ぐに佐藤赤次郎氏と君とが聯想された。佐藤氏は君の令兄、共にマーテンの石炭部を代表して兩人一體となつて活動したものである。君は横濱の生れ(十年)マーテン商會が色々な商賣の科目中に、石炭の一课を加へた頃から兄弟共に同商會に入り熱心誠意に業に當つて、既に二十年にもなる。此間、佐藤氏が外に折衝の役に當れば、君は内に於て、韓幄に參する。君が表に立てば佐藤氏は裏に控へる、と云ふ風に、陰陽形影を爲して働らいた。爲に、炭界に於けるマーテンの名重きを致し。同時に君等兄弟の名も甚だ重んぜられたのである。否寧ろマーテンの石炭部は君等に依て存在したと云ふのが至當であつた。不幸にして本年夏、佐藤氏病を獲て不歸の客となつてから、マーテンの舞臺は君一人の肩に載つて來た。過去二十年來、二人の家とし、城とし、働き場所として居た此舞臺が、君一人の重荷となつた時、君の心は如何に悲しかつたらう、如何に淋しかつたらう。併し悲しさを感ずるに付け、君は又其責任の倍加されたのを覺つた。是からは外に在つても、内に在つても、或は順況にも逆況にも自分は二人分の務を果さねばならぬと感じた時、君は猛然として發奮せざるを得なかつた。即ち現在に於ては君は常に二重の責任を擔ふて

炭界に立働らいて居るのである。果然、其悲壯な勇ましい働き振りは、頗る好結果を以て現はれ、君が手腕と信用とは一層鮮明に炭界の目に映する様になつた。此調子を引立て、撓む處がなかつたら、愈よ君の名を大にし實を收むるのみならず、地下の佐藤氏の靈を慰めて餘りある事であらうと思ふ。

(横濱市北方上野町、電話三三三八番)

横濱燃料株式會社 取締役 飯岡啓藏君



石炭商としての君は、薪炭商としての君ほどに大でない。けれども、合せて燃料界の一人としては、君に燦然たる異彩を認めぬ譯に行かぬ。普通の薪炭商が、足で商賣をし、手で商賣をし、目の子算用で商賣をして居る中に、君は頭で商賣をし、胸で商賣をし、帳簿で商賣をする方である。斯く云へば君は單に理想家であり、御大名風であり、疊水練である様にも聞えるが、何うして決して然うではない、君は精力家、活動家、實行家である。只普通商人の手と足とに代るに頭と胸とを用ふると云ふのは、才と識とを以て商機商略を打算すると云ふ事である。手先足先計りの淺薄な商賣を行らず、深く根柢ある營業をすると云ふ事である。一口に云へば君のやり口は文明的である、紳士的であるのだ、夫でなくて何うして現在の盛況を産み出す事が出來やう、何うして燃料會社の重役として異彩を放つ事が出來やう。之は素より自個營業上の行き方のみではない、總ての事業に就ても少しも變らぬ。頭と胸とを不斷に使つて、上品な進歩した經營をする點に、君の特長

と成功の素質とが含んで居る。現に、君の營業の八九分は薪炭で、残りの一二部が石炭であるに係らず、炭界の公私に必らず其存在を認めしめて居るのに徴しても、君の手腕を知る事が出来やう。自己の存在を認めしむるは既に一種の成功である。少なくとも成功に近き關門である。此關門を突破するは、天稟の豊なる君に取ては難事であるまい。殊に年齢不惑を過る幾干もならず、尙ほ甚だ壯なるに於てをや、記者は君の將來に期待し、其輪廓のヨリ鮮明に、ヨリ大ならん事を望む者である。(横濱市柳町四、電話一四八番)

伊藤商店主 伊藤 勇一 君



店舗を横濱に有し、自ら蒲田に卜居して、朝夕清澄の空氣を呼吸し、浩然の氣を養ふて、晝間の活動力を養ひ居れるを伊藤君なりとす。君は久しく東京に在り、京橋八丁堀の親戚某氏の薪炭業を助け居りしが、去三十七年頃より横濱に轉じ、松影町に一商店を開き令兄と共に同じく薪炭業を創めたり。然るに茨城無煙炭或はコークス等 所謂無煙無臭の經濟燃料漸やく世の需用を喚起し來り、薪炭の顧客にして石炭を併用するもの増加せるより、君亦石炭業を兼營し、熱心業務に精勵したり。而も、運命は容易に君に幸せず、多年の努力も酬いらるゝ處少なくて、大に氣を吐くに至らざりしが、後、現住の萬代町に移轉するに及んで業務頓に揚り、殊に、一昨年頃より石炭業に急激の發展を來し、今や青年活動家、敏腕家として同業者一般の注意を惹くに至れり。君の

取扱に係る各種石炭の中清田宇佐美の兩無煙炭は販路最も多き由なるも、尙現狀に満足せず、新方面の開拓に日も維れ足らずと云ふ。君や春秋尙ほ遙かなり、今日の勢を以て將來を推せば、炭界の成功亦疑ふ可からざらむ。幸に努力奮闘を祈る。(横濱市萬代町三ノ四五、電話一四七八番)

神に似し人なればその胸に湧く智慧の力も神に似る
めり
ものゝ起り榮ゆるも將た衰ふることあるもみな人に
よりけり
偉なる自然の健を神祕なる謎の扉をにぎる拳よ
小さき手の力なれども黒いしを掘りもて行きつ世を
ば進むる
黒いしを掘りもて行きて火にやきて鐵をや鑄らむは
がれをや煮む

—霜月中旬、校正を終へし朝、練—

京炭界一百人終

東京
横濱

石炭同業組合

役員(事務)
組合員

一覽

東京 石炭同業組合 役員(事務)一覽

東京石炭同業組合

一、事務所の位置

東京市京橋區五郎兵衛町二十二番地(電話京橋一八一〇番)

一、役員

- | | | | |
|-----|-----------|-------------|--|
| 組長 | 阿部 香市 | 英城無煙炭共同販賣所 | |
| 副組長 | 合資會社加藤石炭部 | 三菱合資會社東京支店 | |
| 評議員 | 三井物産株式會社 | 磐城炭礦株式會社 | |
| | 石狩石炭株式會社 | 英城無煙炭礦株式會社 | |
| | 入山探炭株式會社 | 淺野石炭部 | |
| | 奔別炭礦株式會社 | 松本三郎 | |
| | 山下汽船合名會社 | 田三郎 | |
| | 加納惠太郎 | 西主 | |
| | | 北海道炭礦汽船株式會社 | |
| | | 古河合名會社 | |
| | | 竹内礦業株式會社 | |
| | | 杉浦重吉 | |

一、事務員

- 組合事務囑託 山野好恭
事務員 津田眞之助 田中敬三

一、組 合 員

▲麴町區

有樂町一ノ一 三菱合資會社東京支店 八重洲町一ノ一 古河合名會社營業部 內幸町一ノ三
飯田河岸二二 柳澤 松藏 飯田河岸一三 柳田雷次郎 有樂町一ノ四
飯田町二ノ三一 山梨康太郎 飯田町五ノ二一 松本三郎飯田町支店 三年町二
井田爲義

▲神田區

續倉河岸一三 合資會社加藤石炭部 松住町一〇 岡野榮吉 三崎町三ノ一
松住町一〇 合資會社山本商店 錦町三ノ一六 藏下由太郎 岩井河岸一四
三崎町河岸一三 月塚 忠 六 四小川町二ノ五 三好正勝 美土代町一ノ一
佐久間町三ノ三七 草野庄吉 三崎町三ノ一 中村豐平 今川小路一ノ一
柳信次郎
山野好恭
山田龜壽
合資會社江戶商會石炭部

▲日本橋區

駿河町一 三井物産株式會社 本革屋町五 北海道炭礦汽船株式會社 藥研堀町一七 入山探炭株式會社
伊勢町二 奔別炭礦株式會社 北島町一ノ三七 山下汽船合名會社 北新堀町一八 淺野石炭部
蠣殼町二ノ一 豐島德太郎 北新堀町一八 淺野泰治郎 三代町七 野々山賢富
通三ノ五 長岡源藏 濱町二ノ一一 高橋澄亮 濱町三ノ一 五百住 義太郎
濱町三ノ一 吉岡トク 龜島町二ノ三七 香島助三郎 川瀬石町一八 西澤芳三

▲京橋區

湊河岸二〇 磐城炭礦株式會社 明石町一一 茨城無煙炭礦株式會社 明石町三一 竹內鐵業株式會社

合資會社

明石町一一 茨城無煙炭共同販賣所 北紺屋町二四 王城炭礦株式會社 富島町四 日本煉炭株式會社
船松町四 大倉石炭販賣所 銀座四ノ六 秋葉商店石炭部 南小田原町二ノ八、地先三二 合資會社清田商店
南新堀町二ノ四 阿部 香市 明石町明石河岸三 松本三郎 南新堀一ノ三 好問炭礦株式會社
明石町一一 茨城探炭株式會社 南小田原町二ノ八 清田炭礦株式會社 南新堀三ノ五 東京瓦斯コークス株式會社
川口町九 合資會社越賀商店 本八丁堀三ノ一 中野喜三郎 大川端稻荷河岸三 齋藤 松司
南八丁堀二ノ八 白水元治郎 越前堀一ノ一〇 笹尾文次 入船町五ノ一 內藤 銀藏
新港町四ノ一 中村平八 本湊河岸四 井手松藏 新榮町五ノ一 岡谷清吉
金六町九 福島鴻三 本八丁堀三ノ三 淺沼安太郎 築地二ノ三〇 小山定次郎
入舟町三ノ一 山崎藤太郎 越前堀二ノ一 江坂鐘太郎 築地一ノ二四 小西玉吉
本八丁堀一ノ二 池田由藏 船松町一 合資會社飯田石炭部 本八丁堀五丁目 北櫻河岸五四坂本孫四郎
本湊町河岸一 川喜田 實之助 川口町二二 柳田 司馬太郎 川口町三一 眞鍋萬右衛門
四日市町一三 高間 惣七 越前堀一ノ一〇 伊藤和太郎 新富河岸一五 齋田 迪
木挽町二ノ一三 加藤伊兵衛 大川端七 加藤孝次郎 東湊町一丁目將監河岸 三幸商會
船松町一 尖 戶 繁 南新堀町二ノ一一 木村清五郎 三十間堀三ノ一五 西村亮藏

▲芝 區

芝湊町一 杉浦重吉 琴平町一 加藤恒次郎 濱松町四ノ六 長崎伊之助
新堀町四一 鈴木誠一 金杉新濱町一 進藤久哲 新門前町一三 坂本中治
高輪南町六六 舛田定次 三田四國町二ノ四 丸山平吉 新堀町四一 池田佐平
土手跡町三 平岡祐之助 新堀町一 伊東常三郎 松本町四五 荒木鐵治郎

源助町八
西久保巴町四一
齋藤兵吾 金杉川口町二四
坂野友七
古山吉郎 新堀川岸四二
山口春吉

飯倉町五ノ五〇
山口健治郎 網代町二三
永田徳三郎 宮村町二二
卯月寅藏

青山商町六ノ三九
小島彦太郎
赤坂區

南伊賀町一八
渡邊小太郎
四谷區

神樂町一ノ一三
市原與四郎
牛込區

大塚辻町二
市兵衛河岸一〇
小石川區
田中藤治 白山前町八
西田幸次郎 音羽町一ノ二〇
小野秀一 月崎町八一
坪田新之助
(内田商會號)長谷川潔

駒込東片町一五
本郷區
矢崎万次郎

御徒町一ノ四
金山下町六四
下谷區
秋山義次 二長町三
石垣甲子造 三輪町八一
大熊岩吉 三輪町一八
長田慶太郎
上鈴木岸松

向柳原町一ノ三九
玉姫町一ノ二一
西島越町三
淺草區
古屋庚次郎 茅町一ノ一
宮山三次郎 駒形町一五
田村信治 上平右衛門町一
相島信夫 西島越町二
内田允 金龍山瓦町二五
吉田常三郎 橋場町二六五
中村玉五郎
川來虎之助
小林安太郎

入江町一一
松井町一ノ三五
柳原町一ノ五九
向島小梅町二八六
柳原町三ノ一七
横綱町一ノ一九
入江町二二
本所區
大澤朝吉 林町二ノ一八
岩村基太郎 長崎町二七、八
柳松太郎 茅場町一ノ八
伊藤富松 徳右衛門町七
宮田徳次郎 錦糸町二九六
石田定治 清水町一八
君塚彦太郎 新小梅町三
遠藤悦藏 松井町二ノ四
岡本吉次 林町三ノ三
上野卯之助 向島中之郷町二
鷹屋商店 小泉町三五
田野省三 中之郷横川町九六
長澤政藏 茅場町二ノ六
山田昌一
松谷長之助
久保正太郎
清水誠志朗
萩原安五郎
奥山新吉
坂野繁太郎

西元町一
相川町一二
東大工町三八
東六間堀町六
本村町一六二
深川區
神田兼太郎 猿江町一六
樋口利八 西町三四
松本信二 西大工町四三
渡邊金彌 西大工町二六
富山市太郎
山本元太郎 中島町一三
栗幅高市 八名川町三八
鈴木豐次 西大工町三
疋田彌七 本村町五六
橋本光藏
合名會社宮村商店
清滋樹
杉浦商店深川出張所

▲北豊島郡
南千住字地方橋場三三 磐城探炭株式會社
南千住地方橋場三三八 三星炭礦株式會社
南千住地方橋場三三〇 山口無煙炭礦合資會社
南千住地方橋場三三三 高田炭礦隔田川賣炭所
南千住地方橋場三三〇 秋山炭礦
南千住地方橋場三三三 高萩炭礦隔田川出張所

南千住地方橋場二二六四 山崎幸之助 南千住地方橋場 一三六四 福田伊重郎 南千住地方橋場二二五一 石井留藏
 南千住地方橋場一八七 林竹次郎 南千住地方橋場二二九五 徳岡祐三郎 南千住地方橋場一三〇八 福島市松
 南千住地方橋場二二七三 杉山 辰 南千住地方橋場二二五一 米田松次郎 南千住地方橋場二二六四 細川貞太郎
 南千住地方橋場二二六四ノ四古橋榮太郎 南千住地方橋場二二六四 山村基祐 南千住地方橋場二二六四 佐藤淺吉
 南千住地方橋場二二六四 籠島辰五郎 南千住地方橋場二二五一 加納惠太郎 南千住地方橋場二三五 林 捨雄
 南千住地方橋場二二六四 杉村正道 南千住地方橋場二二六四 森佐太郎 南千住地方橋場一三二四 増戸秀男
 南千住地方橋場一三二四 小川善助 南千住地方橋場二二六四 中野清藏 南千住地方橋場二二五一 鳥居半次郎
 南千住地方橋場一三〇二 平田清次郎 王子大字豊島三三五 萩島龜吉 王子町五三九 宇田川甚藏
 王子町五二八 松本三郎王子支店 瀧野川村大字瀧野川三三五 岡田末三 雜司ヶ谷池袋驛前 柳田庄五郎
 高田村字金久保澤一八一 宇田川政吉 巢鴨村字池袋八三三 後藤權次郎 巢鴨町字巢鴨一六八 白鳥惣治
 高田村一七二一 澤田末吉 南千住地方橋場二二六四 伊藤増吉 巢鴨町二ノ七 白水建一郎
 南千住地方橋場一三〇二 伊藤松藏 南千住地方橋場一三二四 松岡秀彌 南千住地方橋場二二六四 吉田彦藏
 南千住地方橋場二二九三 松澤宇太郎 南千住地方橋場三三三聯合資會社隔田川支店 南千住地方橋場二二六四 吉川林藏
 南千住地方橋場一三〇六 染谷長次郎 王子町大字王子五三九 春山茂市郎

▲豊多摩郡

淀橋町字角答六〇三 西 主 一 淀橋町字角答一 宇田川寅吉 淀橋町字角答一四 深野長兵衛
 淀橋町字角答一 市島龜三郎 淀橋町字角答一 中島庄次郎 淀橋町字角答一 日向米藏
 淀橋町字角答一 宗田和吉 淀橋町字角答八二六 田邊鐵太郎 淀橋町字角答一 成田字吉
 中瀬谷一六四 萩原安五郎 瀬谷町中瀬谷二〇四 宮永元次郎 瀬谷町下瀬谷一五三三 木村榮造

飯田吉太郎 瀬谷町字中瀬谷一五九 山崎 浪 三 淀橋町字角答一 松本三郎新宿支店
 自宅麻布區弁町七九

▲荏原郡

品川町字南品川三〇七 中田虎一郎 品川町字南品川宿三 平野米吉 品川町本宿一八 杉浦商店品川出張所

▲南足立郡

千住町三ノ一八 岩田英男

▲南葛飾郡

寺崎村二五五 宇佐美友太郎

▲南多摩郡

八王子町字旭町三二 宮崎安兵衛

横濱石炭同業組合

一、事務所の位置

横濱市壽町一丁目二十番地(電話一六五番)
出張所 神奈川綿花町(電話一〇九番) 同 子安町

一、役員

組二長 中 垣 保
副組長 加藤 甚 吉(竹内)
評議員 馬場 寅 吉 津田 弘 視(三井)
窪田 四 郎(北海) 菅 禮之助(古河)
辰澤 延次郎 寺井 榮次郎(淺野)
奥村 三樹之助(横濱燃料) 山上 龜三郎 石谷 信藏
村山 捨 吉 大島 現三 星野 元五郎
穂 菊 永 藏 中村 衆藏

一、事務員

事務所長 岩 田 達 志村 豁 司 吉武 新一
事務員 小 嶋 吾 策 (子安事務所) 糸久末次郎
(神奈川事務所) 石井 與一

一、組合員

山下町一七七 三井物産株式会社 本町四ノ五六 三菱出張所野中熊彦 相生町六ノ九〇 織戸瀧之丞
壽町一ノ三 馬場 寅 吉 花咲町四ノ五九 大島商店大島現三 港町三ノ一七 星野回漕店星野元五郎
太田町五ノ八六 竹内鐵業株式 加藤甚吉 北仲通一ノ一四 尾崎 房太郎 吉濱町甲一四 中村 衆藏
瀬影町三ノ一二二 村山回漕店村山捨吉 駿河町二ノ七 横濱石炭商會山下龜三郎 相生町六ノ九九 合資會社田野駒井組
松影町一ノ五 三 幸 商會 野毛町四ノ一六六 中 垣 保 山下町二五〇 荒井商店山田直治郎
山下町二一 新井 龜五郎 山下町一〇七 マーティン商會マーティン 山下町一〇七 石川 新次郎
元町二ノ一〇〇 田邊屋穂菊永三 元町四ノ一五四 久 我 清 藏 元町四ノ一七六 三田屋渡邊伊八
元町五ノ一八六 鈴村 誠山本繁次郎 吉濱町甲一四 長 澤 兼 吉 萬代町三ノ四〇 伊 藤 勇 一
三吉町一ノ一二 吉田商店吉田石松 扇町五ノ一〇五 渡邊商店渡邊寅吉 宮川町一ノ九 川喜田屋水谷彌七
日ノ出町一ノ七 増田商店増田操 末吉町二ノ二四 田中屋田中千太 扇町二ノ七三 山口回漕店山口松五郎
不老町一ノ一〇〇 田中 彌兵衛 長者町五ノ五三 福田屋、福田安造 雲井町一ノ四 福井屋福井己之助
神奈川宮洲町三五九六 荒 井 幸 吉 子安町三三六八 林 豊 吉 石川仲町四ノ七八 横山 喜三郎
石川仲町三ノ三 富士屋商會龜井甲子太 海岸通五ノ二〇 内 海 清 吉 石川仲町三ノ六二 市村 兼 吉
吉岡町二ノ一〇 武藏屋齋藤安五郎 花咲町六ノ八一 高田商店高田善太郎 福島町一 淺海 タツ
花咲町七ノ八四 稻葉屋稻葉福藏 野毛町一ノ三四 水島商店水島慶藏 花咲町一ノ一一 清水屋大村平藏
福島町一 金澤屋四方淺次郎 翁町一ノ六 平川 新右衛門 元町四ノ一六五 本園 茂太郎
足曳町二ノ一四 鈴木屋神谷幾造 根岸町三二一七 小 嶋 吾 策 蓬萊町二ノ一一 小林商店小林九藏
子安町新宿三二五〇 熊澤 辰次郎 松影町五ノ一四〇 磯野 澄 義 翁町二ノ三五 陸山 清 義

平沼町一ノ四 寺澤初太郎 野毛町一ノ一〇 北林 又藏 神奈川仲之町一六 高橋輝太郎
 神奈川町八八〇 藤井清吉 岡野町一五 根本松五郎 石川仲町二ノ四二 野州屋落合辰五郎
 福島町一 疋田商店川俣寅三郎 柳町四 清水屋飯岡啓藏 花咲町七ノ八四 武藏屋小室豐藏
 羽衣町二ノ四六 伊藤商店伊藤貞胤 神奈川町一三四 飯田福太郎 三吉町一ノ二 石渡傳藏
 神奈川町三八 和泉屋中岡米三郎 末吉町二ノ二五 越後屋加藤富五郎 福富町三ノ八四 合資會社日用商店
 子安町三五五〇 吉岡 幸助 山下町八一 川島傳助 平沼町三ノ三四 代表者 鈴木佐兵衛
 福島町三 秋山ヨシ 駿河町三ノ七 坂野石炭部出張所岩田倉太 末吉町二ノ二四 星野商店星野小源治
 石川町六ノ二六 高木兼次郎 長島町六ノ三〇 中瀬耕次郎 住吉町五ノ七三 尾張屋尾崎榮助
 港町二ノ一五 中田屋山本吉兵衛 尾上町一ノ一 鶴飼雪三郎 宮川町三ノ四一 朝日屋笠間數枝
 野毛町三ノ一三二 飯田屋中野梅太郎 港町五ノ二七 福村サツ 壽町一ノ七 相模屋渡邊善五郎
 神奈川下反町五六八 梅澤庄兵衛 山吹町二ノ四 植竹好之輔 姿見町二ノ六八 田邊屋田邊朔二
 羽衣町一ノ七 内山商店富田定吉 北方町六七五 阿部軍三郎 萬代町二ノ三五 長岡屋柿崎猪之松
 福島町三 横濱燃料株式會社代表者 奥村三樹之助 黃金町四ノ一七 山崎屋山崎榮十郎 元町三ノ一四五 大河原大河原芳五郎
 日ノ出町二ノ三三 富士見屋柏倉龜吉 壽町一ノ一七 吉田屋吉田留吉 吉濱町一五 藤井武三郎
 山下町八九 吉田兼三郎 石川仲町四ノ七三 穗刈辨次 中村町一五二五 高橋春吉
 末吉町一ノ一二 野本己之吉 松影町一ノ二〇 山口和真 壽町四ノ一四九 川出巳之助
 石川仲町三ノ六 駿河屋鈴木憲八 山下町一〇八 ダブリーシエールハム商會 平沼町二ノ二二 安田増藏
 平沼町三ノ三五 山村長吉 吉濱町一 加藤 造 天沼町二 京田登代二郎
 足曳町二ノ一七 小林 龍 尾上町三ノ二七 古田商會古田興會三郎 中村町一四五九 千住商會出張所奥野寛治

南吉田町七七八 アイテ商會石井長勝 青木町四四三 小林竹治郎 于安町三〇三六 湖上政吉
 花咲町七ノ八四 伊藤專之助 青木町二九二 藤井太七 海岸通三丁目辰澤同濟店代表者宮土田喜三
 南吉田町六〇九 大橋新吉 福富町三ノ七一 佐藤幸助 石川仲町三ノ四九 川北金之助
 吉濱町甲一四 山中商店大森市太郎 青木町三三九 越智善次郎 松影町二ノ八七 沼田政吉
 扇町四ノ一四〇 中原庄三郎 不老町二ノ一七八 秋葉商會持箸伊助 南仲通五ノ八八 東京回漕合名會社
 石川町四ノ一六 宮代昌作 北方町三六二 松永亥之助 末吉町二ノ二五 森井四郎右衛門
 花咲町一ノ九〇 宇野 兼七 南吉田町七〇六 多田倉吉

▲在京組合員

京橋區明石町三一 竹内鐵業加藤甚吉 京橋區東港町一ノ四四號 三幸商會中垣保 龜町區有榮町一ノ四 松昌洋行
 株式會社 總町區八重洲町二ノ一 古河合名會社 日本橋區龜島町一ノ三 寺田 洪一 日本橋區蠣殼町二ノ一 豐島德太郎
 日本橋區北新堀町一八 淺野石炭部 寺井榮次郎 神田區今川小路一ノ一 江戸商會橫田收 神田區鎌倉河岸十三號 加藤爲二郎
 京橋區南新堀二ノ四 阿部 吾市 日本橋區本革屋町五 式會社 窪田四郎 北海道炭礦汽船株式會社 窪田四郎 京橋區船松町四 大倉石炭販賣所
 京橋區大川端稻荷河岸三號 齋藤松司 京橋區南八丁堀三ノ五 二葉商店三木一夫

大正二年十一月十六日印刷
大正二年十一月二十日發行

京濱炭界一百人

定價金壹圓也



編纂者	山野好恭
編纂者	岡田綠風
發行者	山野好恭
印刷者	高橋季吉
印刷所	博文館印刷所

東京市神田區岩井河岸十四號地

東京市小石川區久堅町百八番地

東京市小石川區久堅町百八番地

東京市日本橋區濱町二丁目十七番地

發行所

帝國新報編輯所

電話浪花二〇四三番
振替東京五二〇〇番

東京石炭同業組合

事務所

東京市京橋區五郎兵衛町二二二
電話京橋一八一〇番

橫濱石炭同業組合

事務所

橫濱市壽町一の二〇 (電話二一六五番)

出張所

同 神奈川綿花町 (電話二一〇九番)
子安町

東京日本橋區駿河町一

三井物產株式會社石炭係

電話本局九〇、四一〇〇、四二一八番

東京麴町區有樂町一ノ一

三菱會社東京支店

電話本局三七〇、一〇六六番

東京日本橋區本草屋町五

北海道炭礦株式會社

電話本局五〇三〇、五〇三三番

東京麴町區內幸町一ノ三

石狩石炭株式會社

電話新橋三七二、二六二七番

東京京橋區明石町三一

竹內鑛業株式會社

電話京橋三四五、三四七番

東京日本橋區伊勢町二

奔別炭礦株式會社

電話本局四二八七番

東京京橋區湊河岸二〇

磐城炭礦株式會社

電話京橋八二九、八三〇番

東京日本橋區藥研堀町一七

入山採炭株式會社

電話浪花七九五、七九六番

東京京橋區南新堀町一ノ三

好間炭礦株式會社

電話京橋二八〇、二八一番

東京京橋區北紺屋町二四

王城炭礦株式會社

電話京橋三四〇一、三四〇二番

東京京橋區富島町四

日本煉炭株式會社

電話京橋一二〇五番

東京京橋區入船町三ノ一

磐前炭礦

電話京橋一二七八番

東京日本橋區北新堀町一八

淺野石炭部

電話浪花五八番

東京京橋區船松町四

大倉石炭販賣所

電話京橋二四六九番

東京神田區鎌倉河岸一三

加藤石炭部

電話本局三三八、六七八番

本店

三幸商會

電話京橋九六二番

出張所

中垣保

電話一五六四番

古河合名會社

營業品目

金硫精電銅電被

銀銅 氣精 條銅 覆車電

塊鑛鉛銅銅線線線

目新鹽下傾高煽

尾二尾 目頭尾 山無田 城無煙 田炭二手 炭炭炭炭炭

東京市麴町區八重洲町一丁目
大阪市西區江戶堀南通三丁目
門司市濱町七番地
上海英租界北京路第三號

本店營業部
大阪支店
門司支店
上海支店

船舶 石炭及倉庫業

東京市日本橋區北島町一丁目卅七番地



山下汽船合名會社

石炭部

電話浪花特長三五九〇、特三五九一、三五九二番

東京市深川區大工町五十三番地

電話本所二五八三番

倉庫部

橫濱市駿河町二丁目

(電話七三一番)

神戸市榮町二丁目

(電話特長二〇四六、四〇八〇番)

出張所

門司市東本町四丁目

(電話特一三一番)

▼高田炭は品質優秀にして無煙無臭なるが故に家庭用燃料として近來急激に需用を増加したり而も其價格の低廉他に比類なし

▼高田炭の焚落しは以て火鉢に移す可く以て炬燵に用ふ可し強烈なる火力にて物を煮沸したる後數時間を保つ實に經濟なる燃料に非ずや

東京南千住隅田川驛構内

高田炭礦隅田川賣炭所

電話下谷長二五一九番

▼高田炭は普通無煙炭の記録を破る可き強烈の火力を有し炭質堅緻なるが故に熱度不變にして耐久的なり是れ汽罐、煖爐、乾燥用として理想的也

▼高田炭は礦業所の設備完備し採掘力益々増加せり此際薄利至廉を以て迅速需用に應ず汎く用命を乞ふ

硝子製造業

東洋硝子株式會社

本社 東京市本所區中之郷八軒町三〇番 電話本所五〇番

出張所 東京市本所區柳原町三ノ二番 電話本所一八一三番

九州福井炭
松浦炭
磐城各種炭

大販賣

東京市京橋區南新堀町二ノ四(電話京橋二二三六、二二三七番)



阿部商店石炭部

店主 阿部 吾市

京濱運輸株式會社

本社 東京市京橋區南新堀町二ノ四
電話京橋一〇二三七番
出張所 東京市京橋區上柳原町九
電話京橋二二二三番
同 橫濱市吉濱町甲十四
電話一〇〇一番

田野駒井組回漕店

東京市京橋區本湊町河岸四〇號
電話京橋七五一番

辰澤回漕店

東京市京橋區新船松町九
電話京橋一八六、二八七、三三八番
東京市京橋區新船松町將監河岸五九
電話京橋二六三二、一一八七番

星野回漕店

東京市京橋區東湊町一ノ二六
電話京橋一六六七、一六六八番

東京回漕合名會社

東京市京橋區鹽町一五
電話京橋一〇八四番

各種石炭特約販賣

大川石炭商店

店主 大川久平

營業所主任 鷺尾善司

本店 栃木縣佐野町本町 (電話五四番)
營業所 栃木縣佐野町停車場前 (電話一〇二番)
出張所 前橋市田中町 (電話一二五番)
出張所 高崎市通町 (電話一七一番)
出張所 群馬縣館林町 (電話三二二番)